

# 研 究 紀 要

## 第 17 集

### <特集・六年一貫教育の問題点>

1. 六年一貫教育における人権学習の展開……………社 会 科……1
2. 理科における六ヶ年一貫カリキュラム実施記録とその問題点……………理 科……29
3. 英語科における二年間のとりくみと問題点……………英 語 科……47
4. 美術科におけるカリキュラムの問題点  
—— 週時間 2 : 2 : 1 の題材 —— ……………美 術 科……51
5. 保健室からみた生徒の実態……………健 康 科……53
6. 中学校・技術家庭科における試みの一端……………技 術 ・ 家 庭 科……59

### <個人研究・報告>

- アフガニスタン紀行……………吉 田 裕……65  
高村光太郎ノート その十……………井 田 康 子……1

1975

奈良女子大学文学部  
附属中・高等学校

# 六年一貫教育における人権学習の展開

## 社 会 科

奥 谷 道 夫 ・ 鈴 木 良  
寅 貝 和 男 ・ 松 村 正 樹  
吉 田 裕

1975年度の社会科研究会では、原則として月一回の研究会を開き、社会科教育のなかでの人権学習をどうすすめるかについて意見を交換してきた。

以下に掲載するものは、研究会での討論をふまえた素案にすぎないものであるが、指導案を中心にしているので、今後さらに検討を深めて行きたいと考えている。

本稿の執筆分担は、以下の通り。

- |                                   |         |
|-----------------------------------|---------|
| I 中学・地理的分野における人権学習のあつかい           | 吉 田 裕   |
| II 歴史教育のなかでの人権学習——中学校における指導を中心に—— |         |
| 1. 前近代での学習——部落の成立——               | 奥 谷 道 夫 |
| 2. 近・現代史での人権学習                    | 鈴 木 良   |
| III フィールドワークの試みと人権学習              | 寅 貝 和 男 |
| IV 高校世界史における人権学習                  | 松 村 正 樹 |

## I 中学・地理的分野における人権学習

「インドの貧民（人口の $\frac{1}{4}$ といわれる）の腹の底」「アメリカの黒人やインディアン（人口の10%）の心の怒り」なるものを遠い国の気の毒な物語りとしてではなく、世界はどこへ行っても楽園はなく、どこの国もはげしい苦悩や矛盾の中に息づいている姿として生徒にとらえさせることは、たいへんむづかしいことである。地理の授業は、しばしば定期観光旅行的なものつまり気候—産物—都市名を結びつけてそれを生徒におぼえさせることが主要な内容になりがちである。それらの事項は基礎的な記憶事項として大切なものではあるけれども、地理を学習する面白さは、一人で見知らぬ街に誘い出て、街並や人物の面白さにどこまでも歩き続け、その街へ深く迷いこんでいくごとく、インドのこと、アラブのこと、ヨーロッパのことに生徒自身が興味をいだいていくことではないだろうか。

現実世界で起っている事件や事実を目をむけ、事実を事実としてみつめることに、人権教育の第1歩がある。だが授業ではその第1歩すら充分に行うことはむづかしい。なぜなら事実を正しく深くみつめていくには、定期観光からそれなければならない……。インドのガリガリにやせた少年のあとをつけて貧民街の中へいかななくてはならないのである。そういうことをす

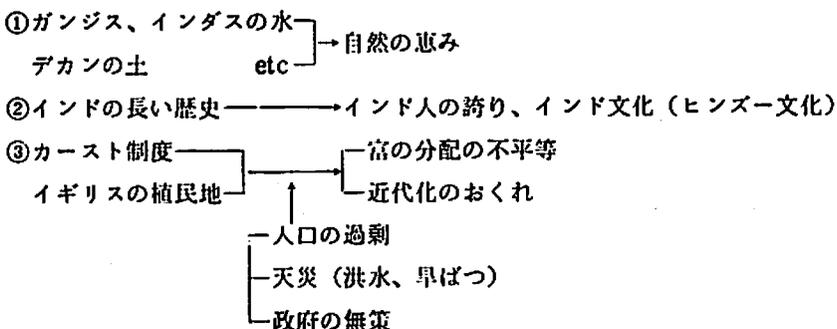
るためには、1つには、授業時間数が絶対的に少なくその面から制約をうける。1つの国に迷い込んだら、定期観光すら途中で断念しなければならない。数的に言えば150ヶ国余りの国を最大限70時間で終えなくてはならない。2つには、資料の収集と整理と作成にだいふ時間がある。どんな資料をどのように扱うか…正に人権学習の要めである。貧しい人たちの立場、圧迫された人や民族の立場に立ったルポや報告はたいへん少ないのである。3つめは定期観光からの脱却には、学習のねらいとその構成を根本的に変えなくてはならない。例えば、インドを教えるねらいは「インドはなぜ豊かで貧しいのか」をテーマにしなければならない。「アメリカは、なぜ繁栄と腐敗が併存しているのか」といった学習のねらいの設定が必要である。そしてこのねらいを追求していく授業構成が必要になってくる。4つには、以上のように観点に立って授業が出来たとしても、中学1年生の精神的発達段階に合っているものなのだろうかということである。

このように考えていくと定期観光ですませた方が授業としてははるかにらくである。私自身そういうものになりがちである。そこでいくつかの問題点を選んでその選んだ問題については定期観光をそれて街にさまよい出て、楽しくかつ深みのある授業をやりたいと思っているのが現状である。その問題点といえば、①アジアの国々の植民地支配からの独立とその苦悩 ②インドの貧困 ③アメリカの人種差別問題 ④ヨーロッパの没落とEC ⑤アフリカのアパルトヘイト、等各州に1つずつ位はあるがその構成が立てられていないものがある。

インドの貧困について試みた授業の構成を最後にあげておこう。

◎テーマ——インドはなぜ豊かで貧しいのか

◎授業全体の構成



◎導入

・「インドとイギリス」（吉岡昭彦、岩波新書）より「インドは訴える」。

・新聞の切りぬき（洪水—飢餓のニュースその他インド特集の記事）

☆この2つを生徒にプリントで配り授業でよませた。——第1時——

☆今まで生徒が持っていたインドのイメージを比較したり、インドの現実に目をむけさせ、インドはなぜ貧しいのかを考えることがテーマとして自覚させる。

◎展開

①インドの農産物、鉱物資源の分配や産出量について講義し、生徒の知識を整理する。

☆インドは決して貧しい国ではないことに目をむけさせる。

②カースト制度について講義するか、生徒に調べさせたものを発表させ不足を補う。

☆職業、結婚、交際まで禁じられている身分差別がヒンズー教の教えにもとずいてインド社会に長く、広く、深く根づよく残っている（インド憲法では禁止されている）こと、それがインドの労働力固定化と不足や富の分配の不平等が起こる大きな原因の一つであることを学習する。

③イギリスの植民地支配について学習をする。

☆イギリスはインドにヨーロッパの文化をもたらし無知からインドを救ったと主張するが、一方イギリスはインドの富を吸い上げ、インドの工業、農業をイギリスのためのものに編成し、インド人自身のためになる工業や農業の発展をおくらせたことをみる。

④人口の過剰や天災がさらにインドの貧困を強烈なものにしている現状を再認識させる。

⑤“インドには餓死者はない”と発表する政府、中間搾取の多い救援活動について現状をみる。

⑥最後に中根千枝のインドルポを読ませる。以上のような構成で行なった授業の生徒の反応はどのようなものか（考査でインドについて考えたことについて書かせたもの）。

①半数近い生徒が、自分はインドに生まれなくてよかった、自分はインドで生まれていたら、くつみがきの少年か、バイシェシェと観光客のあとについていただろう。

②インドがんばれ、インドは自分の手でその貧しさからぬけ出すべきだ、長い歴史を持つインドはそれが出来るぞ、といったものもかなりたくさんあった。

③今まで持っていたインドのイメージと随分ちがったものであった。それにはインドは貧しくてきたないというものとインドは偉大ですばらしい国だと全く2つのちがったものがあった。

④インドは革命を起こすべきだ。インドへ行って持っているお金を全部あげてすぐ帰ってくる、なぜならインドを観光旅行するのはいけないことだ。自分はぜひインドへ行ってみたい。などのユニークなものもいくらかある。

以上のような反応であるが、これらの反応つまりインドについての理解が人権学習という視点からみて充分か不十分なものか、中学1年生という発達段階からの判断では、何とも結論が出せるものでもないと思う。しかし、インドといえば、ジュートとお茶と綿花の産地とその産地名の記憶だけでなく、少くとも、自分(生徒)たちと同じ年頃の少年のなまなましく生きている姿や、無惨に死んでいく姿が脳裡に刻み込まれ、生死について何か心に残ったであろうことを期待するだけである。インドの貧しさやその根に広がっている問題は、2,3時間の授業では決して語りつくせない。

## II 歴史教育のなかでの人権学習 — 中学における指導を中心に —

私たちのめざす人権学習は、すでにのべたように部落問題学習に限定されるものではなく、

社会科全体で、また歴史教育の全領域のなかで、民主主義＝基本的人権の見地から、あつかわれるべきものである。ここでは、前近代と近代・現代史学習のなかで、部落問題をどう教えるかについて、授業案を中心にのべてみたい。前提として、部落問題を教える私たちの基本的な観点をのべておこう。

ア、それぞれの社会の発展段階に即して、その社会のしくみのなかに正しく位置づける。大胆に言えば、部落史を教えることが必要なのではなくて、日本史のなかで部落の問題をあつかうことが必要なのである。その具体的な展開例は、以下にあげるが、ここでは、科学的なあつかい方が強調されねばならない。

イ、以上の立場にたつとき、江戸時代に入って急に差別の問題が登場するのではなく、系統的に歴史の各時代で身分制のしくみが位置づけられていなければならない。また、女性の地位の問題や近・現代における民族差別（たとえば在日朝鮮人問題）などがとりあげられねばならないであろう。

ウ、人権教育の立場からみる時、差別の問題を「いかに差別されてきたか」を科学的に社会のしくみとかかわらせてとらえるとともに、「どのように解放に向ってきたか」をとらえさせることが重要であろう。民主主義的な自覚の成長という主体的な学習を展開したいものである。

## 1. 前近代での学習 一部落の成立一

### (1) 部落成立へのあゆみ

近世封建制の基礎がかためられたのは、戦国大名からは信長・秀吉と引き継がれた支配政策によるもので、ことに豊臣秀吉は検地・刀狩・身分統制令などにより、封建的身分制度を確立したのである。そして、その政策は江戸幕府にうけつがれ、身分の固定化がさらにおしすすめられた。

江戸幕府による近世封建制維持政策の中で支配者の手によって部落がつくられる。最初には城下町形成のため都市でつくられ、ついで農村経済自立化とともに農村内部における分裂強化政策として部落がつくられる。江戸時代初期から中期にかけて、こうした分裂支配政策が強められていくが、被差別身分としての「えた、ひにん」が確立する元禄・享保期は、封建制の動揺が表面化し、それに対応する幕政の改革が実施されるとともに、人民分裂政策をいっそう強化することが必要になったためである。すなわち、幕府財政窮乏の解決策として、年貢徴集の強化、身分制の維持政策として、えた・ひにんを身分制の中に位置づけるものであった。

### (2) 学習指導にあたって

部落の成立の学習にあたっては、上記のような近世封建制の成立とその動揺という歴史の流れの中で、幕府の分裂支配政策によって部落がつくられたことを正しく理解させることがたいせつである。次に「江戸時代の政治と社会」に関する小単元の構成と、身分制度の学習形態についての一例をあげてみる。

## 江戸幕府の政治と社会

(時間配当)

- |                       |    |
|-----------------------|----|
| 1. 江戸幕府の成立            | 2時 |
| (1) 江戸幕府のしくみ          | 1時 |
| (2) 大名の統制             | 1時 |
| 2. 封建制の社会             | 4時 |
| (1) 農民と町人の支配          | 2時 |
| (2) 身分制度のしくみ          | 2時 |
| 3. 江戸初期の対外関係          | 3時 |
| (1) 家康の外交政策           | 1時 |
| (2) キリスト禁教の強化と鎖国へのあゆみ | 1時 |
| (3) 鎖国の完成と鎖国後の外交と貿易   | 1時 |

### 単元の目標

1. 日本の近世封建制の確立は、きびしい身分制度・家族制度の上に成立したことを理解させる。
2. 武士は、被支配層を分裂支配することにより封建支配の維持をはかったことを理解させる。
3. 鎖国は、江戸幕府の支配力強化のための政策の一つの柱であったことを明示する。

ここで大切なことは、社会の基本のしくみである武士と農民との関係をしっかりと教えることである。江戸時代の封建社会が、農民をしぼり取ることによって成りたっていたこと、農民は土地にしぼりつけられていたことを具体的な事例からしっかりとつかませておくことが必要である。

さらに、身分制度の学習にあたっては、封建的な上・下の関係が社会のどの面にも没透し、武士身分の中にも差別があったこと、家族制度とからみあって、女性への差別＝「男尊女卑」の考え方が当然とされたことを、前提としておさえておきたい。以上のことから十分に理解させたうえで、部落差別の果す役割を学習することが、生徒と理解を容易にすると思う。

つぎに、「身分制度」の学習展開例を示してみる。

### 本時の目標

1. 江戸時代の身分制度は、武士による分裂支配のためにつくられたものであることを理解させる。
2. この身分制度は、豊臣秀吉による検地・刀狩などによりうちたてられた身分制度をうけつぎ、強化したものであることを理解させる。

## 学習の展開

### 1. 導入

本時の予告と、豊臣秀吉が行なった検地・刀狩の復習。

### 2. 展開

- (1) 江戸幕府は、身分制度の骨ぐみとして、士・農・工・商の身分に分けたことを知る。
- (2) 士・農・工・商のそれぞれについて明らかにする。さらに、資料を見ることにより、士は支配階級であり農・工・商は被支配階級であることを把握する。
- (3) 士・農・工・商のほか、公家・神宮・僧侶・「えた」・「ひにん」などがあり、「えた・ひにん」は、幕府の分裂支配政策によってつくられたものであることを理解する。
- (4) それぞれの身分の性格を明らかにし、とくに武士が支配階級として、名字・帯刀・切り捨て御免などの特権をもっていたことを明らかにする。
- (5) 「えた・ひにん」が、住居・服装・移動など生活の各方面にわたって、農・工・商よりきびしくしめつけられ、さらに下級の役人として役割を果させられ、このことが武士の支配体制動揺の防止に役立っていたことを理解する。

### まとめ

本時の学習内容の要点を復習、生徒への質問を行なう。そして江戸幕府は、身分制度をうちたてることにより封建支配を徹底させたが、さらに、「えた・ひにん」を分裂支配の道具として使ったことについての理解を確認する。

### (3) 江戸時代後期の部落のたたかい

江戸時代後期に入って、幕政の動揺が強まるとともに、分裂の政治はいっそう強化された。そして、年貢の増徴や冷害・干ばつ・洪水などによる慢性的なききんに悩まされる農民による百姓一揆が多発するようになった。こうした中で、部落民の差別反対の闘争が、たとえば渋染一揆のような形でおこってくる。そして、帆足万里のように、えたも常人と異なるものではないという思想などもおこってきたのである。「百姓一揆」の小單元では、こうした部落民のたたかいについてとりあげておくことが必要である。

## 2. 近・現代史での人権学習

私たちのめざす人権教育は、すでにのべたように部落問題学習に限定されるものではなく、社会科全体、また歴史教育全体のなかであつかわれるべきものであるが、ここでは、近・現代史学習のなかで部落問題学習をどう進めるかについて、授業案を中心にのべたい。

部落問題を学習する基本的な視点はすでにのべたが、近・現代史学習では、とくにその第2点、解放へのめざめ、解放へのたたかいを重視するという点が大切となってくる。

## (1) どこであつかうか

現行の中学・高校（日本史）の教科書では、近・現代史の部分で部落問題が登場するのは、一般に明治維新期の「身分制の整理」の時期と、もう一つは、第一次大戦後の「社会運動の高まり」（水平社結成）の二箇所である。

この二つの時期は、近代日本において部落問題が鮮明にうかび上ってくる段階であるから、この箇所ですり上げることが当を得ていると思う。しかしながら、教科書の叙述には問題点がある。

第一は、たとえば維新期の「身分制の整理」の項では、近代日本での天皇・皇族・華族・士族・平民という新たな身分秩序が生まれたことと、近代日本に部落差別が温存されることとがどう関連しあうのかが明らかでないことである。

「政府はまた、皇族のほかに、華族（公家と藩主）という特別の身分を定めた。しかし、他方では、四民平等をとなえて、武士を士族、農工商やえた・ひにんを平民と改め、名字を持つことを許した。」（「日書」・中学社会・歴史的分野 P 226）

これでは、とり方によってどのようにも解釈できてしまう。

同じことは、水平社結成のあつかいにもみられ、社会主義運動、労働運動、農民組合運動とならんで単にら列されているにすぎない。こうした叙述では部落問題の科学的なとらえ方はできない。

第二は、戦後史における部落問題のあつかいがないことである。たとえば、前掲、「日書」中学社会（歴史的分野）では、水平社運動について、「また社会的・経済的に差別されてきた人々のなかから、差別からの解放をめざして、水平社運動がおこった」（P 293）とのべその脚註に、部落解放運動は戦後も続けられているとし、1969年に「同和対策特別措置法」が制定され、国・地方自治体、国民の責務となったことがのべられているだけである。今日の部落問題にせまる点では、戦後史のなかで位置づけることが必要である。

本校における社会科研究会でも、この点は四年次における「現代社会」であつかう人権教育にかかわる問題であり、十分な検討がなされねばならない。

以上のように、近代・現代史での部落問題学習は、「明治維新」のなかでの「身分制の撤廃」（「四民平等」）の箇所、第一次世界大戦後の「社会運動の高まり」の箇所と、戦後のなかでのあつかいの三つの時期ですりあげることが必要であろう。

そのあつかいは、その時期での基本的な社会関係をとらえた上で、部落問題をこれに位置づけ、解放へのめざめ、前進を重視してゆくことが必要であると考ええる。

## (2) 中学校における「水平社運動」の授業

そこで具体的な例として、中学校における、第一次大戦後の「社会の動き」の学習のなかでの、水平社運動の授業をとりあげ、これまでのとりくみをまとめてみたい。

### a. 内容上の構成

教科書（「日書」）では、次のような構成をとっている。

第11章第一次世界大戦と日本

1. 第一次世界大戦
2. 戦後の世界
3. 日本資本主義の発展
  - 産業の発展
  - 社会の動き
  - 民主々義の成長
  - 文化の発展

上の「社会の動き」の項には、米騒動、労働運動、社会主義運動、農民運動、水平社運動があげられている。

これまでの経験を生かし、私たちはこれをつぎのように構成している。

『3. 日本資本主義の発展 (計7時間)

- (1) 産業の発展 (時間配当1)
- (2) 社会運動の高まり ( " 4)
- (3) 民主々義の成長 ( " 1)
- (4) 文化の発展 ( " 1)

「社会運動の高まり」の構成

- 米騒動と労働運動 ( " 1)
- 農民の運動と社会主義運動 ( " 1)
- 関東大震災、婦人のめざめ ( " 1)
- 水平社運動 ( " 1)』

以上のような構成をとる理由は、日本資本主義の発展と世界的な民主々義の風潮のなかで、米騒動の後、さまざまな社会運動が成長してゆくことをしっかりと学習させたいからである。

b. 前時までのとりくみ

米騒動→労働運動→農民運動→社会主義運動と学習したのち、1時間を取り、関東大震災、婦人運動のおこりを授業した。

その板書事項は次のとおり。

◦ 関東大震災  
 大戦後の不況——国民の生活難  
 1923年 関東地方に大震災  
 { 東京市の約9割 かい滅  
 被害 約100億円  
 { 死者・行方不明 約10万6千人  
 朝鮮人暴動のデマ 数千人ぎゃく殺  
 社会主義者(8人)殺される

○婦人のめざめ

男女平等でない世の中

資本主義の発達——働く女性ふえる「職業婦人」

{ 女工（紡績・製糸）「女工哀史」

{ 女教師・車掌・看護婦など

{ 政治に参加できない

政党参加禁止・演説会もゆけない

{ 高等教育がうけられない

国立大学に入れない

青鞥社（1911）

平塚らいてうら。

新婦人協会（1910）

平塚らいてう、市川房枝ら。

婦人参政権の運動

◎関東大震災をこの節に入れることは、さまざまな問題があるが、とくに朝鮮人にたいする民族差別を学習することに主眼をおき、授業を展開する。ここでは、当時殺されかけた在日朝鮮人の証言を教師が読み、なぜこうした事件がおこったのかを生徒に考えさせる。（たとえば「民族の<sup>いばら</sup>禍」日朝協会豊島支部刊などに生存者からの聞きとりがのせられている。ただし、最近はやりの残酷物語にしては困るので、教材化にあたっては十分に配慮する。）

デマの出所、デマのひろがり、虐殺の拡大などむずかしい点が多いが、大震災によるやり場のない不満が朝鮮人にしむけられたこと、朝鮮人べっ視が、植民地化されているなかで作りあげられてきたことに気づかせたい。

◎つぎに、婦人運動のおこりについて。

生徒たちにとって、戦前社会での婦人問題といっても、まったくわからないのだから、この部分の授業でも、さまざまな工夫が必要だと思う。（たとえば、今の世の中で、男と女は平等かときいてみると、はっきりした答えをもつ子はごくまれである。平等でないと答えた生徒でも、なにか束縛されているように思う、損をしているみたいだというのが普通だとおもう）。戦前の日本での、男女の不平等を、家族制度、高等教育をうけられないこと、（治安警察法によって）政治に参加できなかったことなどを具体的に解説することが必要である。そして、平塚らいてう、市川房枝らによって1920年に新婦人協会が発足し、婦人参政権の運動などが展開されることをのべる。

以上のように、関東大震災にみられる朝鮮人にたいする民族差別、つづいて、婦人のめざめを学習した上で、水平社運動の授業に入ることになっている。このように配列する意味は、第一次大戦後の社会運動の高まりが、民衆の自覚、民主々義をめざす運動への

発展をもたらしたことをしっかりとおさえ、さまざまな不合理・差別とのたゞかいをうみだすことを学ばせたいからである。

c. 「水平社運動」の授業

○準備する教材

西門民江詩集『ひとつのいのち』（1975年部落問題研究所刊）から四篇の詩。（「にわか雨」、「四年生になったら」、「悲しい雨」、「解放運動の上に」）。資料として、のちに掲げる。

◎授業のねらいと留意点

- (ア) 差別のおこる原因を当時の生活のなかからつかませる。職業上の差別から、部落は草履作り、下駄直し、皮革などの職業につかざるをえなく、靴製造などでは大資本による圧迫がおこる。また、小作貧農としてわずかの小作地にしがみつかざるをえない状態を前掲の西門民江詩集から考えさせる。
- (イ) 水平社運動が奈良からおこってくることに注目させる。
- (ウ) 水平社運動のめざした人間の尊さの主張とその誇りを理解させたい。すべての人間が水の面のように水平・平等になることをめざし、人格の尊厳をめざした点を授業の中心におく。
- (エ) 水平社運動がしだいに、学校・軍隊などの社会のしくみにいどみ、民主々義を確立する運動に発展したことをのべる。また、こうした運動が今日の民主々義をもたらしたことにふれる。
- (オ) 西門民江詩集からの詩は、生徒によませる必要な解説をする。

◎板書事項

|                   |
|-------------------|
| 水平社運動             |
| あたりまえとされた部落への差別   |
| { 学校・軍隊の中で        |
| 貧しい生活             |
| 職業上の差別 草履作り・皮革    |
| 大資本の圧迫            |
| 貧しい農民             |
| 奈良の青年 西光萬吉・阪本清一郎ら |
| 水平社のよびかけ          |
| 1922年 全国水平社       |
| 「人の世に熱あれ・人間に光あれ」  |
| →のち、民主々義をうちたてる運動へ |

◎資料のあつかい

西門民江氏は、大和郡山市の部落に生きぬいてきた今年64才の方で、生いたちから今日までを思いおこして、これを詩につづられた。

(ア) 「にわか雨」

にわか雨は ほんとうに悲しい  
二人に一本の<sup>蓑</sup>備えがさが  
廊下の<sup>蓑</sup>に 行儀よくならんでいる  
出席簿の順に名前を呼んで  
かさを渡す先生  
残りのがさが気になって  
落ちつかぬ <sup>部落</sup>の子  
これでおしまい  
あとは だれかにきせてもらいなさい

冷たい先生の声  
急に悲しみがこみあげてくる  
雨の中の十八町の道は つらくて 遠い

なんで うちの<sup>部落</sup>の子 みんな  
出席簿 ビリなんかなァ  
もっと早かったらええのに

雨よ 降らんといて  
かさが ないさかい  
泣いている 女の子

それでも <sup>部落</sup>の子はつよい  
雨には負けたくないの  
けれど  
けれど  
やっぱり かさがほしい

<注> 十八町 = 1980メートル

生徒には、なぜ部落の子が「出席簿ビリなんかなァ」というところがわからない。そこに差別があったといわれても、なかなか納得しない。ここを展開してゆくことが大切だと思う。この詩から、学校における不合理な差別の実例を学ばせたい。

(イ) 「悲しい雨」

<sup>部落</sup>にとって 一番悲しいのは雨  
<sup>梅雨</sup>の来るのは 一番こわい  
土方には行けない

草履<sup>ぞうり</sup>表はしめって 仕事が出来ない  
雨は 部落<sup>ぼくらく</sup>を どろんこの中につき落とす  
雨は 部落<sup>ぼくらく</sup>の生活を びちゃんこに押しつぶす  
そして  
雨は 眠る時だけの幸せをも奪う  
ある限りの道具を並べた  
畳の上に  
重く 低く 心にしみる 雨もりの音  
その中で  
大人も子どもも 坐ったまま 朝を待つのだ  
悲しみも苦しきも  
通りこした部落を  
ここまで追い込んだのは  
いったい 何だろう  
ただ 雨のせいだけなのだろうか

この詩から、部落の生活を学ばせたい。大切なところは、最後の五行。ここでは、生徒たちに「いったい何だろう」ともう一度問いかけ、教師の側から結論をおしつけないようにしたい。

(ウ) 「四年生になったら」

四年生になったら  
急に淋<sup>しみ</sup>しくなった  
安さんは 子守りに  
よっちゃんは でっち奉公<sup>ほうこう</sup>に  
女の子は 草履<sup>ぞうり</sup>あみに  
みんなみんな 大人みたいになった  
かわいそうな 部落<sup>ぼくらく</sup>の子  
あさちゃんも ちえも  
一日も来なくなった  
きっと 小さな小屋の中で  
ランプの切れる夜も  
小さい足になわをかけ  
小さい手を動かし  
小さな草履<sup>ぞうり</sup>表を繕<sup>つくろ</sup>んでいるのだろう  
うちも そうやけど  
うちはまだ 幸せ  
学校に行けるだけでも

これは、前記(1)、(2)の詩から十分にわからせることができるであろう。

(二) 「解放運動の上に」

かってなかった変化が来た  
私の村も ゆり動いた  
長い 苦しい眠りから覚めた  
闘士は 西に東にとんだ

もう負けるもんか  
私たちも同じ人間だ

血のさけびの前に  
「政治」がしぶしぶ重い腰をあげた  
やっと 夜明けが来たように  
かすかではあるが 陽がさした

コラ！ だみ声が頭の上で破裂する  
はだかん坊は家の中にとびこんで  
ふるえ上がる  
村におかれた<sup>駐在所</sup>の  
によっさんのような いかめしい巡査  
だんなさま かんにんしたって  
もうーぺん もうーぺん  
ペコペコ 頭を下げる  
ばさばさ髪の母親  
夏でも 着るもんの心配 一つふえた  
もう はだかでいられへん

血を流した 涙を流した  
そしてかちとった 洗眼所  
破れた着物のすそを ひきずりながら  
杖にすがって 列を作る  
——もう おんの目あかんけどなッ  
ちっとでも 見えるようになってくれたらなッ  
淋しい笑顔だ  
しわだらけの顔だ

無料診療所もできた  
医者に みてもらえる  
くすりも のめる  
うれしいなァ  
よろこびが 体全たいにあふれてる  
せんせさま おおけに おおけに  
ただ一つおぼえた——  
せんせさま おおけに おおけに  
何べんも何べんも おおけに おおけに

<注> によっさん=仁王さま

この詩は水平社運動によって生じた部落の大きな変化を語っている。ある意味で非常にむずかしい内要であるが、実際に授業をしたところからみると、生徒はわりあい理解できたように思う。

とくに難解なのは、三連『「政治」がしぶしぶ重い腰をあげた』の部分だが、これは生徒に質問し、答えさせたい。

つづく四連は、これまたむずかしい。しかし、文学の授業ではないのだから、全体としてのイメージを大切にし、あまり内容の解釈にとらわれないようにしたい。

#### ◎授業の展開

以上のような授業案で実際に授業をした記録は別の機会に発表したいと思うが、西門民江詩集のもつ迫力のためか、生徒たちは熱心にとりくんだ。気がついた二、三の点のみをのべておこう。

(ア) 板書は、詩を読ませ、発問への答えや疑問に答えながら行うようにしたい。

(イ) この授業の主題について

さきにものべたように、この授業の中心は水平社のめざした高い理想、水平・平等の思想を理解させることにおきたい。

詩の「解放運動の上に」にも、「同じ人間だ」とする誇りがのべられているが、さらにすすんで、不当に差別する側がみずからの人間をきずつけるものだ、という点に気づかせたいと思う。

ヨーロッパの市民革命で学ぶ自由や平等の本当の意味がここにあることを抽象論でなしに考えさせることはきわめて困難だが、やりがいのある内容である。

そこで水平社宣言のうちからの「人の世に熟あれ、人間に光あれ」というよびかけを板書し、上の内容を説明した。

この点はやや理くつに走ってしまったきらいがあるので、十分に検討したいと思う。

(ウ) 最後のまとめとして、板書事項の「民主々義をうちたてる運動へ」のところでは、福岡連隊事件（1926年）などを念頭におきながら、初期の糾弾闘争から政治上、

社会上の民主々義を要求するたたかいに発展してゆくことをおさえる。この点は、あまり詳細に展開することはしていない。

以上が中学校における「水平社運動」の授業についての、粗雑な素案と若干の問題点の指摘である。

### 3. 高等学校「日本史」での「水平社創立」のあつかい

基本的には中学校でのねらいと変るところはないか、生徒の発達段階からやゝ高度の内容を展開する。

参考までに、本年、高三で実施した授業の指導案をかゝげる。

社会科（日本史）学習指導案

#### 「水平社の創立」

##### 1. 本時の位置

三省堂「新日本史」第11章 資本主義の発達と近代文化の成長

1. 資本主義経済の発達と大陸進出
2. 政党政治の発達と資本主義経済の成熟

◎第一次護憲運動

◎第一次世界大戦と日本

◎民衆運動の高まり

- 米騒動
- 労働運動の発展
- 社会主義政党の成立
- 農民運動の発展
- 婦人の自覚
- 水平社の創立

◎政党政治の発達

##### 2. 指導の目標

- (1) 部落解放運動が第一次大戦後の世界と日本の民主々義の成長の中からうみだされることをつかませる。
- (2) 当時の社会のしくみの中で、部落差別のあり方をつかませる。
- (3) 水平社の運動がめざした輝かしい目標、人間の尊さの主張をつかませる。

##### 3. 指導上の留意点

- (1) 水平社の創立が当時の民衆運動の高まりから生まれることを、米騒動や当時の文献をつかいながら具体的につかませたい。
- (2) 「人間の発見」の意味を考えさせる。
- (3) その後の水平社運動の発展についてもふれる。

##### 4. 準備する教材

「よき日の為に」（抜すい）、「水平社宣言」、西門民江詩集「ひとつのいのち」から（前掲）。

## 5. 導入と展開

- (1) 米騒動と原敬内閣の成立を復習しながら、民衆のもつ力の自覚にふれる。
- (2) 労働運動・農民運動・婦人運動の成立から、人間あつかいされていなかった人々の自覚を復習する。
- (3) 資料「よき日のために」を読ませて、水平社の結成準備について解説し、同時に水平社運動のめざした目標について考えさせる。ここが指導の中心であって、水平社運動の高い理想をしっかりとつかませること、つまり、すべての人間の平等と尊敬すべき人間の発見にあったことを強調する。
- (4) 「西門民江詩集」から、当時の差別の実情をつかませる。
- (5) 初期の個人糾弾を中心とした運動から、民主々義社会をめざす運動へと発展することを、実例で説明する。
- (6) 水平社の主張が、華族制度の廃止など、今日の日本国憲法に具体化されていることにふれる。

## 6. 板書事項

米騒動・民衆の自覚  
奈良の青年（西光万吉、阪本清一郎ら）  
燕会—水平社結成のよびかけ。  
「よき日のために」  
1922年全国水平社。水平社宣言。  
天皇制の下であたりまえとされた差別  
軍隊・学校などでの差別  
貧しい生活——職業上の差別  
貧農——地主制の下で。  
水平社運動の発展  
初期の個人糾弾——民主々義社会の実現へ。

以上

### 資料1. 水平社創立趣意書「よき日のために」（抜すい）

水平社創立趣意書「よき日のために」は、1921（大正10年）年末にだされたもの。西光萬吉の書いたものといわれる。ここには、水平社結成をめざす高い理想がうたわれている。

ここでは、教材に使う目的から、漢字、かな使いをあらため、句読点も訂正した。また、生徒に理解できないと思われる漢字にルビをふり、また語句の解説を欄外に註記した。この資料は、雑誌『水平』の第一号より重要部分と考えられるところを抜すいした。

「われらの中より

人間はがんらいいたわるべきものじゃなく尊敬すべきもんだ——衰れっばい事をいって人間を安っぽくしちゃいけねえ、尊敬せにゃならん、どうだ男爵ノ人間の為に一杯飲もうじゃねえかードン底のサチン。

（註1）

われわれも、すばらしい人間である事をよろこばねばならない。

われわれは、すなわち因襲的階級制の受難者は、今までのように尊敬すべき人間を安っぽくするような事をしてはいけない。いたずらに社会に向ってつぶやく事をやめて、われわれの解放は、われわれ自身の行動である事に気付かねばならない。われわれは世間のいわゆる同情家の——同情はする、しかし汝のひがみと不衛生な生活からぬけてこい——というごとき遊辞には耳をかすものではない。

それは、プロキュストの鉄の寝床だ。旅人の体が、そのベッドより短い時はひきのばす、長過ぎた時は切りとってしまうのだ。彼はとうてい助けるものではない。又彼等のあるものは日本のネツダーノフだ。おせっかいな、おめでたいロマンチック・リアリストだ。そんなものにいつまでも相手になってはいけない。われらの中へ——というのを、われらの中より——とあらためねばならぬ。

われらの中より——よき日の殉教者よ出でよ。

#### 夜明け

かのダヴィドの共和祭典案に、行列の最後に、軍隊が百合の花をまいた毛氈でおおい、王や貴族のいろいろな記章をのせて、そして——平民よ、常に人類社会に不幸をもたらしたものはこれである——と記した車を引いて行くのがある。しかしわれわれが——受難者よ、つねに人類社会に不幸をもたらしたものはこれである——と記した車を引いて歓喜する日、それは何時だ。

それは近い、それは遠い、その論議は無用である。それを決定するものは、ただわれわれの戦闘の意気と実行の哲学だ。

起きて見ろ——夜明けだ。

われわれは長い夜の憤怒と怨恨と呪咀とやがて茫然の悪夢をはらいのけて新しい血によみがえらねばならぬ。

今、インフェルノからパラジンへの静めの阪を駆せのぼるのだ。

(註2)  
全国内の因襲的階級制の受難者よ。

寄って来い——夜明けの洗礼を受けるのだ、よき日の農朝礼讃を勤行するのだ。

起きて見ろ——夜明けだ。

われらはただ、無意識に社会進化の必然におし流されていた。われらのある者は、ただばく然と今日の境遇が何とか変らねばならぬ——そして変るだろうという予感をもっていた。しかし、それがどうして変るのか、またどう変えねばならぬかがわからなかった。よしいくらかそれがあっても、少なくとも自分から新境遇をきたらせるために、闘おうとはせなかった。

私どもは、この意見の交換からいっさいの準備のできた水平社の事業が生れるとは思いません。私どもはこの事業が生れ出るのに、必須の有形無形の条件を準備してこの事業に道を開く事につとめるのです。なお私どもは、私どもの会合によって、よき日を信ずる人々の間に永続的の合意をむすびたい、そしてこの結合から、全国内の協力になる水平社の組織の草案と、さらにその運

動を生み出させたいのです。

私どもは、われわれは疲れはてた時代の薄い、そして細い反映である憂うつな人間のように、何事もいわれてしまった後だ、われわれはあまりに遅く生れて来た、などとはいわない。何事もまだ新しい社会のためにいわれてはいない。何事も今からいわねばならないのだ。さあ、みんな仕事にとりかゝろう、というロオマン・ロオランのような意気込みで、この運動を起さねばならぬと思います。私どもはあきらめの運命より闘争の運命を自覚せねばなりません。実に何事も今からいわねばならないのです。おたがいによき日の仕事にとりかかりましょう。

(註1) ゴリキー『どん底』からの引用。

(註2) インフェルノは地獄、パラジンは天国のこと。

### III フィールドワークの試みと人権学習

昭和46年よりはじめた高一地理授業における野外調査を中心とするグループ学習も、この3月で満5年になる。毎年、高一の生徒諸君にかなりの時間的負担をかけて課してきたこの試みも、いよいよ今年4月からはじまる「現代社会」の中でどのような位置付けをすべきかを総括する時期にきたようだ。

野外調査を中心とするグループ学習は、ともすれば暗記科目に陥り易い「地理」という教科の中で、とくに奈良県の抱えている保存と開発の問題、東部および南部山間地域の過疎の問題、それに加えて明日香、今井という奈良の代表的な保存問題を地域の中にかかえている二地区をえらび出し、この四つの課題の中から、すべての生徒が各々選択した一つをテーマに、それぞれ同じテーマを選んだ者がグループをつくって共同研究にとり組み、集団の中での問題解決能力を身につけさせ、同時に、いろんな地域社会との接触を深めることによって、社会性を養うことを目標において実施しているものである。なお50年度入学高一の生徒からは、従来の反省点のうち、とくに調査対象が遠方になるため時間と費用の面でかなりの負担のかかる過疎地域をはずし、近鉄線で生駒-西大寺(奈良)-八木を結ぶ沿線の範囲の地域に限定した。従って調査内容も保存と開発の問題を正面に据え、それに昨年やらなかった今井を今年は実施した。

テーマは6月にあたえ、各自でしらべる地域を考えさせたが、3クラスによって多少の差があったものの「大和郡山」、「平城ニュータウン」、「田原本町」および「今井」が主たる対象地域となっている。

昨年の紀要で述べておいたこの学習面での成果と問題点については、今学年の中でどこまで生かされたかという問題は、現時点では各グループの大半がアンケートを集約している段階であり、充分なこととは言えないが、「生徒がテーマをもって実際に地域に入中でいろいろな問題を見つけて」きていることは事実だし、実際生活の中からいろいろな学びとらせるという点にこの学習法の成果がある。それに、さまざまな生活を背負った人々と接触することも、これは後述する人権学習にも関係する重要な点ではなかろうかと考えている。

一方、問題点は、やはり、時期的に追いつまれないと中々動きだせない(この寒い冬空の下

でアンケートを配り、回収してまわることの何とつらいことか、)ということで、この学年についても夏休みや秋の気候の良い頃に動かなかった点があげられる。原因はいくつかあるが、その最大のもは学園祭(毎年9月下旬)にはじまる秋季のいろんな行事の方に手をとられることであり、特に夏休みは学園祭の準備、各運動クラブの合宿などで、グループの者が全部集まれる時が少ないなどの理由から作業が進まないようである。今一つは、指導者の方が、一応、昨年の社会科研究紀要で成果及び問題点などを整理できたということから、もっぱら講義に重点をおき、従来ほどフィールドワークのための相談の時間をとらせなかった点もある。

なお、昨年指摘したグループ学習への参加を嫌がる生徒の問題も残された。とくに一部には、熱心な生徒にまかせきりにして自分はさぼりをきめこむ者が目立ったので、この点は再三厳しく注意したが、一方では、参加はしているのだが、自分は一体何をやればよいのかがわからない者、即ち、何ら問題をたてることのできない者が、とくに学力の低い生徒の中にみられ、こうした形<sup>がた</sup>だけ参加している者の問題をどうするかが一つの課題としてでてきている。またグループの人間関係がうまくいかなかったり、グループ学習になじめない性格の生徒の問題なども今年も課題として残されそうである。

こうしたさまざまな問題は、何度もグループディスカッションを重ねる中で解決してゆくものもあれば、授業の枠の中だけではどうにもならない日常のH.R活動からくる問題も含まれている。

一方、このグループ学習を人権学習としてどうとりあげるか、も大きな課題である。昨年発行した社会科研究紀要(1975年版)で、菟田野町を調査したグループが、町内の同和地区に入り、地区住民とのインタビューやアンケート調査に基いて、部落産業と同和問題という観点からのアプローチを試みているが、彼らの問題意識はやゝ大段に構えたところもあるが、岩崎地区における部落産業の近代化の問題についてはかなりの的を得た見方ができていたのではないかと思う。

なお、このグループは、はじめから部落問題を主題に掲げて菟田野に入ったのではない。むしろ菟田野を調査していく中で、未解放部落である岩崎の問題はさけて通れないことを知ったのである。そして、岩崎の人たちの話をいろいろ聞く中で、部落問題の重要性を直<sup>に</sup>感じ、隣保館をたずねたりグループでのディスカッションで討議を深め、それらをまとめてクラスで発表する中で人権問題としての部落問題の重要性がわかってきたと思う。このグループの発表は、昨年度全ての研究発表の中でとくに聴いている生徒にアピールするところが大きかったようで、発表のあと、拍手を受けたのはこのグループだけであった。

人権学習はむしろ部落問題だけが全てではない。地域に入って行けば、さまざまな困難な生活を背負っている人々に出会い、話を聞けるはずである。その中で、どこまでそれらの内容を自分たちのものとして理解でき、そしてそれを皆に訴えることができるかが大切なのである。人権学習をたんなるスローガンの学習に終らせないためにも、いろんな角度から、いろんな場所に出かけて行き、部落住民や中小企業に働いている人、農民の声、地場産業を守っている人々の要求などを素直に聞いてくる経験と、それらの経験の何分の一かでも自分のものにでき

るように、グループの討議の上で体系化させていくことができるようになれば、フィールドワークにおける人権学習は成功したと言えるのではないかと思う。勿論、いっきよにこの事ができるほど問題は簡単ではない。第一、生徒の生活体験と社会の諸問題の間には、すぐに結びつけられるような根の浅い問題はほとんどないからである。要は、生徒が地域へでてゆく中から、社会のさまざまな問題の一端を知り、社会に対する科学的認識を深めて行く過程の一つとして我々は理解すべきだと私は考えているのである。

#### <参考資料>

##### 「岩崎の皮革産業と同和問題」

(「社会科研究紀要 1975年版」より)

##### 6. 岩崎の皮革産業と同和問題

岩崎地区は人口約 1300 人で、菟田野町では古市場に次ぐ大きな地区である。しかし農村でありながら農地を持たされなかったことや、土地自体がやせていることのため現在では皮革産業によりこの地区の経済をささえている。

皮革の仕事は明治の中ごろからおこなわれるようになったが、当時は極めて規模も小さかったらしい。しかしその頃、現在の皮革産業の基盤がつくられたともいえる。

昭和30年以後都市部の業者が都市での生産に困難を感じ、皮ナメシ工程を岩崎地区の業者に下請けさせるようになった。いろいろな問題をかかえながらも皮革という地場産業を定着させた要因として、このこともあげられよう。

当然そこには立地条件という問題がでてくる。しかし岩崎は非常に水利にめぐまれている。又、古くから皮革職人として他府県に働きに出ていた人が存在する。このような点から、皮革産業には最適の場所といえそうだ。

皮革産業といっても、鹿セーム革製造業と毛皮革関係の2つに分けられる。前者はまた白皮仕上げとセーム仕上げによって商品が異なり、白皮仕上げの場合は、武道具、ピアノクッションとして使用され、セーム革仕上げの場合は、自動車用セーム、セーム手袋、袋物等に使用される。後者の毛皮革関係はコートの加工に使用されるのがほとんどのようだ。

岩崎では今述べた皮革産業に密接な関係を持つ大きな問題がある。それは部落差別である。皮革工場が住宅と同じところにあり、悪臭、汚水などが生活環境悪化の原因ともなっている。

これら岩崎の生活環境に差別の実態があるのだ。生活環境の悪化が住民の文化意識を低下させたりもする。現在インタビューでこのことを尋ねると大半の人が衣食住と工場との分離、工場集団化、近代化を望んでいた。そして子供たちには絶対に差別される苦しみを味わわせたくないという声も非常に多かった。親として我が子に対する当然の気持ちであろう。青年団の人たちもそのことについて、時間はかかるかもしれないが同和教育を通して子供たちの意識を変革していきたい、そうすることによって部落差別もなくなるだろうと言っている。

それでは岩崎地区の人々の意識を考察してみよう。(これは私たちの配ったアンケートの結果に基くものである。意識調査の考察の項参照) まず「菟田野町民であることをどう思うか」という設問に対して、「誇りに思う」と答えた人が21%と最低、「あまり好きじゃない」と答えた人

が17%で2番目に多い。「誇りに思う」という理由は45%が人情が厚いということであり、「あまり好きじゃない」という人は38%で施設が少ないということを経由している。これは菟田野町民であることを尋ねたものであるから直接には部落問題と関係はないかもしれない。だがどこかにはそういった意識があるようだ。次の設問は「菟田野町を出ていきたいと思ったことはあるか」ということで、「ある」と答えた人は35%で最高、「ない」と答えた人は39%で最底という結果になった。これは明らかに皮革産業を敬遠する人、特に16才から20才までの人が多いことを示している。理由はたくさんあったが広い意味で生活に不便を感じるというのが比較的多かった。この2つの設問を合わせて言えることは岩崎の人たちは今の地区のありかたに満足していないということだと思う。それでは次に今後の岩崎そして菟田野に課せられたいくつかの問題について考えてみよう。

まず生活環境の改善である。対策としては先に述べたように工場の集団化、団地化、協業化あるいは専用排水路の設置等があげられる。町当局としてもそれには最善の努力を傾けているようだが実現にはかなり困難がある。「簡易水道の貫通」「下水施設の完成」と計画は決定しているのだが、用地はどうするのか、組織の形態はどうなるのかなどが問題になる。工場を集団化するといっても一つの会社のようにするのは不可能だし、そんな必要もない。話によれば家々には製造の過程でそれぞれ独自の方法を持っていて、そこには昔の職人気質みたいなものがあるという。そういったことも工場集団化を促進できない原因の一つになっているのだろう。この際これまでとは違った地点から岩崎の将来を考える時が来ていると思う。工場がひとところに集れば汚水処理もやりやすくなるし近代化して働きやすくなれば若い人たちの皮革産業に対する見方も変わると思えるのだが…。

それから問題となるのは出来た製品をいかに売りさばくかである。特定の業者と契約しているところもあるが大半は一般の業者によって安くされて売られているのが実情のようだ。これでは結局損をするのは岩崎全体である。協同組合の今後の大きな課題であろう。また市場拡大にも積極的に取り組むべきだと思う。今の若い人たちが自分たちの手で皮革産業を改善させていくなら大いに発展するだろう。もちろん同和対策事業としての行政からの働きかけが十分行われなければならない。

最後は同和問題についてである。「部落解放を全町民の手で」というのが菟田野町のモットーのようだが実際には不十分な点もある。岩崎地区以外の人の中には岩崎をなんとなく偏見をもって見ている人も少しはいると感じたからである。学校で教える同和教育をあまり歓迎していない人がみられるのもそのためだろう。青年団や部落解放同盟などの活動とともに、社会同和のとり組みを深め、町民の意識の変革を促す必要がある。菟田野町の中でさえもこんな差別があるようだったらいつになっても部落は解放されない。確かに部落解放への道は前途多難かもしれない。しかし今我々の世代がこの問題を解決していかなければ誰が解決するのか。時間がかかり早急な解決はいろいろ困難もあるがやらねばならない。部落解放は菟田野町のみならず日本の民主主義発展の根幹となるものだから、そのための学習を我々は地道ながらもつづけていきたい。

## Ⅳ 高校世界史における人権学習

### Ⅰ. 黒人と南北戦争（指導案 2～3時間）

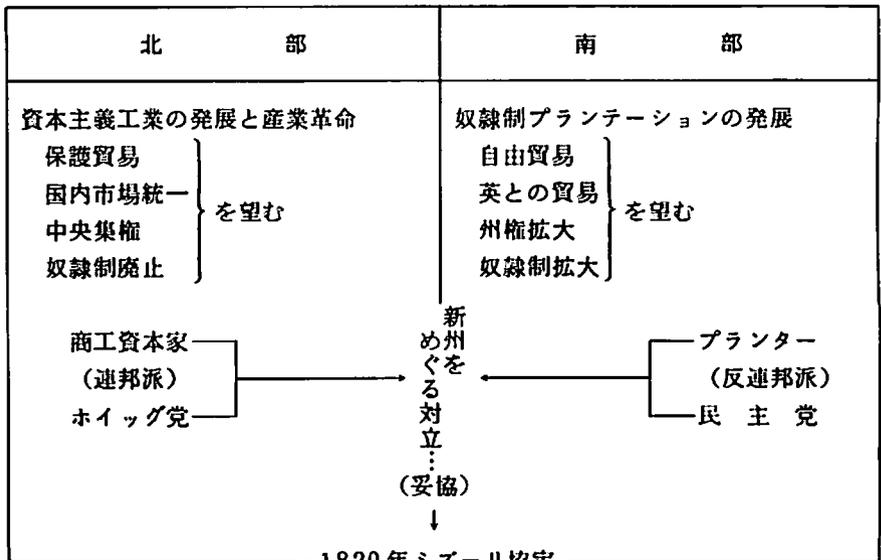
#### 1. 復習をかねた導入

- (1) 合衆国憲法制定のとき対立した二つの立場は？
- (2) この立場はそれぞれどのような勢力・階層の利益を代表していたか？
- (3) 独立後、南北戦争までの間どちらの方が優勢だったか？（年表を使ってその間の大統領の所属政党をしらべさせる。）
- (4) 独立後の奴隷人口の増加ぶりを見る。（年表についた資料で）——これと政界での二つの派の勢力関係はどうつながるのか？

#### 2. 時代の流れに沿った主題の展開

##### (1) 内戦勃発までの北部と南部

- a. 独立後の合衆国領土の西方への拡大を見る。（地図を使う。）
- b. 新しい州の成立→自由州か奴隷州か？
- c. 北部と南部の対立点（質問と説明によっておよそ下のようにプリントの空欄を埋めていく。）



- d. 南部の黒人奴隷の動向——逃亡や反乱がふえたことを、プリントの「地下鉄道」の地図を見せたり、ジョン・ブラウンの乱を説明したりして話す。
- e. 足もとがあぶなくなったプランター勢力がまき返しをはかる。→カンサス・ネブラスカ法案（内容を説明する。）
- f. この法案を阻止するための統一戦線＝共和党の結成→リンカーン当選→南部11州の合衆国離脱→南北戦争おこる。

(2) 戦中から戦後にかけて

- a. 開戦後、黒人はどんな動きを見せたか？——脱走、北軍への参加、（戦死者も多い）北軍のための労務奉仕など。
- b. リンカーンの演説の一部（読んで聞かせる。）

「この戦いにおける私の最高目的は連邦を救うことであって、奴隷制を救うことでもこわすことでもない。もし一人の奴隷も解放せずに連邦を救えるものなら、私はそうするであろう。」

- c. それでは一体、奴隷解放宣言は何のために出されたのか？（時間をとって考えさせ、意見を発表させる。）
- d. 戦後の南部——「再建」の時代  
反連邦派政治家の公職追放、公民権法、黒人の選挙権とりあげ、秘密結社（K. K. K. など）の横行。どうしてこうなったのか？
- e. プリント（ジュリアス・レスター：「奴隷とは」から抜粋した黒人の手記）を読ませる。

「リンカーンはおれたちを自由にしたことで称讃を博しましたね。でも、ほんとうに彼はおれたちを自由にしましたかね？ 彼はおれたちに、おれたちだけで生きていけるための機会は何一つ与えてはくれないで、おれたちに自由を与えてくれたんですよ。そりゃリンカーンはおれたちを奴隷だったころの何もない困った状態から救い出してはくれましたがね。でも、だからといって、奴隷だった時と大してちがいはないんです。」

- f. 「解放」後黒人の状態はどう変わったか？——奴隷ではなくなったが——失業、シェア・クロッパー、低賃金労働者。貧困と人権差別。

3. まとめ

(1) 南北戦争後の資本主義の躍進

共和党右派と民主党が手をにぎる。共和党政権のもとで資本主義が急速に発展——19世紀末には帝国主義の段階へ。

(2) 資本主義と黒人問題

- a. 黒人はなぜ完全に解放されなかったのだろうか？
- b. 黒人の貧困、人権差別が残ることはだれにとって都合がよかったのだろうか？
- c. 黒人が完全に解放されなかったにもかかわらず資本主義がめざましく発展したことをどう考えたらよいか？
  - a、b、c、の三つの問いは性急に答えを求めめるのではなく、この授業を出発点

として、これから先じっくり考えていくためのテーマとして生徒にあずけておく。

## Ⅱ. 生徒の反応

テストの時に、授業ではじめて知って驚いたこと、疑問点、もっと知りたいと思うことなどを書かせている。上記の授業については、「リンカーンがあのような考えで奴隷解放をやったとは全然知らなかった。」「もったりっばな人だと思いこんでいたのに、幻滅を感じた。」「地下鉄道についてはじめて知って、そのアイディアと組織のすぐれていることに感動した。」「南北戦争のころの共和党と民主党のちがいはわかったのですが、今の共和党と民主党のちがいはどこにあるのですか？」などにまじって、「人間はやっぱり社会の大きなわくにしばられて生きているから、僕が南部の白人だったらやはり奴隷制度を守るために戦っただろう。」というのもあった。別に生徒に輪番で書かせている「世界史授業日誌」にあらわれた反応を捨ってみる。

「7月10日 木曜日 高3 M(男)

まずリンカーンさんですが、彼は奴隷制に反対はしているが、南部の奴隷制にはとくに反対せず、それが北部に及んでくることに反対だったようだ。つまり強硬な廃止論者ではない。ただ彼はアメリカの統一を守ることがだけが目的で……奴隷解放宣言は黒人を戦争に利用するための手段にすぎなかったことに反感を感じた。そんな北軍のために戦った、祈った黒人たちノ

教科書によれば、『奴隷解放宣言が発せられ黒人にも市民権が与えられた。ここに合衆国の統一と独立宣言に述べられた自由平等などが実現した。』とあるが、教科書とはほんとうに不明確なものだ。また戦後奴隷は解放され低賃金労働者などになっていく。その方が資本家や地主にとっては都合がよかったらうけど、これでは黒人は救われぬ。それに戦後主導権をにぎった共和党右派は民主党とくっついていく。なぜそのような人々が主導権をとれたのだろうか？ つまり北部の人々もほんとうに黒人の解放を考えていなかったからだろう。」

授業の不充分さがこれらの生徒の反応の上にもあらわれていると思うが、今のところはいくつかな問題点をつかんで、自分で考えていこうという姿勢でうけとめてくれればいいと考えている。黒人霊歌をいくつか聞かせたのに対しては活発な反響があった。

## Ⅲ. 全体としての黒人問題学習のプラン

I.の授業は世界史でやっている黒人問題学習の中の部分であって全体ではない。南北戦争のところだけで、あるいはアメリカ史でだけ黒人問題が出てくるというのでは、系統性に欠けるし、人権学習としての比重も弱くなる。

そこで、さしあたって今まで、どのようなプランで世界史の中で黒人問題を扱ってきたかをあげてみる。ただし、これはまだまだ不十分なものでしかなく、6年一貫カリキュラムの中でもっと人権学習を深めていくための一つの足がかりにすぎない。

### (1) アフリカの歴史

アフリカの略地図に古文明のひろがった地域を示し、サハラの岩壁画、クシュ、スワヒリ、モノモタパ、コンゴ、マリ、ガーナなどそれぞれの文明に簡単な説明を加えたプリントを作り、それをもとに授業をする。（「地理上の発見」やアフリカ分割の時期までアフリカ史を空白にしておくことは、生徒の中に多くある「未開な暗黒大陸」という偏見をうらづけることになると考える。）

### (2) 奴隷貿易

15、16世紀のヨーロッパ人の海外進出が、一方ではポルトガル人のアフリカ沿岸への進出、他方スペイン人の中南米征服をもたらしたこと。

ここまではどの教科書にも書かれているので、これにつづけて、黒人が奴隷としてアメリカ大陸や「西インド」へ運ばれたのはどうしてか、だれが何のためにそうしたのか、その利益はどこにプールされたのだろうか、などを事実に基いて考えさせる。（この教材は、「ヨーロッパ人の海外進出」「絶対主義時代の植民地」などのところで扱ってもよいし、「産業革命」あるいは「南北戦争」の前段階のところで扱ってもよい。）

### (3) 産業革命とアフリカ

奴隷貿易による莫大な利益がイギリスの資本の蓄積をふやしたこと、黒人奴隷によるプランテーションの発展した英領「西インド」植民地が産業革命期のイギリス工業にとって輸出市場・原料供給地として貢献したこと。この時期のイギリスの工業生産物がアフリカ海岸で奴隷を手に入れるための交換商品として大いに役立ったこと。イギリス綿工業の原料の多くが奴隷制農場の生産物であったこと。一などの事実に生徒の目を向けさせる。

（他にインドやアイルランドへの抑圧や搾取が産業革命を支えたことにも注目させ、産業革命自体を「世界史」的なひろがりと思いでとらえさせることをもねらいとしている。）

### (4) アメリカ独立革命と黒人

当時すでに50万人以上いたといわれる黒人が独立戦争とその前後に示した動向をとりあげる。

ボストンでのたたかいや独立義勇軍への参加、独立後州議会や大陸会議にあいついで出された黒人たちによる奴隷制廃止請願。北部や西部の州での奴隷制の廃止。—これらの一連の動きにもかかわらずなぜ奴隷制が存続されたのか、が授業の焦点になる。合衆国憲法の中の、奴隷制や奴隷貿易をみとめ、逃亡奴隷の引き渡しを規定した条項（第1条2節、同9節、第4条2節）が資料として役立つ。

### (5) 黒人と南北戦争（1.で指導案を示したもの。）

### (6) 現代の黒人問題

アメリカにおける公民権運動のたかまり。戦後のアフリカ諸国のかかえている複雑

な問題と、新植民地主義によるアフリカ再分割のうごき。南ア共和国のアパルトヘイト。——などであるが、今のところまとめてやっておらず、アフリカのうごきとアメリカでのうごきをそれぞれ別のところで扱っている。

#### IV. 人権教育の視点について考える

さいごに、黒人問題の学習を指導して気づいたこと、考えたことをあげる。

- (1) 奴隷貿易、奴隷制プランテーション、「解放」後の黒人の状態など、すべて資本主義という経済・社会構造と結びついていて、差別意識もこの社会のしくみから生れていること。
- (2) 同じ資本主義という社会のしくみのもとで見られる他の差別＝人権侵害とききはなして黒人問題を考えられないこと。たとえば上記のプランの中で述べたように、アフリカ人を商品として売買する奴隷貿易は、インドやアイルランド民衆に加えられた人権侵害や、イギリス労働者の悲惨な生活とくみ合わされて、イギリス資本主義確立のふみ台にされている。また、現代アメリカの黒人差別反対運動はベトナム反戦運動と重なりあっていた。
- (3) 白人対黒人という図式で生徒にこの問題を考えさせようとするのは、何よりも歴史上の事実と合致しない。「地下鉄道」や奴隷制廃止協会、奴隷反乱などに多くの白人が時には命がけで参加し、そのために命を捨ててもいる。黒人を支持したためにK.K.K団などのリンチをうけ、テロに倒れた白人も少なくないというのが事実なのだから。
- (4) 世界史の中で人権教材を積極的にとりあげて教えようとする場合、その方向をみざしながら、全体としてはいつのまにかヨーロッパ中心史観にはまりこんでいることがある。それほどまでに、教科書などにはこの差別的な史観がつよく残っている。この点についての自戒と点検が常に必要だと思う。
- (5) 生徒の書いたものや発言を通して見ると、その社会認識にはさまざまな弱さがある。例えば「人間というものは、いつの時代でもエゴイストで弱いものをいじめて食いのにする。」とか、「歴史ははじまって以来弱肉強食の歴史です。」とかいう意見がよく出てくる。つまり、人権の問題を時代と地域（国）によってちがった形、時代の進むにつれて変化し発展する姿でとらえられず、すぐ安易に、観念的に、いつの時代もどこの国でもかわらず人権が侵害されていたというふうにとらえ、そこから「人間てそんなものだ」という妙な悟りみたいなものをひき出すのだ。こういう反応にあうと、歴史の教師として「おれは一体何を教えてきたのか！」と恥かしさと情なさかふき出してくる。歴史教育、社会科教育の側にもまだまだ生徒のこういう面に充分にくいこめない弱さがあると思う。
- (6) ある時代のあるできごとだけ、ある地域だけある人々だけの人権侵害の問題としてとりあげ、他のところには知らぬ顔という教え方に陥らぬように気をつけたい。それはいろいろな差別＝人権侵害の間の重層的・構造的な結びつきが見えなくなり、幅の広い社会認識への道をふさいでしまうからである。（例えば、黒人、ユダヤ人、カスト制などだけを差別としてとりあげながら、植民地問題、労働問題あるいはベトナム戦争などについては人

権侵害の観点から見ようとしなないなど。)

以上のことから、社会科における人権学習においては、いろいろな形であらわれる人権侵害をひろくとらえ、そのいりくんだ結びつきを考えさせながら社会認識に迫っていくべきであって、人種や民族による差別、封建的な身分差別、女性差別、貧困による差別、思想・宗教・信条による差別、帝国主義戦争や植民地支配の生む差別などを、その中の一つをきりはなしてとりあげるのではなく、人権を侵害する差別の複合的なしくみの一環として考えさせる視点をたいせつにしなければならないと考える。

# 理科における六ヶ年一貫カリキュラム実施記録とその問題点

加藤 禎 孝 ・ 中道 貞 子  
林 良 樹 ・ 藤川 宣 雄  
藤田 周 子 ・ 屋 舗 増 弘

## (1) はじめに

私達は、本校研究紀要第14集（1973）において、「理科における中学校・高等学校一貫学習指導計画について（第2報）」を発表し、6ヶ年一貫学習計画の全教科とのバランスに立った具体案を示した。この計画案は他教科との学年時間配分の都合上、理科としては不満足ではあったがそのまゝの形で実施されて来た。

6ヶ年一貫カリキュラムを実施して来て第3年次に入ったので、第3学年までのそれぞれの実施状況を報告するとともに、その中から問題点を指摘しておきたい。さらに、前回の報告で漏れていた地学分野の計画と実施記録についても報告しておく。

カリキュラムが逐年進行の形で進められていく中で、各分野に共通して見られる問題点としては次の如きものがある。

- ア. 教科書が充分利用できず、時には教科書にない部分を学習するに当り、その度にプリントを作成配布して授業を進めて来たが、生徒にとっては戸惑いが多かったように見受けられる。教師側にとっても大変な努力が要る。
  - イ. 授業内容の配列が教科書通りでないことは、生徒にとっては特に教科書にない部分の学習方法や、参考書、問題集など利用など、学習上の障害が多い。
  - ウ. 学習内容に即した具体的授業方法の細部の計画立案、学習内容の程度の検討など多くの時間が必要で、少人数ではカリキュラムの進行スピードに間に合わない面があり、したがって、その部分を担当した授業者の独善的な指導計画に陥りやすい欠点がある。
  - エ. 他教科、理科内での横の連絡が充分でなく、互いに検討する時間が少ない。
- さらに、これらの実際的な問題に加えて、カリキュラムの内容面から見るとき、
- オ. 第5学年での物理4単位の履習……4単位必修が困難ではないか。
  - カ. 第6学年での理科一般3単位の履習……これを選択する生徒は受験に理科を必要としない生徒であり、内容の設定を慎重に行う必要がある。

この2点については、他教科との時間配分の問題を含んでおり問題は複雑だが、改善の必要を感じている。

以下、実施記録と各分野での問題点を示しておきたい。何しろ少人数での作業故、カリキュ

ラムの内容、実施方法等何かと欠陥が多いに違いない。諸賢のご批判とご指導を得て改善してゆきたいと考える。

## 〔2〕 理科 I

物理は主として現象的な面を扱い、化学では、現象およびそれから基本的概念を導く過程を重視して扱うこととした。単に知識の注入に終ることのないよう、時間にゆとりを持たせ、できるだけ多くの実験を行ない、多くの物質やその現象に直接触れることができるようにした。実施しての問題点として、次のことがある。

- ア. 第1学年の最初に科学の方法を知るための単元を設けたが、素材の選択により一層の工夫が必要である。
  - イ. エネルギーについて、これの定量的な扱いは、高校物理での力学の基礎から入るのが通例であるので、ここでは全く扱わなかった。しかし、理科に於ける他分野との関連を考えると、エネルギー概念および物質の構成に関する初歩的知識があった方がよいと思われる。
  - ウ. 熱伝導、熱膨張、光の屈折、光の反射について小学校でも学習しており、中学段階の位置づけを明確にする必要がある。
  - エ. 幾何光学の取扱について、全体のバランスから考えて時間を多くとりすぎているのではないか。(球面鏡の反射など)
  - オ. 第3学年の「物質と原子」に於いて、化学の歴史的発達の過程に従って、原子、分子の概念を導入しようとしたが、生徒は書物等で得た知識をもとに、結論を急ぐ傾向がある。即ち、過程よりも、現在、原子分子がどのように考えられているかを求める傾向が強い。
  - カ. 化学変化に触れる機会が少い。そこで、第3学年に代表的な気体の化学的性質を調べる項目を新たに設けたが、第1,2学年の段階でも化学反応の面白味を味わせたい。
- 以上の問題点をかながみて、ある程度の内容の入れかえが早急に必要と思われる。

### 「理科 I」の実施記録

| 学年 | 項 目   | 内 容                                   | 実 験 ・ 観 察   | 備 考 |
|----|---|---------------------------------------|---|-----|
| 1  | 1. 科学のはじめに〔3〕<br>2. 物質と特性〔33〕<br>ア. 測 定〔4〕<br><br>イ. 質 量〔6〕 | 測定と有効数字<br>ヒストグラム<br><br>体積<br><br>質量 | はがきの長さを硬貨を単位にして測る。1cm目盛の物指して測る。<br><br>金属棒の質量を上皿天秤で測る。<br><br>氷の融解前後の質量を測る。 |     |

| 学年 | 項目                  | 内容   | 実験・観察   | 備考 |
|----|---------------------|--|---|----|
| 1  | ウ. 密度(5)            | 質量保存則<br>固体の密度<br>液体の密度<br>気体の密度                   | 食塩を水に溶解する前後の質量を測る。<br>食塩と水、塩化アンモニウムと水の溶解前後の体積変化。<br>種々の金属棒の密度を求める。<br>アルコールの密度を求める。<br>空気の体積と質量を求める。                  | ⑧  |
|    | エ. 融点と沸点(12)        | 融解と凝固<br>融点<br>混合物の融点<br>沸点<br>混合物の沸点              | ナフタリン、 <i>p</i> -ジクロルベンゼンの凝固の温度変化を調べる。<br>融解の時の温度変化を調べる。<br>混合物の融点について調べる。<br>アルコールの沸騰する時の温度変化を調べる。<br>混合物の沸点について調べる。 |    |
|    | オ. 溶解度(6)           | 分留<br>溶媒と溶質<br>固体の溶解度<br>飽和溶液<br>溶解度の温度変化<br>溶解度曲線 | 水やアルコールに溶けるもの。<br>飽和食塩水の水と食塩の量について調べる。<br>塩化カリウムと硝酸カリウムの飽和溶液の温度変化と溶解量の変化について調べる。                                      | ⑧  |
|    | 3. 物質の分離〔9〕         |  |   |    |
|    | ア. 再結晶法(3)          | ろ過<br>分別結晶   | 硫酸銅とホウ酸の混合物を再結晶法で分ける。   |    |
|    | イ. ペーパークロマトグラフィー(4) | 微量物質の分離  | 水性ペンの色素をペーパークロマトグラフにする。   |    |

| 学年 | 項 目         | 内 容  | 実 験 ・ 観 察  | 備 考                                    |      |
|----|-------------|--|--|--|------|
| 1  | ウ. その他2)    | 昇華<br>抽出                                   | ペーパークロマトグラフィーから色素を抽出する。<br>チョークで葉緑素を分離する。<br>ヨウ素の昇華<br>ヨウ素-ヨウ化カリウム水溶液からヨウ素を抽出する。 | ㊦<br>㊦                                 |      |
|    | 4. 熱 [16]   |  |  |  |      |
|    | ア. 熱膨張5)    | 固体の熱膨張<br><br>線膨張率<br>液体の熱膨張<br><br>気体の熱膨張 | 金属の熱膨張 (線膨張、体膨張)<br>バイメタル<br>アルコール、水の熱膨張率を調べる。<br>空気、CO <sub>2</sub> の熱膨張を調べる。   | ㊦<br>㊦                                 |      |
|    | イ. 温度と熱6)   | 熱量<br><br>比熱                               | 水と湯の間の熱の移動<br>異なる量の水を同じヒーターで加熱し温度変化を調べる。<br>食用油をヒーターで加熱し温度変化を調べる。                |  |      |
|    | ウ. 状態変化と熱4) | 融解熱<br><br>気化熱                             | 湯に氷を加えたときの温度変化を調べる。<br>水蒸気を水の中に通じたときの温度変化を調べる。                                   |  |      |
|    | エ. 熱伝導1)    | 伝導、放射、対流                                   |  |  |      |
|    | 2           | 1. 光 [23]                                  | 平面鏡  | 平面鏡によってできる像を調べる。                       |      |
|    |             | ア. 光の反射7)                                  | おう面鏡、焦点<br>実像と虚像<br>とつ面鏡   | おう面鏡によってできる像を調べる。<br>とつ面鏡によってできる像を調べる。 | プリント |
|    |             | イ. 光の屈折9)                                  | 屈折率  | ガラスブロックで光の屈折を調べる。                      | プリント |

| 学年 | 項 目           | 内 容   | 実 験 ・ 観 察  | 備 考                                   |
|----|---------------|---|--|---------------------------------------|
| 2  | ウ. 光の分散(5)    | 全反射<br>とつレンズ、焦点<br><br>像の明るさ<br><br>おうレンズ<br><br>光の分散<br>スペクトル<br>吸収(物体の色)<br><br>赤外熱と紫外線 | ガラスの全反射を調べる。<br>とつレンズによってできる像について調べる。<br>レンズの口径と像の明るさについて観察する。<br>おうレンズによってできる像について調べる。<br>直視分光器で太陽光などのスペクトルを観察する。<br>物体の色とスペクトルについて調べる。<br>熱作用、化学作用を観察する。 | プリント<br><br>㊦<br>プリント<br>プリント<br>プリント |
|    | エ. 明るさ(2)     | 照度と光度   | 光度計で光源の明るさと面の明るさの関係を調べる。   | プリント                                  |
|    | 2. 力〔28〕      | 力の表わし方  |  |                                       |
|    | ア. 力の性質(6)    | 重力<br><br>力の合成  | 離れている物体に作用する力について観察する。<br>ゴムひもの伸びと方向について調べ力の合成を知る。   | ㊦                                     |
|    | イ. 力のつりあい(7)  | 力の分散<br>力のつりあい<br>張力と抗力<br>摩擦力<br><br>斜面  | 3力のつりあいをばねばかりで調べる。<br>机上で木片をひく力の大きさについて調べる。<br>斜面上の物体に作用する力について調べる。  |                                       |
|    | ウ. 力のモーメント(7) | モーメント<br><br>平行力のつりあい<br><br>平行力の合力<br>重心<br>てこ、滑車、輪軸                                     | 円板におもりをつるしモーメントについて調べる。<br>滑車により平行力のつりあいを求める。<br>板の重心を求める。   | プリント<br><br>㊦                         |

| 学年 | 項目  | 内容  | 実験・観察  | 備考  |
|----|---|---|--|---|
| 2  | エ. 流体の圧力(8)<br><br><b>3. 物質と粒子(12)</b><br>ア. 気体の圧力と体積(3)<br><br>イ. 拡散と溶解(4)<br><br>ウ. 物質の三態と粒子(5) | 重力と圧力<br>圧力の伝わり方<br><br>大気圧<br><br>ボイルの法則<br><br>気体の拡散<br>液体の拡散<br><br>溶解<br><br>拡散と粒子の運動<br>溶解と粒子の運動<br>気体の圧力と粒子の運動<br>熱と粒子の運動 | 水の圧力について調べる。<br>流体中の圧力の伝わり方を視考する。<br><br>トリチェリーの実験<br>サイホン<br><br>円筒に入れた気体の体積と外力の関係を調べる。<br>臭素の拡散を観察する。<br>硫酸銅溶液の拡散を観察する。<br><br>過マンガン酸カリウムの溶解を観察する。<br><br>ブラウン運動を観察する。<br><br>気体分子運動実験器で調べる。<br><br>気体分子運動実験器で調べる。 | プリント<br><br>⑧<br>⑧<br><br>⑧<br>⑧<br><br>ループフィルム |
| 3  | <b>1. 電気と電流(24)</b><br>ア. 電圧と電流(4)<br><br>イ. オームの法則(4)<br><br>ウ. 電気抵抗(4)<br><br>エ. 回路と抵抗(5)       | 摩擦電気<br>(正電気、負電気)<br><br>電流とその測り方<br><br>電圧とその測り方<br><br>回路に流れる電流と電圧の関係<br>抵抗の単位<br>針金の電気抵抗<br><br>物質の電気抵抗<br>抵抗の接続             | ポリエチレン棒、ガラス棒などの摩擦電気を箔検電器で調べる。<br>電流計で回路の電流を測る。<br>電圧計で電池の電圧を測る。<br>ニクロム線に流れる電流と電圧の関係を調べる。<br><br>針金の太さと抵抗の大きさの関係を調べる。<br><br>2本のニクロム線を直列接続した時と並列接続した時の抵抗の大きさを調べる。  | プリント  |

| 学年 | 項目                            | 内容  | 実験・観察  | 備考        |
|----|-------------------------------|---|--|-----------|
|    | オ. 電流の熱作用(7)                  | 抵抗と電圧差<br>非オーム抵抗<br><br>ジュールの法則   | 豆電球に入れる電流と電圧の関係を調べる。<br>種々のニクロム線を用いて<br>①電圧を一定にした時の発熱量<br>②電流を一定にした時の発熱量<br>を測る。   |           |
|    | 2. 物質と原子(40)<br>ア. 化合物と元素(10) | 電力<br>化学変化と物理変化<br>化学変化と質量保存則<br><br>元素<br><br>元素のスペクトル<br>元素記号<br>化合と化合物<br>定比例の法則 | 反応系の質量は反応前後で変化しないことを調べる。<br>炭酸鉛の熱分解について知る。<br>炎色反応<br><br>水の電気分解を行う。<br>亜鉛と希塩酸の反応を量的に調べる。<br>①水素の体積と亜鉛の質量<br>②亜鉛と塩化亜鉛の質量 | 教<br>プリント |
|    | イ. 原子と分子(7)                   | 気体反応の法則<br><br>元素と原子説<br>分子説<br>倍数比例の法則<br>分子の大きさと質量                                | 水素と酸素の反応の体積を調べる。<br><br><br>オレイン酸膜の厚みを調べる。   | プリント      |
|    | ウ. 化学式(5)                     | 原子の大きさと質量<br>組成式<br>分子式<br>化学反応式  | 分子模型を使って調べる。   |           |
|    | エ. 化学量(4)                     | 原子量   | 気体の分子量を測定する。   |           |

| 学年 | 項目         | 内容   | 実験・観察  | 備考   |
|----|------------|--|--|------|
|    | オ 気体の性質(7) | アボガドロ数<br>化学式量<br>モル<br>気体の生成と性質                                       | アンモニアを作り性質を調べる。<br>二酸化炭素       "<br>塩化水素         "                   | プリント |
|    | カ イオン(7)   | 水溶液からの気体の発生<br>原子の構造<br>電解質と非電解質<br><br>電気分解<br>イオンモデル<br>イオン式<br>沈殿反応 | 陰極線の性質を観察する。<br>電気を通すものと通さないものを調べる。<br>希塩酸の電気分解<br><br>沈殿のできる反応を調べる。 | ⑩    |

### 〔3〕 生物

6か年一貫カリキュラムが実施されてから3年が経過した。その間、学習指導計画にそって試行錯誤を繰り返しながら学習が進められてきたが、具体的にカリキュラムを展開してゆくなかで、いくつかの問題点がうきぼりにされてきた。そのうち、生物分野（とくに分類）について述べてみることにする。

まず、第1、第2学年で生物の分類を中心に学習（一貫カリキュラム表参照）させているが、系統的な理解がさせにくいと同時に、生物のあるがままの状態を生徒達に示すことができにくく、一つの生物を自然（生態系）からきり離して学習が進む傾向になること。そのこととも関連して、授業（とくに動物の分類）が同じパターンの繰り返しになってしまい、単調になりがちであること。

また、観察材料の得られる季節に観察させることが必要であるが、7月に教育実習があり、実習生には教科書にある内容を生徒達に指導してもらいたいという意図から、実際に学習させる時の配列はさらに変更せざるを得ない場合も生じてきたこと等があげられる。

こうした問題をより良く改める為には多方面からの検討が必要となるわけであるが、とくに分類指導については、野外での観察をどのように取り入れてゆくかが問題であり、単調に流れ

がちな授業に変化を与えるためにも、検索表、図鑑の活用のさせ方、生徒自身の作業段階の内容の検討等が当面とくに力を注がねばならない研究課題になっている。

| 学年 | 項目            | 内容   | 実験・観察                             | 備考                 |
|----|---------------|--|-----------------------------------|--------------------|
| 1  | 1. 採集(2)      |  |                                   |                    |
|    | ア. 植物採集(2)    | 採集用具<br>採集する上での注意<br>標本の作成、標本作成上の注意  | 校庭の植物観察・採集<br>(主に開花中のもの)          | プリントラベルを個人に渡し標本を作成 |
|    | 2. 生物の構造(6)   |  |                                   |                    |
|    | ア. 顕微鏡の使い方(1) | 構造、各部の名称<br>倍率の求め方<br>全体観察と一部の拡大<br>絞りの使い方<br>観察のしかた                                 | 市販のプレパラート観察                       |                    |
|    | イ. 細胞(5)      | 植物・動物細胞の構造<br>プレパラートのつくり方<br>細胞分裂<br>(分裂の意義、分裂のおこっている場所、分裂のあらし)<br>生物の体はいろいろな細胞できている | タマネギ・ヒトの口腔粘膜細胞の観察<br>タマネギの根端細胞の観察 | 一部、市販プレパラート利用      |
|    | 3. 植物の世界(43)  |  |                                   |                    |
|    | ア. コケ類(4)     | 生活場所<br>生活の状態<br>種類  | 校外(奈良公園)観察<br>ツノゴケ類、苔類、蘚類         | 観察場所の確認            |
|    | イ. シダ類(4)     | 生活場所<br>生活史の概略<br>体のつくり  | コケの観察と同時に実施<br>胞子体の観察(根・茎・葉)      | プリント<br>ワラビ        |

| 学年 | 項 目        | 内 容   | 実 験 ・ 観 察  | 備 考                                       |
|----|------------|---|--|---|
| 1  |            |   |  |   |
|    | ウ. 裸子植物4)  | 種類<br>コケ類とシダ類の比較<br>生活場所<br>孢子体と配偶体の関係<br>体の構造のちがい<br>特徴<br>花 { 雌雄異株<br>雌雄同株<br>種子のつき方<br>葉のつき方、葉の形<br>長枝・短枝<br>茎の内部構造<br>マツの多子葉性<br>種類 | 孢子のう・孢子<br>維管束(茎の横断)<br>配偶体(前葉体)の観察<br>ヒカゲノカズラ、ワラビ、<br>スギナ<br>イチョウ・クロマツの花<br>リン片のつき方と松かさ<br>マツの花粉の観察<br>ヒマラヤスギの枝と葉の<br>つき方<br>校庭の裸子植物の観察<br>ヒマラヤスギ、イチョウ、<br>メタセコイア、イブキ、<br>マツ、マキ | 生態的な<br>関係を主<br>眼に取扱<br>う<br>順路をき<br>めておく |
|    | エ. 被子植物14) | 特徴<br>花の構造<br>受粉と受精<br>はい珠のつき方<br>(裸子植物との比較)<br>種類<br>植物体のつくり<br>茎と葉、葉のつき方<br>花のつくり<br>茎の維管束<br>種類                                      | ユリ科(イトラン、ユツ<br>カ、テッポウユリ)の花<br>の構造の観察<br>子房の縦断、横断<br>はい珠の位置<br>トウモロコシの維管束の<br>観察  | ユツカは<br>年2回利<br>用可能                       |
|    | ①単子葉類      |   |  |   |
|    | オ. 生物の分類3) | 種…分類の基本単位<br>分類段階   |  |   |

| 学年 | 項目       | 内容   | 実験・観察   | 備考              |
|----|----------|--|---|-----------------|
| 1  | ②双子葉類    | 植物体のつくり<br>茎と葉<br>受粉と受精<br>種子のでき方<br>種子の役割と構造<br>花と果実<br>茎の構造(維管束の分布とその配列) | マツバボタンの花粉管の伸長観察<br>ツルマメの種子の観察<br>果実の観察(リンゴ、カキ、ミカン)<br>ハウセンカの維管束の観察(切片)<br>キクイモの花(合弁花)の観察<br>筒状花、舌状花 | 8mm映画<br>花粉管の伸長 |
|    | カ. ソウ類4) | 生活場所<br>体のつくりの特徴<br>ふえ方<br>種類  | アオミドロ、アオサ、ミル、ホンダワラの体のつくり観察(コケ、シダ類との比較を重点に観察)  | スライド<br>プリント    |
|    | キ. 菌類4)  | プランクトン<br>体のつくり<br>養分のとり方(寄生、腐生)<br>種類<br>ソウ類と菌類の比較                        | アオカビ、コウボ菌、キノコの体のつくり観察<br>胞子、菌糸  | スライド<br>プリント    |
|    | ク. 地衣類2) | 生活場所<br>体のつくり<br>地衣類の特徴<br>種類  | ウメノキゴケ、ハナゴケの体のつくり観察(10% KOH溶液で処理)   | プリント            |
|    | ケ. 細菌類4) | 体の特徴<br>ふえ方<br>種類<br>培養の方法<br>実験方法<br>対照実験、仮説とその検証                         | 空中細菌の培養<br>コロニーの色、数、状態の観察   |                 |

| 学年 | 項目  | 内容   | 実験・観察  | 備考  |
|----|---|--|--|---|
| 1  | <p>4. 動物の世界〔52〕</p> <p>ア. 原生動物(4)</p> <p>イ. 海綿動物(4)</p> <p>ウ. 腔腸動物(4)</p> | <p>細菌のはたらき(分解者としての役割をふまえた取扱い)</p> <p>植物分類のまとめ</p> <p>生活場所</p> <p>体のつくり、ふえ方</p> <p>働き</p> <p>種類</p> <p>生活場所</p> <p>体のつくりと特徴</p> <p>ふえ方</p> <p>種類</p> <p>原生動物との比較</p> <p>生活場所</p> <p>体のつくりと特徴</p> <p>ふえ方</p> <p>種類</p> <p>海綿動物との比較</p> | <p>ゾウリムシの観察</p> <p>体のつくり、大きさ、動き</p> <p>海綿動物の標本の観察</p> <p>骨片の観察</p> <p>実物標本の観察</p> <p>ヨロイソギンチャク、カツオノエボシ、シロガヤ、サンゴ</p>            | <p>プリント</p> <p>スライド</p> <p>プリント</p> <p>スライド</p> <p>プリント</p> <p>スライド</p> |
| 2  | <p>エ. 扁形動物(3)</p> <p>オ. 線形動物(1)</p> <p>カ. 輪形動物(2)</p> <p>キ. 環形動物(3)</p>   | <p>生活場所</p> <p>体のつくりと特徴</p> <p>ふえ方</p> <p>種類</p> <p>生活場所</p> <p>体のつくりと特徴</p> <p>ふえ方</p> <p>種類</p> <p>生活場所</p> <p>体のつくりと特徴</p> <p>ふえ方</p> <p>種類</p> <p>生活場所</p>   | <p>校外(奈良公園)での観察</p> <p>プラナリア</p> <p>(水生昆虫も同時に観察)</p> <p>標本の観察(寄生虫)</p> <p>標本の観察(寄生虫)</p> <p>プランクトンの観察</p> <p>(ワムシ、ケンミジンコ等)</p> | <p>プリント</p> <p>スライド</p> <p>プリント</p> <p>スライド</p> <p>プリント</p> <p>スライド</p> |

| 学年 | 項目         | 内容  | 実験・観察   | 備考           |
|----|------------|---|---|--------------|
| 2  |            | 体のつくりと特徴<br>ふえ方<br>種類                     | ミミズの観察<br>(外部形態、すかしてみえる内部の器官、表面のようす、運動のしかた)<br>標本の観察(ゴカイ、ケヤリムシ)                   | プリント<br>スライド |
|    | ク. 軟体動物(3) | 生活場所<br>体のつくりと特徴<br>ふえ方<br>種類             | アサリ(ハマグリ)の観察<br>(外部形態、内部形態、心臓の動き、水管への水の出入り、エラの繊毛運動)<br>標本の観察(ヒザラガイ等)              | プリント<br>スライド |
|    | ケ. 節足動物(8) |   |   |              |
|    | 甲殻類        | 生活場所                                      | 標本の観察(エビ、カニ、ダニ、ムカデ)   | プリント<br>スライド |
|    | クモ類        | 体のつくりと特徴<br>ふえ方                           |   |              |
|    | 多足類        | 種類  |   |              |
|    | 昆虫類        | 昆虫採集のしかた<br>生活場所<br>体のつくりと特徴<br>ふえ方<br>種類 | 昆虫採集(夏休み)<br>幼虫の観察(クスサン)<br>(外部形態、運動のしかた)<br>成虫の観察(バッタ等)<br>(外部形態)<br>標本の観察(水生昆虫) | プリント<br>スライド |
|    | コ. 棘皮動物(2) | 生活場所<br>体のつくりと特徴<br>ふえ方<br>種類             | ムラサキウニの観察<br>(外部形態、運動のしかた)<br>標本の観察(ウニ、ヒトデ、ウミシダ、ナマコ)                              | プリント<br>スライド |
|    | サ. 原索動物(1) | 生活場所<br>体のつくりと特徴<br>ふえ方<br>種類             | 標本の観察(ナメクジウオ、ホヤ)  | プリント<br>スライド |
|    | シ. 脊椎動物(7) | 生活場所<br>体のつくりと特徴                          | 魚の運動のしかたの観察<br>(ドジョウ、キンギョ)  |              |

| 学年 | 項目                           | 内容   | 実験・観察   | 備考                    |
|----|------------------------------|--|---|-----------------------|
| 2  | 5. 生物と環境(22)<br>ア. 生物と環境(10) | ふえ方(魚類、<br>両生類、ハ虫類<br>鳥類、ホ乳類)<br>体のつくりとはたらき<br>(消化器、循環器、<br>呼吸器、排水器、神<br>経筋肉)                    | カエルの観察<br>(外部形態、内部形態、<br>精子)<br>ヒトの模型<br>タラコのを数える | プリント<br>スライド          |
|    | イ. 生物相互の関係(5)                | 生物どうしの競争と<br>たすけあい<br>食物連鎖<br>生産者・消費者・分<br>解者<br>生物量ピラミッド<br>天敵                                  | アズキの成長と光の条件<br>に関する実験                             | プリント<br>スライド          |
|    | ウ. 自然界の移りかわり(5)              | 生物群集の移りかわ<br>り<br>季節による移りか<br>わり<br>長い年月による移<br>りかわり<br>溶岸地帯での植物<br>の移りかわり<br>湖沼地帯での植物<br>の移りかわり | 校庭における方形区内の<br>植物のうつりかわり(4<br>月、6月、9月)            | 16mm映画<br>森林の<br>おいたち |
|    | エ. 自然環境の保護(2)                |  |   |                       |

## (4) 地学

### (1) はじめに

現在の受験体制のもとでは、とかく地学分野は軽視されがちであるが、公害とか自然破壊等、今日自然と人間のかかわり方がいろいろと問題となっており、そのような問題を考えるうえで、地学教育の重要性は今後ますます強く認識されるようになると思う。そこで、中高の間の無駄を省き人類の生存の場としての自然を系統的に指導するということから、第3学年において、中学理科の第2分野の地学部分と高校の地学Ⅰを総合したカリキュラムを週3単位で組むことになった。以下その学習指導計画と現状および問題点を報告する。

### (2) 学習指導計画

カリキュラム編成の基本方針は、次の3点である。

ア 指導内容を系統的に配列すること。地学の分野を大きく、固体地球、大気と海水、宇宙の3分野に分け、それぞれの分野の指導内容を、①構造、②構造物質、③現象（エネルギーの流れ）、④進化の順に配列した。なお大気と海水の進化は、宇宙の分野との関連があるので、一番最後に指導する。

イ 実験、観察を重視し、その結果をもとにして指導を進めていくこと。授業時間内では、とり扱えない実習として、次のような実習を行なう。

- ① グループによる毎日の天気図の作成
- ② 継続的な星座、惑星、月日の出入りの観察
- ③ 地層、岩石の野外観察
- ④ 岩石薄片の作成と顕微鏡観察

以上のような実習の他に、できるだけ日常の授業においても実験、観察を取り入れ、書物や教師から学ぶのではなく、生の自然から学ぶということを重視した。

ウ 自然と人間のかかわり方を考えること。今までは、資源の開発や防災という見地から地学を考えることが多かった。もちろんのことは、たいへん重要なことであるが、人間がどんどん自然を変化させている今日、100年、200年いやもっと先の人類の将来を考えたいうえで、現在人間は自然といかにかわっていきべきかということは、それらと同様非常に重大な問題である。このようなことを地学を学ぶなかから考えていけるようにした。

学習内容は、次の表に掲げたとおりであるが、次にその解説を行なう。

最初に、天気図の書き方と天体観察のやり方を指導し、継続的に実習を行なった後、それぞれの学習に入る。したがって、固体地球、大気と海水、宇宙の順に指導を進めていくことになる。また最後に宇宙における一つの存在として地球なり人類をみる必要性から、一番後で宇宙の学習するのは都合がよい。

固体地球の分野では、最初に固体地球の構造について指導する。ここでは、初めに天文学的事実や測地学的な事柄から地球の形、大きさについて指導し、次に地球の内部構造に入る。重力や地震波はそれらを探る手段としてとりあげ、地震現象そのものについては、後の地球内部のエネルギーのところを指導する。それから固体地球の構成物質を指導する。ここでは、まず観察中心に鉱物、岩石の基礎的な指導を行ない、次に地球の各部分の構成物質に入る。岩石の成因的なことは、後のマグマの活動のところや地球の進化のところを指導する。

次に地球内部のエネルギーの流れとして地震活動、マグマの活動を指導し、熱流や測地学的な大地の動きも軽くとりあげる。最後に地球の進化について指導する。ここでは初めて、太陽からのエネルギーが固体地球表面に起している現象として流水の作用をとりあげ、それから地層の指導に入る。今までの指導でだいたい現在の地球に起っている現象をすべてとりあげたことになるので、このことを積み重ねとして、化石や地質図の学習から、造山運動や地質時代の指導に入る。最後に地球進化の一つの仮説として、大陸移動説やプレートテクトニクス説もとりあげる。

大気分野では、最初に大気圏の構造について指導し、次に大気と水の循環のところ太陽からのエネルギーの地球表面における大きな流れについて指導する。次に今までやってきた天気図の実習をもとにして、大気中の様々な現象、つまり大気中の水の変化や天気の変化について指導する。

宇宙分野では、最初にこれまでの天体の動きの観察から、地球の自転や公転、太陽系の構造や運動について指導する。次に恒星の集団のところでは、太陽系から銀河系へ、銀河系から宇宙へとだんだん視野を広げていくことによって、最後に宇宙の構造を空間的に全体として理解できるようにした。恒星の性質のところでは、太陽をもとにして恒星をつくる物質や恒星内部で起っている現象、恒星の種類について指導し、HR図を学習する基礎とする。最後にHR図から恒星の進化、銀河系外星雲の進化について指導し、全体としての宇宙の進化も考える。

最後に一年間の地学の学習のしめくくりとして、太陽系の発生と進化を指導し、人類の生存の場としての地球がどのようにして生れ、人類の住めるような環境がいかにして整えられてきたのかを学習する。これらのことを通して、自然と人類のかかわり方を考えたい。

### (3) 現状と問題点

以上のような指導計画のもとに、今年度初めて第3学年で地学の授業を開始した。中高の内容を総合することにより、今まで中学理科の中でなかなか一貫して行なえなかった地学分野の学習指導が系統的に行なえるようになり、中高の間の無駄な重複も避けられるようになった。また高校の地学の授業では中学の復習をすることがしばしば必要となったが、今度はその必要もない。全体的にみて、観察中心の基礎的な段階から高度な理論的な段階へ一貫して進めるので、指導内容の地学分野全体での位置づけが容易となり、一貫した流れのもとに授業ができるようになった。

したがって、生徒の方も従来の高一の生徒に比べ興味をもって授業を受けている者が多く、学習態度もよい。また生徒の理解度は、高一の場合とあまりかわらず、地学Ⅰの指導学年を一年下げた影響はあまりないようである。次に実習の方は、受験というのを考えに入れなくてよいので、労力は要するが興味のもてる実習をのびのびとやれるようになった。今年度初めてとり入れた天気図のグループ研究も、次に述べるようにいろいろと問題はあるが、グループで研究方法について十分討議を重ね、各自作業を分担して、グループとして着々と研究成果をあげているグループもある。

しかし、理科全体としての問題の他に、次に述べるような問題もでてきており今後の検討を要する。

- ア. 内容が広範囲なために授業時間が足りない。したがって地学Ⅰの全内容を授業でとりあげることができず、非常に重大な問題である。今後、単位をふやすとか学習内容を精選するなど考えて行きたい。
- イ. 高校の物理、化学、数学の知識が要求される箇所の指導が困難である。これは高Ⅰの段階で地学を指導しても状況はあまり変わらず、他の分野とも関連してたいへんむずかしい問題である。
- ウ. 現在の6年一貫カリキュラムでは、地学Ⅱを選択できないが、大学の入試を地学で受ける生徒は不利である。
- エ. 天体や天気図の実習を継続的に行なうのが困難である。特に天気図の実習では、毎日天気図を作成する必要があり、グループ内に一人でも怠惰な者がいるとグループ全体の実習がむずかしくなる。実習方法、生徒の指導方法などいろいろ考えて行きたい。

| 学年 | 項目               | 内容                                     | 実験・観察                            | 備考   |
|----|------------------|--|----------------------------------|--|
| 3  | 1. 気象と天体の観察(3)   | 気象観測のやりかた<br>天気図の書きかた<br><br>天体観察のやりかた | 録音を聞いて天気図を書く                     | スライド   |
|    | 2. 地球の構成と進化(50)  |  |                                  |  |
|    | ア 地球の形と大きさ(5)    | ジオイド<br><br>地球楕円体<br>重力                | 地形図による地球半径の計算<br>地球の形……作図        |  |
|    | イ. 地球の内部構造(9)    | 地震波<br>地殻・マントル・核                       | 震源の求め方等発震時線 } 作<br>等震度線、走時曲線 } 図 |  |
|    | ウ. 地球をつくる物質(12)  | 鉱物と岩石<br><br>地球内部の物質                   |                                  | 鉱物、岩石の肉眼観察・スケッチ<br>鉱物、岩石の顕微鏡観察<br>鉱物、岩石の密度測定 |
|    | エ. 地球内部のエネルギー(9) | 火山とマグマの活動<br>地震活動<br>大地の動き、熱流          | 火山噴出物の観察                         | スライド   |
|    | オ. 地球の進化(15)     | 流水の作用と地層<br>化石と地質時代<br>断層と褶曲           | 流水の作用と堆積の実験<br>地層の観察、化石の実験       | スライド<br><br>スライド                             |

| 学年 | 項目   | 内容  | 実験・観察  | 備考                                  |
|----|--|---|--|-------------------------------------|
| 3  | <p>3. 大気と海水(15)</p> <p>ア. 大気の構造(1)</p> <p>イ. 大気と水の循環(3)</p> <p>ウ. 大気中の水(4)</p> <p>エ. 天気の変化(7)</p> <p>4. 宇宙の構成と進化(28)</p> <p>ア. 天体の動き(5)</p> <p>イ. 太陽系(3)</p> <p>ウ. 恒星宇宙の構成と進化(15)</p> <p>エ. 地球と人類(5)</p> | <p>地質図</p> <p>地向斜と造山運動</p> <p>日本列島の歴史</p> <p>大陸と海洋底</p> <p>マントル対流とプレートテクトニクス説</p> <p>大気圏の区分</p> <p>気圧と風</p> <p>大気の大循環</p> <p>水の循環</p> <p>水の蒸発と凝結</p> <p>雲、雨、雪</p> <p>気団と前線</p> <p>高気圧と低気圧</p> <p>季節風と台風、梅雨</p> <p>天気予報</p> <p>天球</p> <p>地球の自転と公転</p> <p>太陽系の構成と運動</p> <p>恒星の集団</p> <p>恒星の性質</p> <p>H R図</p> <p>恒星の進化</p> <p>宇宙の進化</p> <p>太陽系の発生と進化</p> <p>大気と海水の歴史</p> <p>地球と人類</p> | <p>地質図……作図</p> <p>フーコーの振り子</p> <p>太陽放射エネルギーの測定</p> <p>露点の測定、気化熱の測定</p> <p>雲の観察、スケッチ</p> <p>天気図のまとめ</p> <p>等温線</p> <p>気象観測データの整理</p> <p>天気予報</p> <p>天体観察のまとめ</p> <p>火星軌道の作図</p> <p>星雲の後退速度……図上作業</p> <p>太陽の黒点観察</p> <p>H R図……作図</p> | <p>スライド</p> <p>スライド</p> <p>スライド</p> |

# 英語科における二年間のとりくみと問題点

荒木孝子・加藤 勇  
堀内幸子・水町 律子  
吉岡 一郎

## 〔はじめに〕

「英語における中学校・高等学校一貫学習指導計画の試案」（『研究紀要』第15集,1973）で述べたように、英語科では、「授業を生徒中心にすすめ、すべての生徒に平易な英語を徹底して身につけさせること」を基本的な姿勢として堅持するように努めながら、他方、「試案」で記したいくつかの計画を実践に移してきた。その中から一定の成果が実を結んできている。

なお、このレポートはこの2年間にわたって私達の間で話し合われてきたことを土台にして作られたものである。

## 〔要 約〕

最初に「試案」における中学の部分の要約を記しておく。

### 1. 基本的授業方針

- a. 入学時、進級時に教材を未知のものとして扱う。
- b. 家庭学習は復習に重点をおかせる。
- c. 訳は手がたくする。
- d. 授業を単なる答え合わせの場にしない。

### 2. 各学年の授業方針

（中1）

- a. クラスを2分し、生徒20数名に1人の教師とする。
- b. 口答練習と暗誦を徹底する。
- c. 外人講師の授業をおく。
- d. 辞書を指定し、辞書の使い方を指導する。

（中2）

- a. 英語劇を特別指導項目とする。

（中3）

- a. 動詞用例集の指導を特別指導項目とする。
- b. 2学期に診断テストを実施する。

以下、順を追って述べる。

## 1. 基本的授業方針について

ほぼこの方針どおりに実施されてきたと言っでよい。ただし、家庭学習の指導の点については、生徒達がなかなか教師の望むような復習をしていない、というのが実情である。

塾に通ったり、家庭教師に習ったりして、自分1人で学習する時間が少ないということ客観的要因としてあげることができようが、それとあわせて、もっと家庭学習のし方を具体的に緻密に指導する必要がある。

例えば、復習する上で生徒達が参考にするノートにしてもそのとり方はまちまちである。この点では高校生も同類であって、教師が黒板に書いたことをそのまま書き写していたり、1行もあけずに各頁ともびっしり書いている生徒も多い。予習してくる生徒でも、教科書の文を1行あきに写してきて、授業中は余白に教師の日本語を必死になって書きこみをするものもある。熱心な生徒になるとタイプライターで打ってくる。これは労多くして益の少ない予習なのである。

ノートのとり方、使い方も含めて、中・高を問わず、予習・復習のし方を今後はもっと具体的に指導していきたい。

## 2. 各学年の授業方針について

### (1) 中1

a.とc.については全くできなかった。私達だけでは実現し難い要素がこれらにはあるからだ。私達はこれら2点を中1にのみ入れておいたが、本来は全学年に入れたい項目である。これらの項目通りに授業をするかしないかでは、生徒達の学習にとりくむ意欲とその効果は大きく違ってくるであろう。簡単にやれそうにないが、今後の課導として検討する。

b.は外国語学習の重要な鍵となるもので、単に中1にとどまらず、3学年にわたって重視してとりくんできた。特に中1では、読み・発音・聞きとりの復習ができやすいようにN・H・K・ラジオ講座「基礎英語」を授業にとり入れてみた。①外人の発音を常時家庭で聞けること、②復習しやすいこと、③外国語に慣れ親しめる、という点で効果的であった。

他方、①進度が速いこと、②教科書に出ていない表現が時折り使われていること、の点では生徒によっては少し負担になっていたかもしれない。

辞書は『ダイヤモンド英和辞典』（小学館）を指定している。使い方も指導しているが、中1ということもあり、初歩程度にとどめている。

### (2) 中2

この学年では英語劇を指導項目にしている。一昨年3の3学期、担当者が実践した。

台本は泰文堂の「中学英語劇テープ」を使った。

基本作業が終了後、各セクション毎に配役を決め、全員が出演できるように配慮した。

報告によると、「生徒達はみんな楽しそうにやっていた。平均38点位しかとっていないA君がみんなの前で堂々と話したので驚いた」。「場」を設定することによって、「私も英語が話せるんだ」という自信を与えることができるし、それによって学習意欲を高める

ことができることを私達は学んだ。

(3) 中3

動詞用例集は昨年からとりくんだのだが、50年度中には是非完成させ、すぐ活用できるようにしたい。

診断テストというのは、2学期に実施して「その結果を中3から高1への進度を調整する」目的で当初計画したものである。

その中味は、文法事項を中心とし、語句なども含めたもの。中学生としての到達目標（これ自体1つの検討を要する課題であるが）にどれだけ達しているのか、どこがつまづいている箇所なのかを明らかにし、基礎的な学力を保障する立場からその後の指導材料にあてる。そして、この立場から考えて標準学力テストはどうあるのが望ましいのかを探求していきたい。

〔ま と め〕

中・高一貫教育体制をとり、各教科の試案が報告されたのが2年前。私達英語科のとりくみもまだ端緒についたばかりで、手がかりを求めて右往左往しているというのが率直な現情報かもしれない。

この2年間における貴重な教訓は、私達がどういう授業方針をもつべきかを真剣に討議し、それを「試案」として結実させ、第一歩を踏み出したことで、従来にはあまり見られなかった変化を生徒の間に起こしえた、ということである。その例が英語劇の実践におけるA君の例である。

しかし、成績の低い子に基礎的な学力を保障するのはなかなか容易なことではない。私達の間でも、補習にとりくんだもの、追試をテストの度毎にやったもの、1人1人を呼んで1つのレッスンを丸暗記させたものなど、各人各様に工夫をこらして授業にとりくんできた。

私達はこうした努力を大切にし、あせらずにまた着実にとりくんでいきたい。そして、ノートのとり方なども含めた予習・復習のし方の具体的な指導、各学年を1人の教師が担当するのがよいかどうかといったことも検討していきたい。

## 六年一貫カリキュラムの問題点

### —週時間 2・2・1 の題材—

#### 美術科

|      | 48年度1年   | 49年度2年   | 50年度3年   |
|------|--|--|--|
| 現3年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内風景写生</li> <li>色彩・配色練習</li> <li>自然物の構成</li> <li>カレンダーの作成<br/>(夏休み宿題)</li> <li>木版画</li> <li>ボード板レリーフ</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆による風景写生</li> <li>エッチング</li> <li>石こうデッサン</li> <li>(夏休み宿題)<br/>(写生会—興福寺国宝館見学)</li> <li>粘土レリーフの石こうとり</li> <li>日本美術史</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>淡彩風景写生(8ツ切)</li> <li>ポスター</li> <li>(写生会—正倉院展見学)</li> <li>自分の部屋の設計</li> <li>西洋美術史</li> </ul> |
| 現2年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内風景写生</li> <li>色彩・配色・レタリング</li> <li>自然物の構成<br/>(夏休み写生)</li> <li>格言によるデザイン<br/>(写生会—県展見学)</li> <li>ボード板レリーフ</li> <li>木版画</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>風景写生</li> <li>人物画</li> <li>エッチング<br/>(夏休み写生)</li> <li>レリーフの石こうとり<br/>(写生会)</li> <li>日本美術史</li> <li>静物画</li> </ul>             |  |
| 現1年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内風景写生</li> <li>石こうデッサン</li> <li>レタリング<br/>(夏休み写生)</li> <li>木版画</li> <li>自然物の構成・格言</li> <li>(写生会)</li> <li>ボード板レリーフ</li> <li>人物クロッキー</li> </ul> |  |  |

上図は6年一貫教育となって以来3年間、中学生が年間、扱った題材である。1・2年生では、週2時間連続授業のおかげで割合にゆとりをもって題材にとりくむことができ、年間5～6の題材をこなすことが出来る。3年生の教科書にでてくるレリーフの石こうとりの作業を2年生で扱うのは多少困難はあるが、3年生の週1時間ではとても扱えない題材なのでやむをえない。

しかし、週1時間だけで3年生がこなせる題材は、なるべく小規模のものとし、準備、後片付けに時間をとらないものを扱っても、作品が完成するのは3点くらいのもので、1つの作品を4ヶ月にもわたって、コチョコチョ続ける様は、まことになさけない。前の紀要にも書いたが、情操教育のもっとも大切な時期に美術・音楽などが週1時間しかないというのは、他の教科との比較から言っても、34分の1の比重でよしとすることで、この文部省の姿勢には、芸術教育にたずさわる者として怒りすら感じるものである。

# 保健室からみた生徒の実態

健康課 中 村 ハツ子

## 1 毎日の執務の中で、保健室を訪れる生徒が実に多い。

朝登校するとすぐにやってくる生徒の訴えを聞く。朝食を摂らずに来るため気分が悪い、頭痛、頭がフラフラする、むかつき、腹痛等を訴える。そのほとんどが、夜ふかしのための睡眠不足で朝食をとっていない事が原因だと判る。発達の著しい成長期に夜遅くまで、勉強しているため起床時に起きられない、時間ギリギリまで寝ているので朝食をとる時間も、食欲もない。このような生徒の現実をみると、どのように対峙・指導すればよいのかと悩んでしまう。

本校の生徒は他校に比べると、学校の中では開放的で、自分達の日常生活の中での実に様々な悩みを保健室で訴える。保健室では成績として評価されないといと安心感があるのだろうか？家庭では両親、特に母親には良い子でいたい、親に心配をかけたくないという気持よりむしろ母親は勉強の事ばかりいって口うるさいから適当によい子になっているのではないか？生活面の指導、しつけ等の問題はそのまま放置しておいて、勉強の事ばかり言いがちな現在の家庭、両親の態度が反映しているのではないか？

自分の本当の気持、悩みを親にも友達にも教師にも言えない。誰にも相談できずに心の中で悩みつづけるが解決の糸口が見い出せない。その結果、他の事で気分をまぎらわして代償する生徒も一部にはでてくる。(酒、タバコ、パチンコ等)

頭が痛い、お腹が痛いと訴え、すぐに菓を欲しがる。菓さえあればそれで良いと思っている。自分で自分の身体を理解する事もしないし、自分の身体状況の判断をすべて“人まかせ”にする(家庭の過保護)。実際生活に最小限必要な常識としての保健知識に欠ける生徒が実に多い。外傷の手当もできない依頼心の強い過保護な生徒達。教科の学習内容がよく理解できるから、それで良いのではない。学習面、生活面が両立してはじめて健全と言える。

本校では6年一貫教育が実施され、教育内容も序々に精選され充実したものになってきた。恵まれた学校生活をすごし、高校入試がなくなったため学習態度にも余裕が生じ、クラブ活動にも充分参加できるようになった。しかし、高校3年生ではじめて受験に直面することになるので、従来とは異なった形で、精神的な問題が生じてくる可能性が強いのではないかと思われる。

中学・高校生にとって、家庭で親と接する時間は食事の時間ぐらいしかない。親も子供の身体の変化・行動に対して見落してしまう時もある。生徒達は1日の約2分の1を学校生活ですごす(登下校・クラブ活動も含めて)。6年間は彼等にとっても実に大切な期間である。したがって、私たちは生徒の健康状況に十分留意しなければならないと思う。家庭と連絡

表1

## 高校生の生活実態に関

|              |     |    | 高一    | 高二    | 高三    |             |      |       | 高一    | 高二 | 高三 |
|--------------|-----|----|-------|-------|-------|-------------|------|-------|-------|----|----|
| 朝 食          | 本校  | 男女 | 81.6% | 79.0% | 82.3% | 時々とる        | 8.3% | 11.2% | 17.6% |    |    |
|              |     | 男女 | 92.0  | 75.0  | 83.0  |             | 7.2  | 17.6  | 13.1  |    |    |
|              | 奈良県 | 男女 | 72.3  | 65.0  | 60.7  |             | 20.2 | 21.2  | 23.9  |    |    |
|              |     | 男女 | 66.4  | 61.7  | 65.0  |             | 27.5 | 28.0  | 25.4  |    |    |
| 排 便          | 本校  | 男女 | 86.0  | 76.0  | 90.0  | 2~3日に1回     | 10.3 | 23.0  | 9.8   |    |    |
|              |     | 男女 | 54.5  | 50.7  | 60.0  |             | 41.8 | 47.7  | 3.9   |    |    |
|              | 奈良県 | 男女 | 68.3  | 67.1  | 69.1  |             |      |       |       |    |    |
|              |     | 男女 | 41.7  | 41.1  | 40.2  |             |      |       |       |    |    |
| すいみん<br>時 間  | 本校  | 男女 | 15.0  | 16.3  | 17.6  | 6~7時間       | 55.0 | 49.1  | 60.7  |    |    |
|              |     | 男女 | 10.0  | 10.6  | 18.0  |             | 58.1 | 54.0  | 62.2  |    |    |
|              | 奈良県 | 男女 | 13.7  | 13.1  | 21.4  |             | 28.4 | 36.9  | 31.6  |    |    |
|              |     | 男女 | 9.8   | 10.5  | 13.3  |             | 56.6 | 54.0  | 55.4  |    |    |
| 帰宅後の<br>学習時間 | 本校  | 男女 | 53.3  | 57.3  | 41.1  | 2~4時間       | 43.3 | 34.4  | 35.0  |    |    |
|              |     | 男女 | 63.6  | 57.5  | 73.7  |             | 36.3 | 39.3  | 21.3  |    |    |
|              | 奈良県 | 男女 | 78.3  | 76.8  | 55.1  |             | 16.8 | 16.1  | 19.7  |    |    |
|              |     | 男女 | 87.8  | 55.7  | 77.9  |             | 11.2 | 13.0  | 15.5  |    |    |
| テレビを<br>みる時間 | 本校  | 男女 | 63.0  | 49.1  | 72.5  | 2~4時間       | 28.3 | 39.3  | 21.5  |    |    |
|              |     | 男女 | 70.9  | 68.1  | 86.8  |             | 25.4 | 27.2  | 13.1  |    |    |
|              | 奈良県 | 男女 | 35.7  | 33.4  | 34.9  |             | 31.1 | 35.2  | 30.5  |    |    |
|              |     | 男女 | 47.1  | 41.3  | 40.1  |             | 38.4 | 40.8  | 35.2  |    |    |
| 歯みがき<br>習慣   | 本校  | 男女 | 66.6  | 67.2  | 50.9  | 朝 夕         | 20.0 | 21.3  | 2.9   |    |    |
|              |     | 男女 | 78.1  | 39.3  | 52.4  |             | 23.6 | 50.0  | 39.3  |    |    |
|              | 奈良県 | 男女 | 73.1  | 71.7  | 70.8  |             | 16.1 | 18.3  | 20.5  |    |    |
|              |     | 男女 | 66.8  | 64.9  | 64.8  |             | 30.2 | 33.2  | 31.6  |    |    |
| 昼 食          | 本校  | 男女 | 95.0  | 93.4  | 78.4  | パ ン         | 1.6  | 4.9   | 9.8   |    |    |
|              |     | 男女 | 89.0  | 92.1  | 85.2  |             | 10.9 | 4.6   | 3.2   |    |    |
|              | 奈良県 | 男女 | 89.3  | 84.4  | 82.1  |             | 6.4  | 6.0   | 7.6   |    |    |
|              |     | 男女 | 94.0  | 93.7  | 89.1  |             | 8.5  | 8.1   | 11.8  |    |    |
| 夜 食          | 本校  | 男女 | 46.6  | 39.6  | 35.2  | す る         | 51.6 | 60.0  | 66.6  |    |    |
|              |     | 男女 | 60.0  | 60.0  | 55.7  |             | 41.8 | 40.0  | 44.2  |    |    |
|              | 奈良県 | 男女 | 45.4  | 55.7  | 47.9  |             | 54.6 | 44.3  | 52.1  |    |    |
|              |     | 男女 | 49.4  | 54.3  | 54.4  |             | 50.6 | 45.7  | 45.6  |    |    |
| 偏 食          | 本校  | 男女 | 71.6  | 76.0  | 82.3  | あ る         | 28.3 | 23.3  | 19.6  |    |    |
|              |     | 男女 | 76.3  | 72.7  | 52.4  |             | 23.6 | 27.2  | 47.5  |    |    |
|              | 奈良県 | 男女 | 58.7  | 60.5  | 63.3  |             | 41.3 | 39.5  | 36.7  |    |    |
|              |     | 男女 | 48.6  | 42.7  | 43.4  |             | 51.4 | 57.3  | 56.6  |    |    |
| 通学に要<br>する時間 | 本校  | 男女 | 35.0  | 26.2  | 17.6  | 30分~<br>1時間 | 48.3 | 45.9  | 45.0  |    |    |
|              |     | 男女 | 27.2  | 31.8  | 19.6  |             | 56.3 | 50.0  | 45.9  |    |    |
|              |     | 男女 |       |       |       |             |      |       |       |    |    |
|              |     | 男女 |       |       |       |             |      |       |       |    |    |

するアンケート結果 (女子大附高 男 199 名 女 200 名 公、私立高校 18 校 男 2,359 名 女 1,762 名)

|          | 高一         | 高二                  | 高三                 |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|----------|------------|---------------------|--------------------|-----------------|------|------|------|------|----|------|----|-----|--|--|--|
| 毎日とらない   | 10.0%      | 9.6%                | 1.9%               |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|          | 7.5<br>6.0 | 13.7<br>7.3<br>10.0 | 15.4<br>3.2<br>9.6 |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
| 1週間以上ない  | 3.6        | 1.4                 |                    |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|          |            |                     |                    |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
| 7時間以上    | 28.3       | 34.4                | 21.7               |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|          | 30.9       | 39.3                | 19.6               |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
| 4時間以上    | 28.4       | 36.9                | 31.6               |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|          | 33.6       | 35.5                | 31.3               |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
| 4時間以上    | 3.3        | 8.2                 | 23.5               |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|          | 0.4        | 3.0                 | 4.9                |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
| 4時間以上    | 6.6        | 11.4                | 5.8                |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|          | 1.8        | 4.5                 |                    |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
| その他      | 11.6       | 11.4                | 19.6               |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|          | 10.9       | 10.6                | 8.1                |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
| メン類      | 1.6        | 1.6                 | 7.8                | 昼食をとらない高二女 3.1% |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|          | 4.8        | 3.7                 | 3.2                |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
| メン類      | 3.1        | 2.6                 | 7.6                |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|          |            |                     | 2.5                |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
| 夜食内容     | 高一         |                     |                    |                 | 高二   |      |      |      | 高三 |      |    |     |  |  |  |
|          | 本男         | 奈男                  | 本女                 | 奈女              | 本男   | 奈男   | 本女   | 奈女   | 本男 | 奈男   | 本女 | 奈女  |  |  |  |
| メン類      | 21.6       | 45.0                | 10.9               | 42.0            | 20.0 | 56.  | 15.0 | 43.0 |    | 52.0 |    | 43. |  |  |  |
| パン       | 15.0       | 21.0                | 7.2                | 12.0            | 22.0 | 23.  | 10.0 | 13.0 |    | 18.0 |    | 22. |  |  |  |
| 米食       | 6.6        | 18.0                | 0                  | 20.0            | 30.0 | 19.  | 4.9  | 19.0 |    | 16.0 |    | 15. |  |  |  |
| 其他       | 6.6        | 14.0                | 18.1               | 24.0            | 8.1  | 16.  | 6.6  | 25.0 |    | 20.0 |    | 27. |  |  |  |
| 偏食内容     |            |                     |                    |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
| 魚        | 10.0       | 46.0                | 10.0               | 35.0            | 12.0 | 36.  | 6.6  | 25.0 |    | 45.0 |    | 40. |  |  |  |
| 肉        | 1.6        | 20.0                | 3.6                | 26.0            | 0    | 21.  | 4.9  | 33.0 |    | 17.0 |    | 29. |  |  |  |
| 野菜       | 6.6        | 23.0                | 3.6                | 25.0            | 4.9  | 24.  | 8.1  | 20.0 |    | 23.0 |    | 22. |  |  |  |
| 牛乳       | 6.6        | 17.0                | 18.1               | 23.0            | 0    | 18.0 | 0    | 25.0 |    | 16.0 |    | 26. |  |  |  |
| 1時間30分まで | 10.0       | 21.3                | 13.7               |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|          | 10.9       | 15.1                | 29.5               |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
| 1時間30分以上 | 1.6        | 6.5                 | 3.9                |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |
|          | 5.4        | 3.0                 | 4.9                |                 |      |      |      |      |    |      |    |     |  |  |  |

(実施時期 昭和 50 年 10 月)

を密にしながら生活指導（健康指導）をほどこす必要がある。生徒の問題行動の原因は単一ではないし、またある要因がいつも同じ問題行動を引き起こすとは限らない。本人の性格、親子の関係、家庭・学校・社会環境すべてが要因となりうる。生徒の持つ問題を引き出し、共に悩み、考え、解決の方向を見出すよう努めなければならないと思う。外的な傷害、疾病等は外に表われるが、表面に出てこない内的な状態を一日も早く発見し指導することの必要性和大切さを痛切に感じている。

II 奈良県の高校生を対象に、生活実態に関するアンケートの結果、他校と比較して平均を出してみた。（表1 54. 55 頁）

㉑ 朝食について

本校の生徒は毎日とっている者が他校より多かった。他校の高2・高3の男子に朝食をとっていない生徒が目立つが、本校の生徒も約6.5%の男子が朝食をとっていない者がいるのが問題である。

㉒ 排便について

本校高3男子90%が毎日ある（健康）、女子が全般的に便秘症である事がわかった。

㉓ 睡眠時間について

本校では6～7時間が多く、高3に入ると男女共に他校も睡眠不足が目立つ。

㉔ 帰宅後の学習時間について

女子は他校共に男子より学習時間が短い。本校高3男子4時間以上学習する者が約23.5%ある。他校よりよく学習している傾向がみられる。

㉕ テレビを観る時間

本校では2時間以内が多く、他校男子約33%が4時間以上観ているのには驚かされる。

㉖ 昼食について

昼食をとらない生徒が本校高2女子に3.1%ある（不健康）。

㉗ 夜食について

学年が進むにしたがって帰宅後の学習時間が多いため夜食を多くとっている。

㉘ 偏食について

他校共に女子に偏食が多い。

本校の生徒の生活実態が気になったが案外規則的な生活習慣が出来ている事がわかった。しかし、朝食ぬきや、睡眠不足がやゝ目立つことが問題である。

表2 学校管理下における災害（学校安全会適用）

| 種類 | 年度<br>件数<br>性別 | 45 |   | 46 |   | 47 |   | 48 |    | 49 |   | 50 |   |
|----|----------------|----|---|----|---|----|---|----|----|----|---|----|---|
|    |                | 男  | 女 | 男  | 女 | 男  | 女 | 男  | 女  | 男  | 女 | 男  | 女 |
|    |                | 骨折 | 4 | 1  | 5 |    | 8 | 1  | 10 | 2  | 7 |    | 5 |
| 捻挫 | 2              | 2  | 6 |    | 1 |    | 2 | 2  | 2  |    | 5 | 1  |   |
| 打撲 | 3              | 2  | 5 |    | 1 |    | 5 |    |    |    | 1 |    |   |

|      |    |   |    |   |    |   |    |    |    |   |    |   |
|------|----|---|----|---|----|---|----|----|----|---|----|---|
| 挫 傷  | 12 | 1 | 30 | 2 | 12 | 2 | 8  | 4  | 7  |   | 5  | 2 |
| 切 傷  | 4  | 1 | 3  |   | 1  |   |    | 1  | 5  |   |    |   |
| 脱臼   | 2  |   | 1  | 3 | 2  |   |    |    |    | 1 |    |   |
| 歯牙破折 |    |   |    |   |    | 1 | 1  | 1  | 1  |   | 2  |   |
| 歯牙外傷 |    |   | 2  |   |    | 1 |    | 2  |    | 1 | 1  | 1 |
| 眼疾患  | 3  |   |    |   |    |   |    |    | 2  |   |    | 1 |
| その他  | 1  | 1 | 1  |   |    |   | 1  |    | 1  |   |    |   |
| 計    | 31 | 8 | 53 | 5 | 25 | 5 | 27 | 12 | 25 | 2 | 19 | 6 |
| 合計   | 39 |   | 58 |   | 30 |   | 39 |    | 27 |   | 25 |   |

※ 45年度からの学校管理下における災害で、学校安全会の適応したものをあげてみた。  
 年々、学校生活全体として生徒自身に落着きの傾向がみられる。  
 小さい傷は毎日相変わらず多いが大きな傷の件数が少なくなってきた。

50年度の身体平均体位をあげてみた。本校生徒の平均体位は奈良県、全国に比べ少しまさってきているが、体位にみあう体力の充実が必要だと思われる。

表3 50年度身体平均体位

| 学年 | 地域別 | 項目<br>男女 | 身長    |       | 体重   |      | 胸囲   |      | 座高   |      |
|----|-----|----------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|
|    |     |          | 男子    | 女子    | 男子   | 女子   | 男子   | 女子   | 男子   | 女子   |
| 中1 | 本校  |          | 149.2 | 150.6 | 40.4 | 41.0 | 72.0 | 74.0 | 80.9 | 81.7 |
|    | 奈良県 |          | 148.9 | 150.1 | 40.3 | 41.9 | 72.1 | 73.9 | 79.6 | 81.3 |
|    | 全国  |          | 148.3 | 150.1 | 39.9 | 41.6 | 71.8 | 73.9 | 79.4 | 81.1 |
| 中2 | 本校  |          | 156.6 | 154.2 | 45.8 | 46.2 | 74.3 | 76.7 | 83.5 | 83.3 |
|    | 奈良  |          | 156.8 | 153.5 | 45.7 | 45.8 | 75.3 | 76.9 | 83.4 | 83.2 |
|    | 全国  |          | 155.8 | 153.0 | 45.3 | 45.7 | 75.5 | 77.0 | 83.0 | 83.0 |
| 中3 | 本校  |          | 166.2 | 156.8 | 53.6 | 49.4 | 80.0 | 79.2 | 89.1 | 84.7 |
|    | 奈良  |          | 162.5 | 155.4 | 51.1 | 48.9 | 79.2 | 79.4 | 86.5 | 84.6 |
|    | 全国  |          | 161.9 | 154.7 | 50.7 | 48.8 | 79.1 | 79.2 | 86.3 | 84.2 |
| 高1 | 本校  |          | 167.9 | 156.9 | 59.4 | 50.9 | 83.7 | 80.7 | 89.4 | 85.5 |
|    | 奈良  |          | 166.6 | 156.0 | 55.6 | 51.4 | 81.6 | 81.2 | 89.1 | 85.1 |
|    | 全国  |          | 165.9 | 155.6 | 55.1 | 50.8 | 82.2 | 80.7 | 88.8 | 84.9 |
| 高2 | 本校  |          | 171.1 | 157.9 | 60.1 | 51.5 | 85.7 | 82.5 | 90.7 | 85.9 |
|    | 奈良  |          | 168.6 | 156.6 | 57.7 | 52.3 | 83.7 | 81.8 | 90.2 | 85.3 |
|    | 全国  |          | 167.7 | 156.1 | 57.6 | 52.0 | 84.2 | 81.5 | 89.9 | 85.1 |
| 高3 | 本校  |          | 170.1 | 158.0 | 59.9 | 50.8 | 85.2 | 81.0 | 91.2 | 85.8 |
|    | 奈良  |          | 168.2 | 156.3 | 59.3 | 52.5 | 85.3 | 82.2 | 90.7 | 85.1 |
|    | 全国  |          | 168.7 | 156.2 | 59.1 | 52.3 | 85.7 | 81.9 | 90.4 | 85.1 |

(奈良・全国平均は昭和49年度の資料)

# 中学校技術・家庭科(女子向き) における試みの一端

## 技術・家庭科

### <はじめに>

6ヶ年一貫教育にふみ切ってから3年目であるので、まだその成果を云々出来ない段階であるが、問題点として、いささか感じていることは、次のようなことがらである。

1. 高等学校に於いては大学受験による家庭科の軽視、また本校が高等普通教育の学校でありながら、他の近畿付属高校の影響もあって高学年になるほど家庭科が軽視される傾向にあること。
2. 特別教育活動(クラブ活動、学園祭活動)の重視によって、高校における家庭クラブ、ホームプロジェクトの実践が困難であること。
3. 現行の学習指導要領に示されている教科の総合目標は、「生活に必要な技術を習得させ、それを通して生活を明るく豊かにするためのくふう創造の能力および実践的な態度を養う」とあり、豊かな生活とは物質的な、金銭的な豊かさのみでなく、精神的にもより豊かな生活であることを意味しているにもかかわらず、最近の生徒には、また家族には忘れられている向きがあるのでその啓もうをする必要を痛感している。

指導要領には家族関係(人間関係)、家庭管理、経済、社会的な視野での家庭生活が表面に出されていないが、家庭生活に関する技術は、これらの背景なくしては存在しないわけで、家庭科の学習にはたえずこれらを配慮し、かみ合わせてゆく必要がある。

4. 当校のカリキュラムは前号で述べたように、わが校の実情(学校および生徒の実態)をふまえて設定し、生徒の欲求や興味、関心を重視し、生徒の生活に即した学習をなし、それぞれの項目を一貫した流れで学習するよう配慮したが、問題は教科書である。自主編成のため、その学年の教科書だけではだめで、資料プリントを多く必要とすることである。
5. 前述の1～3の事情から、特に素直でとうや性のある低学年において、精選した内容で基礎をおさえて、みっちりやり、それを生徒の日々の生活に——家庭生活——応用発展させて定着させる。自分のものだけでなく、家族のものへと。技術が定着するのみならず、ここに、よりよい家族関係——人間関係が定着するようにと願ってやまない。高校のホームプロジェクトの精神を中学に定着させたいと願っている。それには、家族の理解と協力を願わねば、よい成果は望めない。

最近、人間関係の重視がさげられる向きが多いが、私も人間関係を重視した家庭科教育を主張する一人である。家庭科教育に於いては最も実践しやすい場と考える。それには指導者はたえず生徒にその方向に眼を向けさせるような配慮が必要であると思われる。

家庭科の授業で人間関係について次の3つの面を配慮している。

1. 授業を通して家族間の人間関係をよくし、家庭生活の向上をはからせる。親子の対話、思いやり、あたたかい心の問題を重視している。

2. 生徒間の人間関係

協同作業における協力と分担、個人作業（個人作品）における教えあい。

家庭からの知識技術の紹介。

3. 生徒と教師の人間関係

生徒の心を傷つけない配慮。

生徒の人間形成。

（以上のことがらは当然のことであるが）以下この実例の幾つかを掲げる。

#### <実 例> 授業を通して家族間の人間関係へ

1. 中1でブラウスを製作し、夏休みには、この学習の反省・応用として何かを作らせるようにしている。自分の力を正しく認め、学校の学習で全く独力で出来なかった人は、もう1枚、さらに応用したい人には応用作品を作らせるが、その際技術習得をはかるため、ミシン練習とか、まつりぬい練習とか、目標をきめてやらせる。その作品の主なもの次のようなものである。（これらは簡単な事前指導をする）

○ブラウスの変形

○簡単なギャザースカート（布の扱いによってはブラウスとアンサンブルに、製作のブラウスと調和した着装のものに）

○簡単なワンピース（ブラウスの型紙を伸ばしてウェスト、すそ幅の変形をする。すそにフリルをつけた形の指導もする）

○洋がけエプロン、サロンエプロン（ブラウスの型紙から好みの形のものが作れるように指導する）

○袋物など（ブラウスの残り布、その他の布で）

休暇中の作品のため、生徒の手でやれないむづかしい個所のある場合は、家人の手が入れればはっきりと言わせるようにしている。夏休みの作品であれば、親子で大作にかかるのも意義のあるところである。

こうした作品の中からその1つを掲げる。

ホームドレスを作って

S.48年8月（9月） ○○○○

私はどうしてこのホームドレスを作ったかというと9/15は敬老の日なので、その日に祖母にあげようと思ったからです。

私には2人の祖母がいるが、夏休みに1つ作り、9月になってもう1つ作ります。

ブラウスを作った時のよう法で、袖なしのホームドレスにしようと思っていたのですが、祖母は半袖の方がいいと云うので、袖だけ母にしてもらいました。それからもう1つしてもらったところがあります。それはブラウスのように下まであけてしまわないで、すそから30cmくらい上までぬいました。そこを母にしてもらいました。

あとは自分でしたのですが、わきをぬう時長いので、下の方がゆがんで5回ほどやり直しました。そのほかは前した時と同じようなことでした。でも、まつりぬいは前よりも速くできるようになりました。

これから、もう1つ作ろうと思います。

材料費 布442円、使用布量90cm巾-2.4m、かざりボタン32円

#### 教師の評

お母さんとの合作のワンピース。とてもよいのが出来ました。2枚目の作だけに、やはり上達のあとがみえてうれしく思います。この素晴らしいプレゼントをおばあさんはどんなにかお喜びのことでしょうね。あなた1人の作も喜んでいただけるのですが、あなたとお母さんの合作のほうが、いっそうお喜びになるのではないかと思います。もう1枚も協力してがんばって下さいね。



そしてこの生徒が中3になって秋に、中1の作のことを尋ねてみた。そして本人とおばあさんに一筆書いてもらった。

私は毎年敬老の日には祖母にプレゼントをします。私は夏休みに何かを作ってみようと思って母に相談したら「敬老の日のプレゼントを作ったら」と教えてくれたのがきっかけで、ホームドレスを作りました。中1の時はミシンの使い方もうまくなかったし、まっすぐ縫えた所など少ししかありませんでした。

そんな服でも祖母はとても喜んでくれました。大阪に住んでいる祖母にも同じ物を作って送りました。「いつも着てるよ」と言ってもらえるととてもうれしいです。

へたでも心をこめて作ったものの価値を知りました。

この夏も祖母のスカートを作りました。とても喜んでくれました。

私自身も、私の作ったものを着てもらえるととてもうれしいです。

これからも、私のうでをのばし、母にも、祖母にも、そして私のも作るようになりたいと思います。

#### おばあさんからの書

「老人の日のプレゼントよ、おばあさん着てみ」と云って洋服を作ってくれました。有難う着せてもらいますよと毎日着せてもらって居ります。なれない洋服を一生懸命作ってくれた気持ちを私はうれしく有難く思って居ります。毎年老人の日には何かをプレゼントしてくれます。旅行の時もお小遣いにつかって下さいと手紙といっしょにお金を入れてくれた時もあります。

感想文を書けとの事ですが、私はむづかしい事は書けませんが、心から感謝して孫達とたのしく毎日を過ぎしてもらって居ります。

ばあさんの ふみたまわりて 感泣す

これがほんとの 教育なりと

拙い歌ですが私の気持ちである。

2. パジャマ製作において ○○○○ノートより

- 基本のパターンから応用した。
- 弟さんにお揃いのパジャマを作ってやろうとのべている。

3. 染色の弁当風呂敷 ○○○○

こん色に染めて、父の弁当包みにした。魚の所が包んでおいた時、上になるように、またびったりおさまるように図案を考えた。そのため少々細かい図案になりすぎたかと思う。布は使い古したハンカチで、もう少しパリッとした布の方がよいと思うのだが——。染め上げてみたら、色はだいたい思った通りになり配色よく出来たと思うが、きれつは少しはいいだけで、ろーけつ染めとしてはあまりよいとは云えないと思う。

でも父に「使ってくれますか」ときいてみると「使ってやろー」と云ってくださったのでまあまあ……いいのです。

先生の評 大変良いのができました。

お弁当包みとしてデザインも図案の配置もなかなか考えていると思います。

お父さんもきっと喜んで使って下さるでしょうね。

4. 染色の鯉のぼり製作 6人で合作

担任の先生に男の赤ちゃんがお産れになったので、6人で合作してミニ鯉のぼりをろーけつ染めで染めあげ（図案から型紙とり）、仕立てまで全部自分達で創作し、プレゼント。

（染色過程で失敗し何度も苦心して染めていた。）

以上は被服製作関係の事例であるが、学習からよりよい人間関係への発展がうれしく思われる。

真の家庭科のねらいは何か、私は思う。

創意工夫のできる人

思いやりのある心を持つ人

>これに結びつけた技術指導をしたい。

<実 例> 生徒と教師の人間関係——生徒の人間形成

最近の学校教育では、学習内容がむつかし過ぎて、また、出来ない子が非常に多いと言われるが、家庭科では、わからない子、出来ない子はどこに問題があるのだろうか。わかろうと努めない、やろうとしない子が、言わば意欲と態度に問題があるように思われる。そこには学習内容の難度もあろうが、指導者の要を得た指導テクニックが大きなウェイトを占めているように思われる。

次あげる例はその代表的なものと言える。

教育実習生の指導でブラウス製作の後半を完成させるわけであるが、その指導の如何で学習意欲をなくし、作品の完成にまで至らないことがある。放課後残してやらせようとしても、ほんとに残ってやってほしい生徒は来ない。そして悪循環の繰り返しを呈する有様である。授業

中に短時間にポイントをつかんで適切な示範と助言をすれば逃避的な生徒はなくなるかもしれないが——。また、実習教科においては、1学級の人数の多さと指導の不徹底が、なげやりの生徒を作ることになる責任を痛感する。

事例は1昨年夏・秋のことである。何回作品の提出を求めても応じないで、とうとう2学期末に未完成のまま提出。その作品を前にして、何とかこの生徒を改心させたいといろいろ配慮して長期戦で取りかかった。永年の教師生活でこうした経験は始めてで、結果には自信がなかったが、1対1で、始めからやり直した。現在の学校生活のペースを乱すことなく、「夏には着られるようにしようね」と週に1回はやることを約束して取りかからせた。

その中にだんだんと生徒の態度と表情が変わって来た。今迄、私から遠のいて行った生徒が積極的に近づいて来るようになった。1つ1つ作業のポイントを説明し示範すると、何とか人並みに出来る。やはり要を得た個人指導の意義が認められた。時間はかかっても仕事は着々と進められた。時には私の都合（公的な）で、学習が取り止めるようになって、私をよく理解し素直な態度に変わった。

その中に、この学習以外のことも他の級友に代ってやって呉れるようになった。

家で説明通りにやって来た仕事（そでぐりのしまつ）も以前の拙さと大差なかったので、「あなたの努力は認めるが」といって解き直して良い見本を示した。それ以後の、えりつけとその始末など素晴らしい出来に成長した。

そして、いよいよブラウスの完成。素晴らしい出来栄えのものを前にして感こもごも。

ブラウスとの取り組みにより生徒の成長を何よりも嬉しく思った。

次に拙い歌をあげるが、生徒のブラウスとの取り組みのひとつまでである。

◎女の子 今日はいかがと ききに来る

意欲に満ちた まなざしの顔 S.50.1.21

◎忙しき われはあの子に こたえ得ず

目をかがやかし やるぞと来しに

◎忙しき われはあの子に こたえ得ず

だのにあの子は すなおな笑顔

◎女の子 今日は型紙 とりにけり

わからぬところ ききに來ながら

◎型紙を とりえて帰る 女の子

作業を終えし 顔のほころび

◎型紙を とり終えし子の 帰りに

“ありがとう”との 言葉残しぬ

◎女の子 今日は出来たと 見せに来る

その出来栄えと 顔のほころび

◎教師して こんなうれしき ことはない

あの子の作と 笑顔に接し

◎教師して これがほんとの 教育と

つくづく思う ブラウスを見て S.50.5.9

次に掲げるのは本人の昨秋の感想文である。

ブラウスを製作して

〇〇〇〇

私は家庭があまり好きではありませんでした。だから1年生の時に作る筈のブラウスも「つくらないでごまかしてしまおう」と思いました。しばらくして先生に「ブラウスを出しましたか」ときかれ、「今からでもよいから作りましょう。」といわれました。その時私は、「いやだなあ」と思ったのですが、しかたなくやりはじめました。何しろ、始めから作る気がなかったので、授業中、先生の話も聞いていないから、作り方もわかりません。ほんの少しやりかけた分をほどいて、きれいにアイロンをかけ、型紙に合わせて、間違っていないか確かめると、先生に教えてもらいながら毎週放課後残って少しずつやっていました。

そでぐりのバイアステープをまつる時にも、私の縫い方があらかったので、先生が縫い直して下さり、寸法のあっていなかったところまで直していただきました。何度も縫い直したところもあり大変でした。けれど、でき上がった時は、自分でしたといううれしさでいっぱい、作らないで、ごまかそうとしたことは悪かったと思いました。

また先生はめんどくがらずにいろいろ教えて下さって感謝しています。

今年の夏、このブラウスを何回も着ました。着るたびに、ほんとうに自分で最後までやりあげてよかったと思いましたし、あのブラウスを1枚ぬって、さいほうが好きになり、何でも自分で出来るようにもなりました。

今、スカートの製作を習っています。はやく作りたいと楽しみにしています。

そして2学期の終りには、他の生徒に遅れをとらず、人並み（少々技術は拙いが）の作（スカート）が出来上り、反省会にも立派に着用した。拙い部分を注意すると、「どう直せばよいか、家でやります」との積極性、自立性が見られ、ほんとうによかったと思う。

家庭科の学習では、単に作品を作りあげるのみでなく、仕事を通して、人間性を養うのである。家庭科は人間形成の場である。

作品を作る過程を大事にし、教師と生徒のふれ合いの中から、生徒の可能性を見出し、いささかでも人間改造に盡力できたことをうれしく思う。

<おわりに>

食物および他の領域においても、よりよき人間関係を配慮して学習をすすめているが、今回は被服領域における数例をあげた。これらは何ら新しい試みではないが、現代の世相の中で、とかく忘れられ勝ちの面である。そして地味ながら非常に大切なことである。

技術・家庭科、高校家庭科には、時代の進展と共にとり組まねばならない問題が多い。今後はその面にも努力して行きたいと思う。

以上、技術・家庭科におけるささやかな試みの一端を述べたが、諸賢の御批判を仰ぎ、御教示をいただきたいと思う。

# アフガニスタン紀行

吉田 裕

## (1)

日本とはすべてがすっかり違った土地に来ているのだということをはっきり自覚して、それに応じた振舞が出来るようになるのは、なかなか容易なことではない。しかも、飛行機での旅は、移動した距離を感じない。目的地に到着しても突然見知らぬ土地に放り出された感じで、自分がどっから来たのか、そこがどんな土地柄なのか見当がつかない。やたらと周りをキョロキョロ見わたし、他人のまねをし、相手の話がわからなければ、相手の顔をじっと見つめる。そんなことからアフガニスタンの旅ははじまったのだ。

アフガニスタンは、日本から飛行機で一日あれば十分にやってこられる国である。現在は直接の便がないので、インドかパキスタン経由か、北方のソ連邦から入国するしかない。アフガニスタンと日本は、同じアジアに属し同緯度に位置する国であるが、湿潤アジアにある日本と、乾燥アジアにあるアフガニスタンとは、気候、風土はもちろん、歴史や文化、政治や経済の事情にいたるまですっかりちがっているのは、前もって調べた知識だけで充分わかるはずである。だがアフガニスタンの地に足を降ろしてみると、その異様な風景や雰囲気、圧倒されてしまう。いろんな予備知識も実際にためしてみないと何の役にもたない。実際にためすといっても、言葉の不自由さも手伝って、それもままにならない。しかし、必要は最大の勇氣である。必要に迫られて、ものを尋ねる、買物をする、その繰返しに、好奇心と執着心がわいてきて、他人と話をしたくなったり、もっと買物をしたくなってくるのである。

飛行場からホテルへ。そのホテルは、飛行機だけ同行させてもらった他のグループのリーダー（彼は日本とアフガニスタン、パキスタンを往来する若い美術商装飾家である。私たちは彼のお陰で、航空運賃が通常の半分ですますことが出来たのである。）がとりあえず紹介してくれたものである。その宿に荷物を下ろしても落着かない。当然である。案内書にもある最も安いクラスに属する木賃宿である。私たち同行6人は8畳ぐらゐのきたない部屋に入れられた。ベッドは6つあるが、空間はほとんどない。そのベッドも木のわくに縄で纏ただけのみすばらしいものである。案内書にはベッドの縄の目の中に、南京虫やだにがいてと書いてある。部屋の鍵などももちろんない。共同のトイレとシャワーは、汚なく、半分こわれていて水はやっと出るが、途中で出なくなる代ものである。他の部屋は、土間を板で1~2坪位の空間に仕切って、そこへベッドを放り込んだお粗末すぎるものである。この宿の1泊の宿泊料は1人20アフガン（日本円で100~120円、1アフガン5~6円）であるから決して文句はいえない。私たちは、当然こういった宿のための対策はしていた。DDT等の殺虫剤、虫さされのための薬、錠前、トイレトペー

パー等、準備は万端であったが、さすが不衛生なのがたまらないし、身体が休まらないので次の日は都心の2流ホテルに移った。そのホテルさがしのために、アフガンツアーという政府の観光会社の人と話したのが最初、片言の英語と現地語が通じたので度胸がわいてきて、次から次へとホテルをさがしまわった。結局、プライベートバス・トイレ、応接4テンセット付の3人用の部屋に到着した。部屋代は1部屋500アフガン、1人1,000円足らずであるから日本のことを思うとやはり安い。メトロホールホテルといったが、このホテルがわれわれのアフガニスタン滞在中のベースキャンプになった。このホテルへの移動はあとになってほんとうによかったのである。なぜなら私たちは三日目の夜から次々と腹痛と下痢におそわれ、昼夜となくトイレに通ったのだ。

最初の宿で私は日本人の学生のカップルに出会った。女の子は小さくて気の毒なくらいやせている、男の方も頑丈ではないむしろ弱々しいタイプである。さっそく夜彼らを私たちの部屋にまねいてお茶でパーティーをひらいた。いろいろと情報を教えてもらった。ねだんの相場は、交通機関は、食べ物、飲み水は、といった現地で仕入れる情報の方がやはり確実で、それを聞くだけで安心が出来るのだ。彼らは北アフリカからずつとバスやヒッチハイクでやっとここまでたどり着いたということである。彼らの表情は無表情で疲れていたけれども、自信に満ちたものがあった。彼は、今では生水はいくら飲んでもだいじょうぶであるが、食べ物が悪くてこの1週間この宿で足止めをくっているとのことである。私は、彼らのこの姿に少なからず感激をした。私たちはその日この土地に着いたばかりで、無事旅行が終えられるかどうか不安だったせいも手伝ったのであろうか、たった2人でアフリカからアジアに向って旅して来たその勇氣に感心させられた。日本とは全くちがった国々を、不安や困難や病気にうち勝って旅を続けているなんて、私が毎日教室で教えていることよりはるかに多くのことを、より大切なことを学び身につけられるであろうと、教室でチョークと言葉でつましている授業に全くむなしさを感じたのである。そして私自身も、もっと早くつまりもっと若く身体の強かった時に、こんな旅に出なかったのだろうかと一瞬の悔しさを感じた。この旅の間に一人で旅をしている学生や教師に出会った。その度にいろいろ情報の交換を行った。日本人には、首都カーブルやバーミアンでよく出会った。その多くは50人位の団体である。バスで、添乗員や案内人付きで予約した一流ホテルに横づけである。そういう「ジャパニーズビッググループ」には、何となく、反拗を感じる。

空港に着いて以来ずっと感覚の合わないものがある。気候のことである。飛行機から空港に降り立った時の、空間の明るさは強烈であった。空は雲一つないコバルトブルーである。太陽の光と熱がぴちゃっと肌にくっついてくる。熱せられた鉄の棒を手で握ったとき、皮が棒に吸いつけられたときの感覚と熱さである。日本では体験しない暑い太陽である。空以外は茶色の山と砂漠である。街に入ると土色や白色に塗った低い土の家が立ちならんでいる。いったん建物の中や日陰に入ると暑さは感じない。日中は25℃から30℃は越えている。私はアフガニスタン滞在中、ずっと長袖のTシャツの上に半袖のサファリウェアを着ていた。北の方へ行ったときにはセーターが必要であった。夜は毛布を着て寝る。インドでは半袖のシャツでもずくずくになるくらい汗が出た。アフガニスタンでは汗はほとんど出ない。いや汗をかいていないと思っていると大へんな錯覚で、その錯覚は危険なのである。ほんとうは汗はたくさん出ているというのである。空

気があまり乾燥しているので出た汗はすぐに蒸発してしまうのだという、しかし私自身汗をかいているという感がないばかりか、肌から汗の出ているのを見たことがない。たゞ長い間座っていて急に立った時、お尻のあたりがさっとつめたくなる。汗が蒸発しているのだが、汗を感じるのはこれだけである。もう一つ汗が出ている証拠がある。それは小便が出ないことだ。出ても大へん少ない。だから、砂漠の真中で放尿する快感は一度も味わえなかった。小便が全く出なくなると脱水症状の兆しでたいへん危いといっておどかされた。だから水分の補給にはいつも充分に気をつけなければならない。水分を補給するといっても旅行者には、生水が飲めない。アジアの国々では、コレラやチフスは野ばなしの状態であるという。コレラやチフスのような大病にかからなくても生水を飲むと必ずいわずの水あたりをする。私たちは、そのことにはたいへん気をつけたはずである。生水は絶対に飲まなかった。朝口をすすいだりするときにも、野菜や果物を洗ったときのこり水にすら警戒をした。ところがアフガニスタンに着いて3日目の夜、私はひどい腹痛と下痢におそわれた。最もおそれていたことが起ったのだからやはりショックである。一体どうなるのだろう、異郷の地で死ぬなんてロマンチックだと慰めながら一夜を苦痛と不安の中にすごした。翌朝、飛行機だけ同行した別のグループの医者呼んできて診察をしてもらった結果、水臌炎だという、以後食事を制限すること、油っこいものを多く食べないことを宣言された。アフガニスタンの料理はほとんど油と香料がこってりきかしてある。口がいやしく旅行中は現地の食べ物を食べることが趣味の私には、実に残酷な宣言であったが仕方がない。まる2日間寝込んでしまった。口に入れたものはシュラーという日本の白かゆと梅干、それにメロンだけである。だがこのメロンは人間の顔より大きい、水分がたっぷりあり、たいへんおいしい。私たちはこのメロンを実によく食った。そのメロンは私たちの命の果物であった。ベッドの上の2日間はつらかった。同行の友人に申し訳ないとも思う。「美人のいる病院に入院させてみんなは予定通り旅を続けてくれ」と私はわめいていた。ところが友だちも次から次へと下痢におそわれた。アフガニスタンやインドで起こる下痢は、日本で起こる下痢よりはるかに強烈である。われわれはみんなすっかりおじけづいてしまって結局3日間ケーブルですごして予定をおくらせてしまった。かくのごとくであるから、寝起きの水の、ふろ上がりの1ばいの、あの水のうまさは味えない。「ちくしょ、日本に帰ったら何よりも水をがぶがぶ飲んでやろう」と何度思ったかしれない。たゞ山の中で一ヶ所だけわき水を飲むことが出来た。その時のつめたさ、のどを通るとき感覚は抜群であった。そこには旅人や遊放民がたくさん憩をとっていた。山の中のオアシスである。

私たちは、はじめの頃は外出には必ずホテルで水筒にボイルドウォーターを一ばいつめてもらって持って歩いた。1度沸かした湯は安全なのである。しかしその湯は冷たくはならないし、味のなまずい水分を義務的にのんでる感じである。あとからは、外出にはやはり水筒にボイルドウォーターを入れてもって出たが、それは砂ばくを渡るときの一の事故のためのものになった。なぜなら、アフガニスタン人も、日本人と同じようにお茶が好きである。お茶のことを「チャイ」という。チャイを飲む日本の喫茶店のようなところを「チャイハナ」という。都会はもちろん、山の中の道路沿にも、砂漠を走る国道（アジアハイウェイ）に沿って、自動車ですぐ1～2時間走るとチャイハナがあらわれる。チャイハナでは必ず、旅人たちは休憩をとる。「ナン」というパ

ンか油でいためたためしそれにひつじかラクダの肉の焼いたもの（カバブ）で腹ごしらえをし、チャイで水分を補給して、再び砂漠の中に消えていく。チャイハナは、日本のように決して美しくも、衛生的でもない。ほこりっぽくよごれた土の家に、こわれかけた椅子と机だけが並べてあるが、土間にさすがお国がらのジュータンが敷かれている。ハエがぶんぶんとんできてたべ物の上にとまる。このハエには全く困った。ぶどうづるの棚があったり、湯わかし器であるサモワールが店先きにおいてあったり、12,3才の少年が店の中を忙しく立ちまわっている、そんなチャイハナの風景は美しくはないが素朴な雰囲気はただよっていた。都会では2〜3（10円ぐらい）アフガン、田舎では5アフガンも出せば、日本の急須に似たポットいっぱい注文に応じて、グリーンティ（日本茶）が、ブラックティーが運こばれてくる。コップと砂糖がいっしょについてくる。そのコップやスプーンのきたなさを気にしていたら砂漠の旅は出来ない。なんてえらそうに言えるのは、だいたい慣れて後のことである。川のそばのチャイハナで朝食にのんだやぎの乳の入ったミルクティーの味は忘れられない。

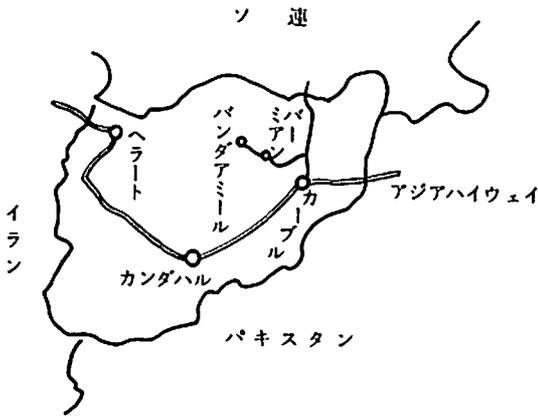
このチャイハナのどこへ行っても必ずお目にかかる代物がある。それは、アフガニスタンでも今やのどを潤すのになくてはならないものになりつつある。コココーラとファンタだ。コーラと、ファンタがアフガニスタンの砂漠の小さなチャイハナまで……。最初はおどろき、感心もした。さすがに世界のコココーラだ。しかし私はどうしてもアフガニスタンのコーラを飲む気になれなかった。

私たちは、旅の終りのころにはだいたい大胆になり食器や果物も洗ってすぐ口にしても平気になったけれども、水には最初から最後までままにならず困った。乾燥地帯で水の持っている意味は、豊かで良質の水のある日本とはくらべものにならないくらい大きい。水を支配するもの国を支配するものである。

## (2)

アフガニスタンは、北はソ連邦、東南はパキスタンに、西はイランに囲まれた完全な内陸国である。しかも北東の端を世界の屋根であるパミール高原につらねているヒンズークシ山脈が、アフガニスタンの屋台骨のごとく北東から南西に向ってつき出している。その端はさらにイラン高原につながる高原の国でもある。ヒンズークシの高山には万年雪が消えることがないという。首都カーブルも1,800 mの高い所にあり、30度を越える夏の炎熱は、冬には一変して雪に埋まるという。国土全体は、砂漠か半砂漠におおわれている。アフガニスタンを東の端としてアジアからアフリカにかけての大砂漠地帯が広がっている。この砂漠は、日本の緑と水に恵まれた自然に慣れている私たちに、もう一つの自然、自然の持っている無慈悲で冷酷な素顔をむき出しで見せてくれるのである。

アフガニスタンには鉄道はなく、砂漠の中にカーブルーカンタハルヘラートと東西を南方に弓なりになったアジアハイウェイが走っている。移動にはバスか車をチャーターする以外にない。私たちは運転手付の車をチャーターして、カーブルーバンデファミリー、カーブルーヘラートと移動をした。車は、トヨタである。運転手は日本の車はベリグッドとはめてくれたが、こんな異郷で



日本のトヨタに乗るのはへんな気持ちである。車は、大海を渡る小舟のごとく砂漠を渡るのである。カブールから南のカンダハルへ、カンダハルから北西のヘラートへの旅の出発はいつも午前4時である。日の出前2時間のまっ暗な砂漠は不気味な空間である。なぜこんなに早く出発するかといえば、午前中の比較的涼しいうちに出来るだけ遠くまで砂漠を通り抜けなければならないのである。昼過ぎの砂漠は、灼熱の地獄である。ヘラートからの帰途、やはり4時に出発したが街はずれまで来たときエンジンの故障

で立往生してしまった。暗がりで行くからキャブレターを分解しても直りそうにない、とうとう運転手はアッラーの神においのりをはじめた。彼は敬虔なイスラム教徒のようであったがいくら強烈なる神アッラーも現代文明の武器自動車の修理までおできにならない。私たちはどうしてもその日のうちにカンダハルまでもどらねばならない。その自動車がダメならバスで帰る手配をしなければならない。自動車の修理が可能なのかどうか運転手(彼の名は、ムハマッド・ムローという)と話をしなければならない。ところがムロー氏は英語が話せないのだ。私たちは全く困りはてた。ムロー氏はわれわれにとって無能な運転手であった。カブールからカンダハルまでは、われわれの友人アミン・クヒ氏が案内に付添ってくれたのだが、カンダハルのホテルへ電話で彼の奥さんが病気になるという報があったためすぐにカブールへ戻ってしまったのだ。あとは、サンキューしかわからないムロー氏が砂漠の案内人である。ミュージアムがわからなくて何時間も街の中を引きまわされたり、運転の途中で居眠をしたり、道を間違えて、パキスタン国境まで往復4時間の行程走ったり、腹の立っことがあったが、怒っても言葉が通じないのだからけんかにもならない。道を間違えたときは彼もショックだったのか、腹立しかったのかさかんに何かわめいていたが私たちにはさっぱりわからない。そんな調子だからエンジンの故障の時もいかんとも仕様がな。夜のあけるのを待って車を街の修理屋まで押して戻った。結局4時の出発が9時になってしまった。その日の砂漠の渡航は不安といら立ちとスリルを存分に味わった。午後2時頃になるとエンジンの焼けるにおいがする。自動車の屋根や床はいつもよりもあつい。窓から手を出すと熱風が吹いている。太陽はガラガラと土をたたく。遠くでたつ巻が1すじ又1すじと砂煙をまき上げている。茶色のかわいた土が四方果しなく続いている。ときには、岩石の山が無表情につらなっている。道のところどころに橋がかゝってその下が窪地になっているところは多分川なのだろう。水は一滴も流れていない。いわゆるワジである。地平線の上には、しんきろうなのだろうか、森のようなもの、家のような型のものがゆらゆらとゆれて見える。どこまでいってもその型は変わらない。これが砂漠なのだと思った。もしこの途中でエンジンが止ったら私たちは完全にこの砂漠にほうり出されてしまうのだ。そうなったら困る。われわれの持っている食糧

と水でもつだらうかと心配になる。そうってみても又面白いではないかと思ったりする。しかし、目はいっしょう懸命に前方に早くオアシスがあらわれないか、チャイハナが見えはしないかと注がれているのだ。道は、前も後ろも真直ぐである。何キロも道の端が地平線に消えるまで真直ぐである。この単調さが実に荘大で感動的である。私たちが自動車で走った道は、2千年前アレキサンダーが、もっと前にはペルシャのダリウス王が彼らの軍団をひきいて通った道である。その時、彼らが見たのは、やはり今われわれの目の前にしている同じこの砂漠なのだろう。それよりもっと前何千年、何万年ぐらい前からここはこんな風景だったのだろうか。そしてこれからさきこの景色は決して変わらないだろう。そのことが心の中ではやたらと感動的なのである。自分の人生がちっぽけに見える。人間の生命の営みがいじらしく見える。世界に誇る日本の高度成長の文明が虚飾されたオモチャのようにむなし。全てがこの何も変化しない歴史と空と土しかない空間の中にすい込まれていくような気がするのだ。

何もない砂漠の中に突然姿をあらわすものがある。ラクダや羊の群だ。小さな点々が急に大きくなると、道路の両わきにラクダの何くわぬ平然とした顔、人をくったような大きなあごをあげたラクダのつらがあらわれる。車が近づいてもよけようとはしない。自動車のクラクションがこわれているので、自動車のボデーをどんだたたいたり、大声で「こら、どけろ、ワーワー」とどなりながらぶつかりそうなすぐそばを通りぬけるのである。遊牧民は、この国の20%を占めているという。彼らは、ラクダや羊と一族をひきいて、夏はヒンズークシを北東へ登り、冬は西の方やパキスタンへ降りてくるのである。ラクダの群の近くには遊牧民たちのテントが5つ6つとはられている。いずれも黒くしかも砂をかぶって白ちゃけた汚たないテントである。近くで車をとめると、遊牧民の子供や大人たちがかけよってくる。そしてタバコをくれとか、菓をくれとせがむ。写真などをとってやるとたいへんよろこぶ。遊牧民の子供は1人前の労働力である。彼らは、いきなチョッキを着て、棒をふりまわしながら羊やラクダを追いかけ、群をつくる姿は様になっている。遊牧民の衣装は、白ぼく汚れているが、原色をつかったはでなものである。女性はたくさんの装飾色をつけているらしい。女性を見ることはほとんど出来ないが、くび飾りゆび輪等の装飾は街ではたくさん売っている。遊牧民はまさに砂漠の主人公である。このあつい砂漠を支配している。彼らは成人近くなると、一人で何頭かの羊やラクダをつれて旅に出る。彼らには国境はないらしい。パキスタンやイラン、インドに出かけていく。そこで自分の持っているラクダや羊と、農民や商人の産物や商品と交換する。できるだけたくさんの品物とお金を持って自分の部族に帰ってくる。彼はもう一人前の人間なのだ。ひげをはやし結婚することも出来る。彼らはいへん気性があらいとよく聞く、日本の青年2人が自転車での砂漠を渡る途中に1人が殺されたという話を聞いた。彼らは女性を写真にとると鉄砲で撃ち殺すとも聞いた。町の近くにはたくさんの墓がある。その中に長い棒をたて、その先に旗をかかげたものがある。それは決闘をして殺された人の墓だという。しかし私たちが出会った遊牧民はみんな日やけた人のよさそうな人たちが多かった。遊牧民も最近はずい分定住するようになった。半農半遊牧、半商半遊牧の遊牧民も多いという。友人のアミン・クヒ氏も北方の遊牧民の息子である。彼の父は馬の名手だった。彼の妹たちは、みんなじゅうたんを織っている。彼は、大学を出たエリートであり、アフ

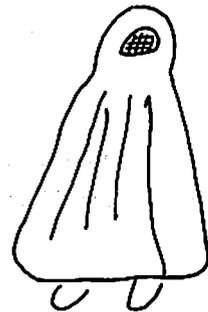
ガニスタンの高級官僚であるが、商人になるのが彼の希望である。

アフガニスタンも砂漠と遊牧民の国であったのが次第に変化をとげて来ているのであろうか。

### (3)

首都カーブルは、人口20万のにぎやかな都会である。町のあちこちにバサールが立ち並んでいる。どこのバサールにも、店先には商品があふれ人がごった返している。日本のように広告や看板などの飾りはないが、匂いと息づかいは日本よりもはるかに熱気がある。アフガニスタンの人々は、みんな勤勉なのだと思う。インドのように浮浪者は一人もいない。日本のように遊戯場は劇場が1軒あるだけで他に何も無い。酒はイスラム教だから飲まない。子供も大人の顔も清気がある。服装も粗末である。民族衣装である、手と足の先をしぼった綿製のだぶだぶのパジャマのような服の上によれよれの背広をきている。その姿は活動的である。昔、イギリスの植民地になる前は、背広のかわり日本のカッパみたいなものをはおっていたようである。顔や身体つきはアラブ系、インド系、蒙古系がある。アラブ系が最もかっこよい。長身で、顔は面長で彫が深く端正である。蒙古系は、日本人によく似ている。背は低く鼻が低い、丸顔である。われわれのホテルのボーイのムハマッド・ボストン氏は、蒙古系である。彼は、自分で日本人によく似ている、なぜなら足がみじかく、鼻が低いからだとよく言って笑っていた。アラブ系と蒙古系の混血のような顔立ちもある。インド系は目がするどいが現代のインド人よりやさしい顔をしている。

女性は抜群である。形のよい鼻。そして何よりも目の涼さ。大きくて丸く、グリーン色の目は、神秘的だとさえ言える。私が少年の頃、写真でみた中央アジアの美人そのままである。「俺は、砂漠も見たかったけれどこの女性の美しさをこの目でみたくてここまで来たのだ」とさえ思った。そんな美人にいつも会えるわけではない。街を歩いている人の90%は男性である。最初の頃は、この男子ばかりというのがどうも奇妙で仕方がなかった。たまたま街で出会う女性の殆んどはチャドルを頭からすっぽりかぶっている。足先だけがチャドルのすそからちょっぴりのぞいている。そんな女性の姿が、実に重々しく、何世紀も前の社会に来ているような錯覚に陥いる。しかしあのチャドルの下からどんな美しい人があらわれるかと思うとあとをつけていきたい好奇心にかられる。友人のアミン・クヒ氏の話によると、アフガニスタンにも売春婦がいる。チャドルを着た売春婦と話をつけて、いざとなってチャドルをとるとたいへん年をとった婆さんだったということがよくあるということである。このチャドルも1958年政府によって古いイスラム教の悪い習慣として、廃止しようという方針が出された。宗教界もおれて女性は人前でもチャドルを着用せずともよい気風が最近ではふえてきたのである。政府の高官の婦人、教師、看護婦、学生、デパートの売子などは、首都カーブルではチャドルを着けないのがふえてきたのだといっている。それでもチャドルを着ない女性に会うのはまれである。学生は黒い制服のようなものを着ているが、17.8才の若い女性は本当に美



チャドル女性

しい。私たちは学生がよく行いチャイハナや、ミスアフガニスタンのような美人のいるデパートによく出かけては、ぬすみ見るように彼女たちを觀賞したものである。女性の表情はその国の運命を象徴するというが、アフガニスタンの女性の顔は明かるかった。

私たちの泊っていたホテルの食堂で時々結婚式があった。結婚式は夜行われる。親類・知人がわんさと集って来て食べる、踊る、歌う、楽団つきで深夜まで大さわぎである。ある結婚式の夜、なじみになったボーイから花嫁と花婿のカラー写真（アフガニスタンにはカラー写真はない）をとってほしいという要望があり、喜こんで出かけていった。まず花嫁の控え室で花嫁と家族が並んで写真をうつしたが、年寄たちは、下をむいて手で顔をかくして絶対に写真をとらさない。ところが式場では花嫁以外に、客の若い娘たちに自分たちも写真をとってほしいとせがまれ、式場の外に出て5、6人の若い娘が得意のポーズをとるのをカメラにおさめた。若い娘は、どこでどの国でも気どりやで、自分たちの美しさを誇りたいのだなァーと思った。

アフガニスタン滞在中にいろんな人と話したり友人になった。ホテルのボーイのポストン氏（30才）、パーミアンホテルのボーイ、フロントの兄ちゃん、彼は私たちが団体旅行者（日本人の）のためにベッドのないテントで寝なければならないはめになるのを間一ぱつで救ってくれた。カーブルからパーミアン間の運転手のセディック氏（34才）、彼は実に立派な人間であり、すぐれた運転手である。買い物を手伝ってくれたし、どんな注文にも応じてくれた。つねにひかえ目で、彼の食費を出してやると（自動車代には運転手とその食費、ガソリン代すべて含んでいる）必らずおかえしをしてくれた。アミン・クヒ氏には、実にたくさんお世話になった。自動車の手配、買物、観光案内等、彼は役所を休んで私たちとつき合ってくれた。

彼らと接して意外なことを発見した。それは彼らの心の動きや態度が日本人と似ているということである。一般に西アジアのアラブ人は個人主義で有名だし、インド人は尊大で誇りたかい。インドではホテルのボーイの威厳のある顔や物腰に圧倒されそうであった。アフガニスタン人は、素朴で勤勉である。そして他人への思いやりの心のつかい方や態度がたいへん柔らかない。あまり自己主張やおしつけがましいところはないが、親切であればべらぼうに親切である。そんなところが、かつての日本人に似ているような気がした。

#### (4)

バザールはいつも活気づいていた。バザールというのは、遊牧民同志や遊牧民と農耕民の商品交換の場として発展した市場である。アフガニスタンの歴史は日本よりもはるかに古い。古い昔からのバザールもあれば、新しいバザールもある。店の模様は日本と比較にならないほどみずぼらしい。戦後のやみ市やマーケットみたいな店構えであるが、小さな店先には、商品があふれんばかりに並んでいる。乾物、穀物、野菜、果物、肉などの日常品専門のバザール。革製品、装飾品、ランプやお茶のポット（ベルシャ風でいわゆるアラジンのランプと同じ形をしていてユニークである）などの工芸品が多いバザール、衣類やはきものバザール、じゅうたんバザールは小さな店が何十軒とならんでいる。チャイハナや、食品の売っている店の前は、ハエまでわんさとおしよせてくる。私たちは、時間さえあれば、あちこちのバザールに出かけていった。アフガニ

スタンは、工業のない国である。マッチやタバコまで輸入品である。都心の比較的美しい店には、日本製のラジオ、布が売られている。ペルシャ風のおもしろい柄の布をみつけ店の中へとび込んで手にとってみると日本製のものでがっかりしたり、博物館で仏像や古美術の美しい絵はがきを買ったらプリント、イン、ジャパンであった。だからアフガニスタンでの買い物は、主に工芸品か、食糧品とジュータンである。

ものを売買する方法が、私たちの日本の風習とちがっているので面白い。どんな商品にも、ホテル代までも、定価がない。もちろん商品には値札などはない。値段は、売り手と買い手との話し合いで決まるのである。大体相場みたいなのがあるらしいが、私たちのような旅行者には、どんな品物をどれくらいの値段で買えばよいのか最初は全く見当がつかない。一たん、相場がわかり、売買のかけひきのやり方をおぼえると買い物は実に楽しくなってくる。あとで損をしたと思うとくやしくて「ちくしょ、今度はうまくやらない」といきりたってみたりする。よい買物をする、自分の買物の手腕に自分で満足し、うれしくて仕方がなくなる。私たちは、買物のときは、運転手のセダック氏やアミン氏によくついて来てもらった。自分たちだけで買物をする、ホテルへ帰ってからいつもポストン氏にこれは安い、高いかとたずねた。「ベリーチープ」とか「ベリーグッド」といってもらうとたいへん得意になる。

店の中に入りほしいものがあると、まず、自分の心の中で大体のねだんをつける。これぐらいなら買おうと。店の主人に「ハウ、マッチ」と聞く。自分の思っていた値段より安かっても一ぱつで絶対には買ってはいけない。少くとも、言い値の半分近くまでねぎる努力が必要である。高ければ、おどろいたような顔をして「ベリ、エックスペンシブ」といって買わないというような顔をする。そうすると商人は、お前はいくらぐらいで買うのだという。そうすると自分の最初つけた値段の半分の値段を言っやる。そうすると商人は「ノー」とくる。それからがかけひきである。その品物をどうしてもほしければ、1時間でも2時間でもねばればよい。もう買わないからといって店を出ようとしたとき、商人がひきとめに来れば成功である。商談が成立したとき、お互いに握手をして、にこにこして別れる。タクシーに乗るときも同じである。旅行者とみると必ず高くふっかけてくる。市内ならどこまでも20アフガンが相場である。運転手は30アフガンと言う。そうすると、いやだお前の車に乗らないというと、20アフガンになる。定員はなく、6人でも7人でも乗れる。私は、8,000アフガンのじゅうたんを5,000アフガンまでねばって買った。現金で買わなくても、自分の持ち物とでも交換出来ることがある。日本のセイコー社の大型の丸い時計、日本製のラジオ、テープレコーダー、シャツは、アフガニスタンでは人気がある。時計1つで、かなりいいジュータンととり代えることができる。私の持っていたスイス製の時計は人気がなく、とり換えるチャンスがなかった。

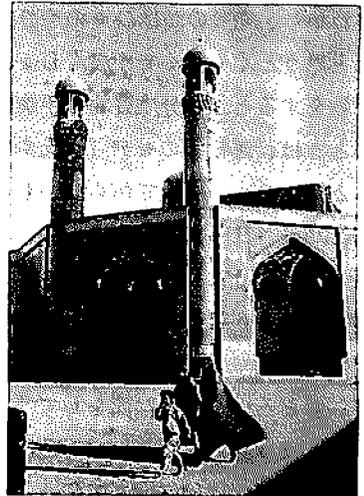
このような物の売買は、私にとってたいへん楽しくて愉快であった。売買のやりとりの中で、相手の商人の人の柄がわかる。中には友だちになってしまうような商人もあるし、ずるくて腹の立つ人もいる。時には露店商（たくさんある）で買物のやりとりをやってると、応援してくれるアフガニスタン人がいる。私たちが、アフガニスタ帽子を買っているとき、まわりから少年たちがあつまってきて、帽子屋のオジサンにさかんにまけてやれという。結局1つ30アフガンする帽

子を30アフガンで3つ買ってしまった。損をするときも得をするときもあるが、納得して買うのであるから、あとくさりがないでよい。これこそ需要と供給によって価格が決定するという経済の基本的な一つの法則の純粋な形ではあるまいか。

以上はアフガニスタンの旅行記の一部にすぎない。食べ物のこと、オアシスのこと、パーミアンやバンディアミールといったアフガニスタンの観光地のこと、モスクのこと、ヘラートという古い街のことなどたくさん書かねばならないことがあるが、又次の機会にゆずりたい。



チャドルの女と子供



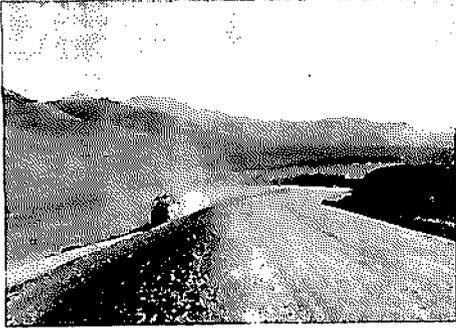
モスクとチャドルの女



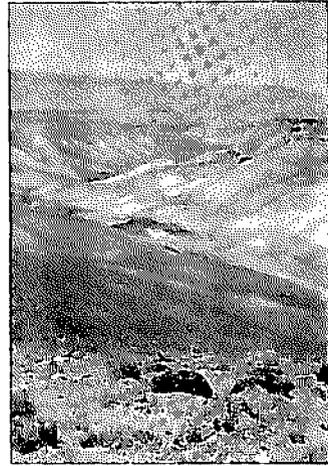
遊牧民とラクダと羊



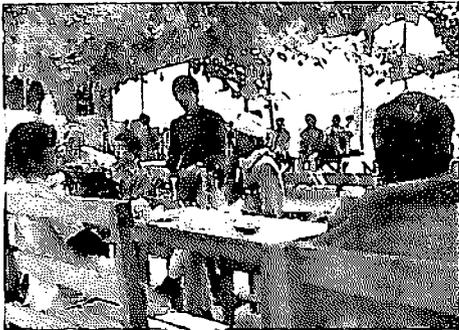
パーミアンの世界最長石仏



砂漠を走るバス



パンディアミル (なぞの湖)



ぶどうづるの棚のあるチャイハナ



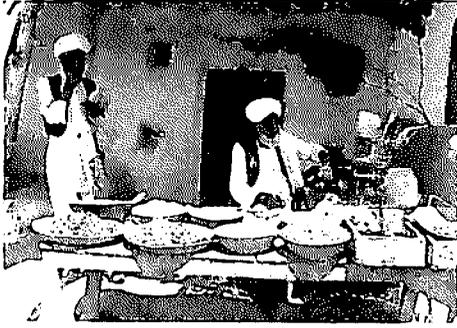
バザールで帽子をかう



バザールの風景



ケーブルの山と土の家



穀物を売る男たち



バンディアミル（湖）と遊牧民の子供たち

高村さんがはじめてだなあ。

吉田 あれはやっぱり、精神が清潔でノールだから歌えるということが言えますね。ちっともいや味がないですもの。

草野 だから高村さんの場合は「淫心」みたいな傾向の詩を書くことは、ごく自然なんだな。ちっとも淫心じゃないんだ。ごく当り前のこととして書いているわけだ。(座談会「光太郎の人間像」)

清潔でノールな精神で真実を書くから、ごく当り前のことになり、いやらしくなくなるのである。

西行の歌をもう少しあげよう

何事にとまる心のありければ更にしもまた世のいとほしき

花にそむ心はいかで残りけん捨てはてきてと思ふわが身に

行くへなく月に心の澄みすみてはてはいかにかならんとすらん

花みればそのいはれとはなけれども心のうちぞ苦しかりける

いづくにか眠りねむりて倒れ臥さんと思ふかなしき道芝の露

ともすれば月澄む空にあくがるる心のはてを知るよしもがな

西行の心がいきいきと追ってくるし、人間像が浮かんでくる。

詩人

いくら目隠をされても己は向く方へ向く。

いくら廻されても針は天極をさす。

首の座

麻の実をつつく山雀を見ながら、

私は今山雀を彫つてゐる。

これが出来上ると木で彫つた山雀が

あの晴れた冬空に飛んでゆくのだ。

その不思議をこの世に生むのが

私の首をかけての地上の仕事だ。

そんな不思議が何になると、

幾世紀の血を浴びた、君、忍辱の友よ、

君の巨大な不可抗の手をさしのべるか。

おお呑み難い親愛の友よ、

君はむしろ私を二つに引裂け。

このささやかな創造の技は

今私の全存在を要求する。

この山雀が翼をひろげて空を飛ぶまで

首の座に私は坐つて天日に答へるのだ。

詩人として、彫刻家としての面目躍如である。

「生活人としての歌人、詩人の系譜」を、西行と光太郎に見たのであるが、どうであろうか。

いうもの、清純高潔の生き方というものを最後まで持ちつづけたかれ」とか「高村の生きたあとのかくそや悲しみを見ると、聖人ということばがはじめてその顔をちらりと見せたことに気づく、このばかばかしいことばが何と近い仲間のおいだに存在していたことだろう。」と「我が愛する詩人の伝記」に書く。

聖人光太郎の極付がつく倫理的人間なのである。「高村光太郎その人は、先天的に、また本能的に、ヒューマニスティックな、そして求道的なものを身につけて生れてきた人だと思われぬ」と奥平英雄は「晩年の高村光太郎」にいう。「ヒューマニストといふモラリストといふ、どつちも愛の世界のなかでの現象ではあるが、矢張り大分ちがう。ヒューマニストでありまたモラリストであるという氏のような存在は稀である。氏の詩が倫理的な堅い冷たい光を発するのは氏のモラリストからきている。それは表現技術までにも影響している程強力なものである。……モラリストは真実に徹しようとする。従つて奥雑物や空明気は必要でなく、物のまんなかにはいろうとする。中心をつかめば余分は要らないとする。この傾向は氏の詩の表現方法にも直接現われている。」(光太郎の詩業)と草野心平は書く。「この詩(刃物を研ぐ人)をよむと、詩そのものの中から一人の求道者風なひとの姿が浮かんでくるが、そのように高村光太郎の美意識や人生的態度には、どことなくストイックな求道者風なところがあった。そしてここで研かれるのは刃物であり美の意識であり、そしてまた高村光太郎の芸術意欲であり人生的理念であった。」と伊藤信吉は鑑賞に書く。光太郎は「『草の葉』の詩としての価値はホイットマンの人間としての価値だ。『草の葉』は詩でないと考えてゐる人は、詩術と詩とについて再考せねばなるまい」(ホイットマンの事)と書き、人道的詩人の立場を明らかにしている。ホイットマンを論ずることを通して、光太郎がヒューマニストでモラリストであるということについては研究が沢山書かれているので、この辺で、それに譲る。

人生にも自然にも愛執深い出家西行。愛執は悟りの障害であることを知りながらたつことが出来ず、月や花の眺めを通して心を語る西行。彫刻の安全弁として詩を作り心を語る光太郎。一すじでありながら、ゆれ動くところがあり、そこに人間らしさが感じられる。

生得の歌人といわれる西行は、歌の推敲はしなかつたのではないかと思われ

る歌が多く、名歌ばかりともいえない。光太郎は不可避に詩をかく、やはり天成の詩人である。光太郎にあっては推敲もしたし、しない場合もあった。この点については「高村光太郎ノートその五詩稿検討」でふれたので、ここでは書かない。

旅。西行にあっては大きなウェイトをもつ。草庵生活と旅と、月と花と。こゝもまたわれ住み憂くて浮かれなば松はひとりにならむとすらむ。

しかし、一生浮浪の旅をしてはいたわけではない。光太郎は、米、英、仏と大きな旅をした。西行と違ふ芸術修業のための、文化吸収のためのものであった。この旅で得たもの、そしてその開眼は光太郎の一生を決定した。とすると、光太郎にとつても旅は大きなウェイトを持っている。

英の追求はどうであらうか。光太郎については前に書いた。西行も英に対するローマン精神が濃厚であった。だからこそ、月と花の詠が多いのである。

こうして考えてゆくと、西行と光太郎とは、相通じるものが多い。光太郎には、西行を私淑した芭蕉については詩も文も書いている。「旅にやんで」の十二行の詩も、「芭蕉寸言」もある。「東洋的新次元」にも「芭蕉は旅せずにはゐられなかつた。」と芭蕉にふれて書いている。しかし西行についての詩は見当らない。にもかかわらず、西行の系譜に属しているといつてよきように思われる。生活の歌、*生*の詩を作った点において。

「西行の実生活について知られている事実は極めて少ないが、彼の歌の姿がそのまま彼の生活の姿だったに相違ないとは、誰にも容易に考えられるところだ。天稟の倫理性と人生無常に関する沈痛な信念とを心中深く蔵して、凝滞を知らず、頓悟を知らず、俗にも僧にも囚われぬ、自在で而も過たぬ、一種の生活法の体得者だったに違いないと思う。」と小林秀雄は書く。私も全くそう思う。物のわかつた自由人だったと思う。光太郎も同様に何にも束縛されぬ自由人であり、物が見えていた。戦時下の詩についても、あの時、あの状況に置かれては、大衆とともである情報下では、物が見えていなかったとはいきれない。物が見え、真実を書くから、いや味が無い。

吉田 ぼくは「淫心」で詩、好きなんです。あれはいい詩ですよ。

草野 ああいうことがらをあのようなかたちで表現したというのは、やはり

たるかうれしきよとそてにとりつきたるをたくひなくいとをしくめもくれておはえけれともこれこそは煩惱のきつなとおもひて縁よりしもへけをとしたりければなきかなしみけれともみゝにもきゝいれずして中に入ぬ」(詞書第一段)とあり、実子への深い愛を物語る。

うなる子がすさみに鳴らす麦笛の声におどろく夏の昼臥し

石なごの玉の落ち来るほどなさに過ぐる月日は変はりやはする

我もさぞ庭のいさごの土遊びさて生ひたてる身にこそありけれ

入相のおとのみならず山ではふみよむ声もあはれなりけり

篠ためて雀弓はる男のわらはひたひまほしのほしげなるかな

西行七十、七十一才の作で十三首連作、題は「嵯峨に住みけるに、たはぶれ歌とて人々よみけるを」で、その中、二首は(A)(B)で挙げ、ここに五首掲げた。身辺の日常的な素材を平俗なことばで表現したものであるが、西行の幼時への追懐もさることながら、子供へのあたたかい眼が感じられる。

光太郎には実子はなかつたが、「をぢさんの詩」という詩集さえある。序に「この詩集は年わかき人々への小父さんからのおくりものである。小父さんは以前から童謡といふものを書かず、小さい人々にむかつてさへ听ういふ詩を書いていた。小父さんは自分自身の感激をそのまま、幼い人々や、男女青少年の方々にむかつて、自分自身の言葉でのべるより外の方法を知らなかつた。年とつた小父さんのいふことを、團伊真端でもきくつもりで読んでください。」(後略)と、子供への深い愛情がこめられている。

この小父さんはぶきようで

少年の声いろがまづいから

うまい文句やかはゆい唄で

みんなをうれしがらせるわけにはゆかない。

そこでお説教を一つやると為よう。

みんな集つてほん気できけよ。

まづ第一に毎朝起きたら

あの高い天を見たまへ。

お天気なら太陽、雨なら雲のゐる処だ。

あそこがみんなの命のもとだ。

いつでもみんなを見てあてくれるお先祖さまだ。  
あの天のやうに行動する、  
これがそもそも第一課だ。

えらい人や名高い人にならうとは決してするな。

持つて生まれたものを深くさぐつて強く引き出す人になるんだ。

天からうけたものを天にむくいる人になるんだ。

それが自然と此の世の役に立つ。

窓の前のバラの新芽を吹いている風が、  
ほら、小父さんの言ふ通りだといつてゐる。(少年に与ふ)

微笑ましい善意にみちた光太郎らしいお説教である。「をぢさんの詩」以後にも「春の一年生」「ばくも飛ぶ」「少年飛行兵」「少年飛行兵の夢」「少女戦ふ」「たのしい少女」「ほんとの力」「大東亜の子ども達よ」など書いているし、「青年」「純潔」「青春のうた」等、青年を深く愛する心を述べている。俗人的な物や名譽欲については、どちらも淡々としている。西行が頼朝から貰った銀の猫をすく門前の童にやってしまったという香妻鏡にある逸話。光太郎が展覧会に作品を出さず、昭和二十三年十月帝國芸術院会員に推されたが辞退したこと。相通じるものが感じられる。

西行は晩年まで、とにかく一生歌を作った。そして七十三才で二月十六日に死んだ。念願通りに。

願はくは花の下にて春死なむそのきさらぎの望月の頃

光太郎も昭和三十年十二月十九日に「生命の大河」を書き、翌三十一年四月二日、七十三年の生涯を閉じた。明治四十年の明星五月号に「秒刻」をのせて以来、一生詩を書いた。この点も似ている。

二人とも生活からにじみでる和歌や詩であるから、生活のあるかぎり、その創作はつづくのである。作品には、人間が、西行や光太郎の人間がにじみ出ていて、生き生きとして人の心に迫る。生き方は違つてはいるが、「生」ある人間がまざまざと表出され、魅力がある。出家で歌人、彫刻家で詩人、たしかに生き方は違つているが、その倫理性の点では又似ている。

小林秀雄は「天原の倫理性と人生無常に関する沈痛な信念」を西行にみた。ヒューマニスト、モラリスト光太郎、だからこそ犀屋も「巨大豪放の透明感と

語も(佐藤春夫の「小説智恵子抄」は含まない)また光太郎を引きすすえて怪い書生流の恋愛道中を点出した。かれらは何が面白かったのだ。なんのウラミがあつたのだ、なにを世間から受けさせるつもりで空騒ぎしたのだ。私はそれらの記述を新聞雑誌で読むごとに、うたた暗然として、聖人高村光太郎のために、いつも、こいつも叩きのめしてやろうかとさえ憤激一日として安きを得なかつた。その生涯の大きさと正実とをくしくも理想として抱いていたかれは、過失なくその大きさと逞しさ、その上に、こまかい鋭い人格完成をなしたげたのであるが、見世物の群衆はどんなわけからか彼の周囲に集まり、わいわい騒いだのであろうと私は思った。それは死んだ妻を恋うという一つの日本人が控え目にしていた現われを、光太郎は最後まで隠さなかつたからであつた。われわれ日本人は妻との情事はいつも死後も、これを草ふかき土中にうずめて悲しんでいた。ひとの前で語るべきではないという太極の上に立っていた。」と犀屋は書く。軽薄で興味本位の世相の反映が空騒ぎにあることは論をまたない。その上にいわせて貰うならば、詩に彫刻に輝かしい業績をあげたからこそ、世間は騒いだのである。こういう面も、あらわれ方は異なるが似ている。

「西行はおもしろくてしかもところに殊にふかくあはれる、ありがたく、出来しがたきかたもとに相兼てみゆ。生得の歌人とおほゆ。これによりて、おほろけの人のまねびなどすべき歌にあらず。不可説の上手なり」と歌人後鳥羽院は御口伝で、最上級の讃辞を与えておられる。「私にとつてはほとんど生涯の詩の好敵手であつた」という詩人犀屋は「かれは日本の詩というものでは、昇れるだけ昇りつづけた男であつた。」と讃辞を擡げている。同じく歌人・詩人とそれぞれをよく知るものによつて最高の讃辞を得ている点も似ている。表現のことはどうであらうか。

西行は俗語的発想も少くなく、専門歌人的な類型的な読み方をしなかつた点も注目しなければならぬ。素材・用語ともに自由な広がりを持っている。

竹馬を杖にもけふはたのむかなわらは遊びをおもひでつづ (A)

むかしせしかくれ遊びになりなばやかたすもとによりふせりつづ (B)

西行は武士の出であるから専門歌人のような王朝的な和歌の伝統を身につけなければならぬことはなかつたので、自分自身の生き方から生じる切実な感想を、日常的題材で、そのまま平俗な日常語で表わしたのである。順徳院が「ただ詞かざらずして、ふつふつといひたるがききよきなり」と評しておられる通り

りなのである。

光太郎も生きた言葉、それが詩語であるという。「五臓六腑のどきどきとあこがれとが訴へたいから／中身だけつままで出せる詩を書くのだ。／詩が生きた言葉を求めるから／文ある借衣を敬遠するのだ。」と「当然事」に書く。

「詩は眞の言語活動で書かれねばならぬ。衣を剥けば日常語即詩語である。詩は言葉の裸身である。」とも書く。これらの表現と内容はそっくり西行にもあてはまる。光太郎は「人のしやべる言葉をそのまま描出したところで、それは単なる模写に過ぎない。そのしやべる言葉の中から本能的に生きた言葉の語感を感じる事から始まるのである。其処に無限の深さとの確実とが生れる。其処に新鮮極まる詩が伏在する。」ともいう。そして「どんなに傷だらけでも出来るだけ今日の言葉に近い表現で詩を書かうと思つた。」と書く。そこで日常語、俗語、みな光太郎の手をくぐると磨かれて詩語となつてしまふ。

大きな囀

植木屋さんが大きな囀をする。

三階の屋根うらで聞いてゐると、

午前十時のおかるい冬の朝日が

もうがらんだの植木屋さんの広い庭に

霜よけの葎簾の影をちらちらさせてゐる中で

こだまする程大きな囀がかあんとひびく。

植木屋さんは口ぐせに

「畜生」とあとでいふ。

植木屋さんはもう鞋をはいて

松の手入れで梯子の上のつてゐる。

さうして時々かあんと大きな囀をする。

しづかな、かうかうと晴れた日だ。

「畜生」などというキタナイ言い草まで、生きてゐる。「丸善工場の女工達」

「はげもの屋敷」など、日常会話がいきいきと描出されている。

子供への関心も二人とも深い。西行物語絵巻によると、「……秋もまたのかれてこのくれの出家さはり無とけさせ給へと三宝に祈請申てやとへと掃ゆくはとにとし比たえがたくいとをしかりし四歳なる女子えんにいてむかひて父のき

つんぼのやうに黙りこむ。／小屋にゐるのは一つの典型、／一つの愚劣な典型だ。」(典型)と自己批判をする光太郎。孤独と内省は縁が深い。西行もまた内省的であった。小林秀雄はいう、「心理の上の遊戯を交えず、理性による烈しく苦がい内省が、そのまま直かに放胆な歌となって現れようとは、彼以前の何人も考え及ばぬところであった。」と。

ましてまして悟る思いははかならじ吾が歎きをばわれ知るなれば

まどひきてさとりうべくもなかりつる心を知るは心なりけり

心から心に物を思はせて身を苦しむる我身なりけり

如何に心をつめていたか、痛いほどわかる。

「高村さんは常に独りの人だった。この自由を守るためには何物とも妥協しなかつた。……世の中で、たつた自分ひとり、掛け値も見栄もなく、取組みあへる対象が「仕事」と「愛」と「反省思索」の外にあるか？高村光太郎の一生はこれであつた。一と高田博厚のいうごとく、孤独、自由の人であり、詩壇にも彫刻界にも同時代者との交渉を積極的に持たなかつた。「いまから二十年前『中央公論』が時の有為の詩人の作品をあつめるため、私に指名をもとめた時に先ず高村光太郎をすいせんした。しかし光太郎は『中央公論』のような大雑誌には詩は掲せたくないと言って断つた。そして、かれは名もない同人雑誌から頼まれた詩はこくめに書いて、同人費に該当する金を為替に組んで送りとどけていた。かれはそんな事に純潔を感じ喜びをおぼえ、さっぱりしたい気分を感じていたのだ。云々」(我が愛する詩人の伝記)と屎星は書く。中央詩壇、いな文壇にあえて進出しなかつた光太郎の佛を端的に物語っている。それでいて、同時代者の注目を何時も一身に集めていた。誰も無視できなかったのである。

西行も出家の身として、歌人群の域外にあつたものと思われる。しかし新古今和歌集撰進に当っては西行の歌の入集は九十四首を数え、最も多いのである。尾山篤二郎、川田順などの研究によれば、西行の歌友は、待賢門院の女房たち、大原の三寂、藤原俊成とその周辺が主で、当時の宮廷歌壇に勢力のあつた六条藤原家とは交渉がすくなかつた。俊成には、西行が晩年自撰の歌を各三十六首の歌合にした御裳溜河歌合の判を請うているし、又宮河歌合を定家に判を請うている。そこで、俊成門下及びその子の定家によって撰ぜられた新古今和歌集

には多数入集したのである。それに新古今和歌集の中心であらせられた後鳥羽院は非常に西行を高く評価しておられた。

西行の歌仲間が前述のように少数であつたが、親密であつた。そして俊成をめぐる若い寂蓮や藤原隆信、慈円などとの間に歌がかわされるようになったが、光太郎が「私は概して時代の老大家よりも真摯な青年層の方から良い教訓をうける。……葉舟、屎星、朔太郎、耿之介、柳虹等の諸氏は常に尊敬してゐた。

千家元廣、佐藤勲之助、宮崎丈二、福士幸次郎等の諸氏からも多く教えられ、又後もつと年若い友、尾崎喜八、高田博厚、片山敏彦、高橋元吉等の諸氏と親しくなるやうになつて大に啓発された。……後から来るものに教はる方が先人に教へられるよりも大きい。先人の教は凡そ筋が分つてゐる。未来の人の教は無限であり、発見である。其後もつと若い友、草野心平、黄瀬、坂本遼、岡本潤の諸氏からも強い刺激をうけ、其他列挙しきれない程多くの詩人からそれぞれ良いものを教はつてゐる。殊に宮沢賢治の如き稀有の詩人を知つた事は最大の喜であつた。」(詩の勉強)と書いたことを思い合わせる事ができる。

西行の歌人としての声価はその老年になつてから高まり、新古今撰集時代には歌聖としての待遇を受けている。光太郎は洋行帰りとして青年時代からその詩が有名になり、「道程」が大正三年刊行され、注目を浴び、一流詩人としての地位は確立したので、この点は少し違ふ。

西行は二十三才の時出家し、——その原因はいろいろ研究されているが、決定的な説が出る段階ではない、俗界を離れてその生活の詳細の不明なため、憧憬の理想のなかで描き上げられ、花と月を友とした悟りすました歌聖にまつり上げられ、かつ、フィクションによつて潤色を重ねられ、西行物語絵巻なども鎌倉時代に盛んに作られた。生前から伝説も生まれたようであるが、「古今著聞集」「撰集抄」のような仮託の説話集にまで記事がある。謡曲の「雨月」「西行松」「遊行柳」「江口」などの存在も西行の声価のあらわれである。光太郎もその没後、劇に映画に小説にブームを巻き起したことは記憶に新しい。「光太郎の死後、あらゆる統物娯楽と演出演劇がよつたかた、光太郎と智恵子をめちゃくちゃに見せ物にしてしまった。劇ではひげの生えた光太郎と智恵子とが恋を物語り、恥かしい場面を転換した。映画では見るのにしびないかれらの恋愛が、演出された。ラジオもまたそういう愚劣をくりかえした。小説物

連帯性も持ち前の性格だった。  
独居自炊。

人間と人間との可能性が光太郎のなかに渦巻く。

とある。お互に心の通いあった心平には光太郎の人間像が的確に把握されている。光太郎を「わが光太郎」と愛し、光太郎の詩を愛した心平が真実の「光太郎像」を詩にした「高村光太郎」は間違いないと思う。詩と作品と写真を通してしか知らぬ私も実際心平の詩のようなイメージを持っている。とすると、離群であつて離群でない二面性、いわゆる人間らしい矛盾を示す。心平は「光太郎の再評価」で「光太郎の詩は、そのほとんどの場合にも人間が顔を出す。顔をかくすことは全くないといつていいほど詩と作品は一如である。つまりいつてもその詩には人間存在が背景にある。」という。光太郎ほど人間くさい人間——俗臭はない——はないと思う。どの詩を見ても光太郎の人間がいきいきと語られている。こう見てくると僧西行と彫刻家詩人の光太郎と、人として通うものがあるように思われる。そして生活に即して作品を書くという根本態度は同じといつてもよいのではなからうか。

春の夜の夢の浮橋とだえて案に別るる横雲の空

定家

春風の花をちらすと見る夢は覚めても胸のさわぐなりけり

西行

右の歌を比較して見れば、審美家と生活人との歌の差がくっきり浮かぶ。春の夜の夢がさめた時歌人の感慨は、構築した美の世界に遊ぶか、素朴な自分の情感をそのまま正直に述べるか、によつてかくも歌境は違ふ。

「彼は歌の世界に、人間孤独の理念を新たに導き入れ、これを縦横に歌った人である。孤独は、西行の言わば生得の宝であつて、出家も遁世も、これを護持する為に便利だった生活の様式に過ぎなかつたと言つても過言ではないと思う。」と小林秀雄はその「西行」で書いているが、光太郎の離群性と通うのではなからうか。

吉野山やがて出でじと思ふ身を花散りなばと人や待つらむ

花も散り人も都にかへりなば山寂しくもならむとすらむ

寂しさに堪へたる人の又もあれな庵ならむ冬冬山里

俗と離れながら人を意識するのは、それだけ一層西行は「人間孤独」の思いを切実にしていたのであり、それをさまざまにかくすことなく折にふれ歌つた

のだ。離群性と自認する光太郎の意識は人間を離れないからで、やはり孤独をかみしめていたのだと思う。

孤坐

物すこい深夜の土砂降りが家をかこむ

鼠も居ない落莫の室にひとり坐つて

彫りかけの木彫りの鯉を押へてゐる

掌は鱗にふれて不思議につめたたく

そこらの四限にそこはかとなく

身に迫るものがつまつて来る

鯉の眼は私を見てゐる

私は手を離さず息をこらし

夏の夜ふけの土砂降りに耳を傾ける

どこか遠い土地に居るやうな気がする

現世でないやうな気がして来る

智恵子はゼームス坂病院に入院中、文字通りアトリエにたったひとり、鯉を彫っていたのである。人は勿論、鼠すら音もさせぬ孤独。駒込林町のがらんとしたアトリエの土砂降りの夜。「ばけもの屋敷」「お化屋敷の夜」のあのアトリエ。「独居自炊」の舞台なるアトリエ。その孤独の生活を書く詩に、感傷性をにじませないだけ、一層人の心をゆるする。偽りのない真実の生活が鮮やかに浮き彫りにされているからである。西行の歌が偽らざる心の告白であると同じように、光太郎の心がそこにある。

光太郎の「独居」にはじまる離群の生活は、終戦後の太田村山口の自己流論の山居に極まる。「人生飢餓」の「雪女はつひに出ない。／雪はふぶいて小屋をゆすり、／雪片ほしいまに頬をうつ。／彫刻家は炉辺に孤坐して大火を焚き、／わづかに人体飢餓の心に堪へる。／強迫は天地にみちる。」とさすがに彫刻家としての苦痛をうったえる独居である。「山荒れる」もまた、「孤坐」の土砂降りどころではない凄さ。「山はもみくちやに縋毛立ち、土砂降りの底に小屋がある。／畑は川だし、井戸はうなる。……太田村字山口のみじめな果に／空風火水が今日は荒れる。／嵐は四元に解放せられ、／嵐はおれを四元にかへす。」と自然の重圧下の孤坐である。「今日も愚直な雪がふり、／小屋は

まれる」と思うからこそ、「自然に深く根ざし、自己の内に此の人類の絶えな  
い泉の意味を明らかに強く感得した芸術家の芸術だからこそよいのである。此  
が芸術の価値の根本義である。」のことばとなるのである。美のための構築に  
よるのではなく、自然と不可避に詩は生まれるのである。「己は己だ」であり、  
「己の通りな芸術を作る」のである。光太郎の心をくぐると、あたり前の事が、  
新鮮な美をもたらす。「当然事」のような詩まで書かれる。

「詩とは文字ではない、言葉である。／言葉とはロゴスではない。／アクト  
である。」と。「生」と「アクト」ここに光太郎の詩の秘密がある。「生活人」  
として詩を書いた光太郎には、いわゆる審美家としての詩のないことが、これ  
ではつきりする。

新古今和歌集の歌人には審美家として歌を詠んだ人が多い。新古今代表歌人  
の一人藤原俊成の

春の夜は併ばの梅をもる月の光も旅る心ちこそすれ  
夕されば野辺の秋風身にしみて鶉鳴くなり深草の里  
の歌の幽玄美。

同じく藤原定家の

梅の花にほひをうつす袖の上に軒もる月の影ぞ争ふ

見たせば花もみちもなかりけり浦のとまやの秋の夕暮

の歌の有心の美。この二大審美歌人の歌の趣、歌の俤は、当然光太郎の詩には  
見られない。この二人は新古今調の代表者。

俊成はひたすら幽玄の美を求めた。新古今集の撰者の一人で、俊成の子、定  
家は俊成の幽玄をさらに発展させ、有心を重んじた。伝統としていわれている  
心有る歌、真情やまことのある歌で、余情があり、妖艶美のある歌を詠んだ。  
巧緻妖艶すぎて、後鳥羽院が、定家の歌はすぐれているが心有る歌ではないと  
仰せられるような歌風である。

この二人で代表される余情を重んじる象徴主義の歌は、芸術的に巧緻を極め  
るようになり、体言止、本歌取、句切れなどなどで技巧がこらされる。

定家以外の撰者・源通具・藤原有家・藤原家隆・藤原雅経等それぞれに特徴  
はあるものの、大すじでは、俊成又は定家の風に近いから、割愛する。

新古今和歌集選進の院宣をお下しになった後鳥羽院、隠岐で切り継ぎをなさ

れ隠岐本をのこされ、親撰とさえいわれているし、すばらしい御歌を沢山にお詠  
みになつて後鳥羽院の御歌風は俊成風に近い。後鳥羽院は俊成や西行の歌  
風を重じておられる。入集歌の多い慈鎮・藤原良経・式子内親王、初め選者で  
あり、早くなくなった寂蓮等々、注目すべき歌人は多々あるが、新古今調を醸  
成する歌人ばかりである。光太郎とは違い。

新古今調醸成に大役を果たしながら、新古今の他の歌人と肌合の異なる人が一  
人ある。それは西行である。生活人の歌を作った異色の歌人。生活人の内容は  
光太郎と西行とは違うが、その作歌・作詩の態度は相通うものが見出される。  
光太郎はあくまで「ほんとうの生」と「美」を追求する生活人であった。光  
太郎の詩は光太郎の生活が鮮やかに書かれている。西行も生活に即した歌を詠  
み、生活の断片が生き生きと歌に表出されている。西行は自然を愛し自然に没  
り自然を詠んだが、自然を描写したのではない。自然を通して、自分の偽らざ  
る感情を吐露したのである。

春になる桜の枝は何となく花なけれどもむつまじきかな  
物思ふ心のたけぞ知られぬ夜な夜な月を眺めあかして

この歌と前掲の赤人の歌を比較してみれば一目瞭然である。生得の歌人西行は  
俗を離れながら、人間を離れなかった。だからこそ生活人の歌を作ったのだ。

光太郎は離群性を持ちながら、光太郎にひかれ、寄ってくる人を決定的に拒  
みはしなかった。自由人として束縛を受けぬ限りにおいて。

草野心平の詩「高村光太郎」の中に

ある人は隠棲といひ。

本人は「生来の離群性はなおりそうもないが」といふ。

半分はそうであり半分はそうでない。

公民館。図書館。音楽堂。(も村に欲しい。)電気も村の自家発電。

ホームスパンや酪農もすすめたりする。小学校の演壇にもたつたりする。

やがては「世界の人等と短波をかわして」ポランの広場にしたいと思う。

メトロポールにしたいと思う。

離群性も持ち前の性格だったが。

体言止、本歌取、句切れ等々、修辭のすべては巧みに幽玄の美を醸成する。如何に苦心して作ったか、いろいろのエピソードが伝えられている。

光太郎は美を求める心が強かった。「美に生きる」に

一人の女性の愛に清められて

私はやつと自己を得た。

言はうやうなき窮乏をつづけながら

私はもう一度美の世界にとびこんだ。

生來の離群性は

私を個の鍛冶に専念せしめて、

世上の葛藤にうとからしめた。

政治も経済も社会運動そのものさへも、

影のやうにしか見えなかつた。

智恵子と私とただ二人で

人に知られぬ生活を戦ひつづ

都會のまんなかへ蝸居した。

二人で築いた夢のかずかずは

みんな内の世界のものばかり。

検討するのも内部生命

蓄積するのも内部財宝。

私は美の強い腕に誘導せられて

ひたすら彫刻の道に骨身をけつづた。

とあり、「手紙に添へて」には「世界は不思議に満ちた精密機械の仕事場／あなたの足に未見の美を踏まずには歩けません／何にも生きる意味の無い時でさへ／この美はあなたを引きとめるでせう／たつた一度何かを新しく見てください／あなたの心に美がのりうつると／あなたの眼は時間の真空間の外をも見ます／どんなに切なく辛く悲しい日にも／この美はあなたの味方になります／仮りの身がしんじつの身に変ります」と、自分の体験をもとにしたような詩句がある。智恵子と一緒の窮乏の日も、智恵子の病氣の日も、死別後も、切なく悲しい時にも美は光太郎の味方であり、時間の裏、空間の外をも見、しんじつの生活をしていたからこそ、この詩が生まれ、人の心をうつのである。

「ばけもの屋敷」でも「主人はただ蝸居の美に生きた。」と書く。美の追求者であり、美の獲得者であり、美の表現者であった光太郎。「美」を離れては、光太郎は考えられない。

「美を見る者」には「この世の美からは逃げられない。／首をかけても、／この世の美からはどかれぬ。」と書く。詩を書くことが不可避であるごとく、美からも不可避なのである。戦争詩の中にさえ「美」は書かれる。「美しきものわれらの天地に満ち。／天に春夏秋冬の次第あり、／地に山林清泉の潤沢あり、／われらが伝統世々その美を濟す。／されば美は皇國の精髓にして／一億の十気これによつて昂る。／われら愈烈しき戦の日に美をすてず、／夜を日につぎて勤勞の汗にまみるる時、／國民悉く非常措置に座を蹴つて起つ時、／日本の美きよらかにして高き力となり、／われら美を負ひて戦ふ。……」（美をすてず）と。

「美は到るところに在る。美は又到るところに創り得る。」という言葉にあらる考え方が、その詩の到る所に表出されているのであるが、「到るところに創り得る」は芸術至上主義・唯美主義・耽美主義というものと光太郎は結びつけていない。「事物のありのままの中に美は存するのである。美は向うにあるのではなく、こちらにあるのである。」ので、美は到る所、ありのままの中に客観的に存在するが、それはこちらが主観的にとらえて、はじめて「美」の存在がはっきりかにされるのである。主体的な美の把握によって、普通の「美」は「美」としての存在を得るのであると光太郎は考える。だから「美の力とは結局美を認める力である。美は決して客観界に独り離れて存在して居ない。それゆゑ美を認める力の無い時、この世に美は存在しない。」と書くのであり、「美」を創るとは「美」を認めることなのである。芸術至上主義とか、唯美主義・耽美主義とかは、光太郎としてはとらないのである。

光太郎は「自分の芸術は自分である。自己の人生観・世界観の歩みからのみ発足するものである。詩はほんとの「生」から生まれる。」との詩観に基づいて詩を書く。「詩の本質は、その詩全体が人を打つて来る不可避不可抗の感動力であつて、」と詩の本質を規定する。人間の真情——人間の心の奥の真実の声、詩精神によって詩は生まれる、不可避に生まれるものであると思う光太郎の詩が、唯美的には作られるはずがない。「詩はほんとの「生」から生

常識的な詩をふみこえぬつまじさ。光太郎のヴェルハーレン的な情熱、当時の日本としては大胆な表出。やはり違ふ。

子への愛は自身の子を持った億良と、実子を持たなかった光太郎とでは当然違ふ。「子等を思う歌」でも「老身重病年を経て辛苦す、及び兒等を思ふ歌七首」でも「男子名は古日を恋ふる歌三首」でも億良の親馬鹿に近い痛切な真情がこめられている。光太郎は詩集「をちさんの詩」などに子供に対する愛情がこめられているが、億良のような盲目的な愛情はうかがえない。

俗情を顧慮せず、純粋な俗情を詠む億良、俗情にまどわされることなく独自の境地をあからさまに書く光太郎。億良の系譜とはいえない。

家持はどうであろうか。武人大伴家の部族の長としての「海行かば」のような歌はさておき、たをやめぶりへと傾く家持、頽廢の美すら感じさせるその歌

春の野に霞たなびきうら悲しこの夕かげに鶯鳴くも  
わが屋戸のいささ群竹吹く風のかそけきこの夕かも  
うらうらに照れる春日に雲雀あがり情悲しも独りしおもへば

このような趣を光太郎の詩の中に見つけだすことはできない。繊細な、優雅な、感傷的な、美しさは光太郎の詩にはない。

家持は相聞の歌も沢山詠んでいるが、光太郎のようにひたむきに「智恵子」一人にしぼったのではなく、妻・坂上大嬢への熱烈な相聞歌のほか、他の女性への多彩な相聞歌や挽歌がある。

田辺福麿呂、笠金村、等々あげて比較すべき歌人はあるが、取り上げるまでもないように思うので割愛する。なほ、額田王、坂上郎女など一流の女流歌人も取り上げなかった。割愛した歌人の中に、まだまだ検討の余地はあろうが、今回は主なる男性歌人に限ってみた。

○古今和歌集の歌人と光太郎

古今和歌集は、定家の貞応本では千百首、愚滅歌十一首、(重出のものをとると十首)の歌がのせられている。歌数の多い順にあげると、紀貫之百二首、

凡河内躬恒六十首、紀友則四十六首、素性法師三十六首、壬生忠岑三十五首、

在原業平三十首、伊勢二十二首、藤原敏行十九首、小野小町十八首、清原深養

父十七首、僧正遍昭十七首、藤原興風十七首となる。撰者の貫之、友則、躬恒、

忠岑の歌を合すると、全体の二十二名をしめる。それで、撰者をまずあげねばならないだろうし、さらに歌仙に数えられる僧正遍昭、在原業平、文屋康秀、

僧喜撰、小野小町も考えねばならぬかもしれない。しかし一人一人当ってみるまでもなく、古今調がどういふ調べを持つていのかを考慮することで片づくように思う。歌仙を含む読人知らずの歌を中心とする前期の調べ、撰者を中心とする後期の調べとは全く同一とはいえないが、全体として、感情を率直に歌うのではなく、婉曲に、優雅に、機知をもって表現し、優美都雅、理知的な技巧美を最上とする趣の歌といつてよいのではないか。藤原俊成の「理つよし・をか

し・ありがたし」といふ評の古今の歌。万葉のますらをぶりに対してたをやめぶりといわれる歌の姿、掛詞・縁語などの修辭技巧、人生的な歌でないこと、等等を考えると光太郎の詩とは縁が遠いと思われる。人生を直視して真剣に詩をかいた光太郎のどの詩を思い浮かべても古今の調は見出せないように思う。

念のため撰者の歌をあげてみよう。六歌仙のうち業平と小町のも。  
袖ひちてむすびし水のこほれるを春立けふの風やとくらむ 貫之  
やどりして春の山べにねたる夜は夢の内にも花ぞちりける 躬恒

春の夜のやみはあやなしむめの花色こそみえねかやはかくるる 躬恒  
心あてにおらばやおらんはつしものおきまどはせる白菊の花 友則

久方のひかりのどけき春の日にしづ心なく花のちるらむ 友則  
たがための錦なればか秋ぎりのさはの山べをたちかくすらむ 忠岑

はるきぬと人はいへども鶯のなかわかぎりはあらじとぞ思ふ 忠岑  
久方の月の桂も秋は猶もみぢすればやてりまさるらむ 業平

月やあらぬ春やむかしのはるならぬ我身ひとつはもとの身にして 業平  
ねぬるよの夢をはかなみまどろめばいやはかなにもなりまさるかな 小町

思ひつつぬればや人のみえつらん夢と知りせばさめざらましを 小町  
いろみえでうつるふものは世の中の人のころの花にぞありける

○新古今和歌集の歌人と光太郎

新古今和歌集の歌は一番芸術的に、美的に、詠むというより構成してあると思う。余情妖艶の体を重んじる象徴主義、ひたすら幽玄の美を求めて、巧緻な

技巧を駆使する。幽玄、有心、ある意味で最高に洗練された美を歌に表現した。

はまだある其処にゐる／あなたは万物となつて私に満ちる」と書く。「もしも智恵子が」では智恵子といっしょの山居の生活を描き、「元素智恵子」の結びは「元素智恵子は今でもなほ／わたくしの肉に居てわたくしに笑ふ。」である。「智恵子は死んでよみがへり、／わたくしの肉に宿つてここに生き、」のであるから「山林孤棲と人のいふ／小さな山小屋の棚が裏に居て／ここを地上のメトロポールとひとり思ふ」の「メトロポール」の詩が生まれる。「裸形」「案内」「吹雪の夜の独白」と何時も智恵子の佛が生き生きと浮かび、夢までも楽しい「噴霧的な夢」となる。そして「智恵子と遊ぶ」のである。じめじめと涙することはない。

旅人の妻恋の情と、光太郎の智恵子思慕とはかくも違う。旅人は大宰府での妻との死別を嘆きあれほど望んでいた都に還れる喜びも妻亡き帰路は悲しく、「天平二年庚午冬十二月 大宰帥大伴卿 京に向ひて上道する時、作る歌五首」があり、そのうち二首は前に掲げた。帰郷すれば、さらに悲しみがこみあげる。「故郷の家に還り入りて、即ち作る歌三首」がある。

人もなき空しき家は草枕旅にまさりて苦しかりけり  
妹として二人作りしわが山簷は木高く繁くなりけるかも  
吾妹子が植ゑし梅の樹見るところ明せつつ涙し流る

家にも、庭にも、庭木にも、何を見ても妻の佛が浮かぶ。そして妻を思い、涙する。帰郷の喜びは歌われない。望郷の念が強く吐露されていただけ、望がかなって都に帰れた喜びは深いはずだが、喜びを分つ妻のいない事は耐えがたく、亡妻を思う心の方が強い純情の旅人。

涙する純情と、心の中に何時までも生かしておく純情。その真情を歌や詩に吐露する点は似ているが、傾向は違う。

人事詠の山上憶良。人生の現実を直視し、思想的な歌を作った人生派の歌人である。儒教思想の深い影響のうかがわれる思想的傾向をもつヒューマニスト。現実的であり、道徳的であり、子供を中心として家庭を愛し、父母を敬愛する極めて温かい人間であった。家、肉親への愛にとどまらず、「貧窮問答」の示すごとく庶民に温情を傾けた。役人として知った庶民の現状の窮乏に深く同情したからこそ「貧窮問答」の貧者窮者の実状―惨状であるが―はまざまざと描かれ、その深い嘆息が、読む者の心に迫るのである。庶民の苦悩に苦悶した温

情は永遠に生きている。

光太郎にも通じる面は、ヒューマニストであること、人間を、人生を直視して作品を書いたこと、偽らざる真情を吐露したことである。が、憶良の系譜とはいきれない何物かがある。

憶良は役人であった。高級官僚にはなり得なかったが、大宝元年正月遣唐少録として中国に渡り、靈龜二年には伯耆守、養老五年東宮侍講、天平初年筑前守となつてゐる。出世もしたいし、仕事もしたいし、子供も妻も可愛いし、だから貧も辛いし、いわゆる普通人の面を多く持った人であつたと思う。

士やも空しかるべき万代に語りつぐべき名は立てずして

富人の子どもの著る身なみくたし捨つらむ粗糲らはも

あらたへの布衣をだに著せがてにかくや歎かむせむすべをなみ

若ければ道行き知らじ幣は為む黄泉の使負ひて通らせ

など、有名な歌がそれを示している。光太郎は一生、自由人であり、在野であつた。素晴らしい会心の彫刻は作りたいた願うが、名譽や富は求めない。求めようとすれば、すぐ手のとどく所にあるのに、手を出そうともしない。だから、

貧として「高村光太郎ノトその九」で書いたように「へんな貧」であり、類のない不思議な倫理的人間・芸術家の不思議な「貧」であり、憶良の歌つた現実的な辛い貧苦ではない。困窮となつてもその生活は苦しかったからこそ庶民の窮には理解深く同情したからこそ「貧窮問答歌」が生まれ、「老身重病年を経て辛苦す、及び兒等を思ふ歌七首」が老年に書かれるのである。「……老いにである わが身の上に／病をと／加へてあれば／屍はも／喚かひ群らし／夜はも／息衝きあかし／年長く／病みし渡れば／月累ね／憂へ吟ひ／こととは／死ななと思へど／五月蠅なす／騒ぐ兒どもを／打棄てては／死は知らず……思ひわづらひ／哭のみし泣かゆ」と死ぬ気持にさえなれぬ追いつめられた心情のべ、反歌六首の中に貧と子供を思う前述(2)(3)の歌が、又「術も無く苦しうあれは出で走り去ななと思へど兒らに障りぬ」の歌が書かれるので、憶良にとつて「貧」は現実的な辛いものであり、それゆえにこそ一層子供への愛は強くなつたのである。

憶良の妻への愛は「憶良らは今は罷らむ子泣くらむそを負ふ母も吾を待つらむぞ」となる。光太郎は「智恵子抄」で真情をぶちまける。憶良の隠やかさ、

# 高村光太郎ノート

その十

—生活人としての詩人の系譜—  
—西行と光太郎と—

井田康子

歌人としての光太郎は明星派の系譜の人である。詩人としては光太郎は独自の開眼をしたのであるから先人はない。「パリで成るフランス女性と語学の交換教授をする事になり、私はフランスの詩の暗誦によつて学んだ。ヴェルレーヌの「屋根の上に空あり」も其時初めて知つた。ポオドレエルには殊に驚いた。その美術批評を読む必要から彼のものを書き始めたのだが、此の自己全存在を擲つての作詩態度にひどく打たれた。曾て日本で見聞してゐた先輩詩人達の作詩態度とまるで違つてゐるのに気づいた。筆のさきや、才力や、感受性だけで美辞麗句を並べたり、感懐を述べたりしてゐる事のくだらなさを痛感した。詩とは听ういふものだとポオドレエルに見せられたやうに思つた」(詩の勉強)のであるから、日本に於ける先人はないといつてよい。光太郎に私淑する後人はあつても。「詩」のジャンルは明治以後のものではあるし、前述の光太郎の言からも、先人は考えられない。しかし、沢山の歌人、俳人のなかに、以つた型はないと断言しうるであらうか。今回は万葉集・古今和歌集・新古今和歌集の主なる歌人の中に求めてみた。

○万葉集の歌人と光太郎

率直に真情を歌つた万葉人の中には、光太郎と通う歌人もありげに思われるが実際にはどうであらうか。

歌聖柿本人麿を無視できないので、先ず掲げたが、光太郎はこの人の系譜ではない。荘重な調べ、巧みな勿体ぶつた構成と修辞。光太郎の詩にはない。宮廷歌人である人麿と、野の人で通した光太郎と、その作品が異質であるのは当然である。

然である。

「又、山の辺のあか人といふ人ありけり。哥にあやしく、たへなりけり。人丸は赤人がかみにたゝむ事かたく、あかひとは人まろがしもにたゝむことかたくなむありける。」であるから山辺赤人を考えてみる。

若の浦に潮満ち来れば鴻を無み葦辺をさして鶴鳴き渡る

み吉野の象山の際の木末にはこども騒く鳥の声かも

ぬば玉の夜の更けゆけば久木生ふる清き河原に千鳥しばなく

これらの歌の素材の自然の占める重さ。絵画的で端正な美しさ。心象は形象化されている。これらの傾向は光太郎の詩に求めることはできない。

桜田へ鶴鳴きわたる年魚潟潮干にけらし鶴鳴き渡る

何所にか船泊てすらむ安礼の崎榜きたみ行きし棚無小舟

高市の黒人の歌の趣も光太郎の詩にはない。高橋虫脩は叙事的長歌、勿論論外といえよう。

「贖酒歌」はじめ、風流遊問の歌を作つた大伴旅人、貴族的な旅人はどうであらうか。寂寥、憂愁の逃避としての作歌。その風流と虚構と幻想とは心をとらえる。大宰府にあつては歌老と望郷と、そして亡妻思慕を歌つた純情旅人。

妹と来し鞍馬の崎を還るさに独りして見れば涕ぐましも

往くさには二人吾が見し此の崎を独り過ぐれば情悲しも

亡妻を思い涙する純情は、智恵子を思う光太郎と通うものがあるが、その思いかたの質は違ふ。

死しても智恵子は光太郎の心の中では生きていた。「亡き人に」には「あなた